

# 授 業 概 要

平成26年度

1 年 次 生

2 年 次 生

3 年 次 生

群馬医療福祉大学 看護学部

〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡787-2

TEL 0274-24-2941

FAX 0274-23-4160

群馬医療福祉大学看護学部看護学科

	授業科目の名称	配当年次	単位数		備考		授業科目の名称	配当年次	単位数		備考		
			必修	選択					必修	選択			
一般教養領域	1. 哲学	1	1			看護関連領域	43. 人体構造機能学Ⅰ	1	1		養1		
	2. 法学（日本国憲法を含む）	1		2	養1・2		44. 人体構造機能学Ⅱ	1	1				
	3. 基礎演習Ⅰ	1	2		養1		45. 人体構造機能学Ⅲ	1	1		養1		
	4. 基礎演習Ⅱ	2	2		養1		46. 人体構造機能学Ⅳ	1	1				
	5. 専門演習Ⅰ	3	1		養1		47. 人体構造機能学Ⅴ	1	1				
	6. 専門演習Ⅱ	4	1		養1		48. 疾病・治療論総論	1	1				
	7. ボランティア活動と自己省察	1	1				49. 疾病・治療論各論Ⅰ	1	1		養1		
	8. 論語	1	1				50. 疾病・治療論各論Ⅱ	1	1				
	9. 人間の心理	1	1				51. 疾病・治療論各論Ⅲ	2	1				
	10. 論理学	1		1			52. 疾病・治療論各論Ⅳ	2	1				
	11. 社会学	1		1			53. 疾病・治療論各論Ⅴ	2	1				
	12. ヘルスカウンセリングの原理と方法	2		1	養1		54. 微生物学	1	1		養1		
	13. 文学論	4		1			55. 生化学	1	1		養1		
	14. 芸術論	4		1			56. 栄養学	1	1		養1		
	自然科学系	15. 経済学	2		1			57. 病理学	1	1			
		16. 化学	1		1			58. 臨床薬理薬物論	1	1		養1	
		17. 物理学	1		1			59. 公衆衛生学	2	1		養1・保	
		18. 住環境福祉論	2		1			60. 疫学・保健統計の基礎	2	2		養1・保	
		19. 情報処理演習	1	1			養1・2	61. 疫学・保健統計の実際	3		2	養1・保	
		20. 統計の基礎	1	1			養1・2	社会科学系（保健医療福祉）	62. 看護関連法規	3	1		
	21. 生活科学	1		1			63. 社会保障制度		2	1		保	
	22. 教育と学習の原理	2	2		養1		64. 社会福祉制度		2	1		保	
	23. 教育心理学	2		1	養1		65. 医療と倫理		2	1			
	24. 教育方法論	2		2	養1		66. 看護と医療過誤		4	1			
	25. 健康教育論	2		1	養1		67. チーム医療論		4		1		
	26. 教職概論	3		2	養1		68. リハビリテーションの基礎		2		1		
	27. 教育課程論	3		1	養1		69. 保健医療福祉政策論		3		2	保	
	28. 道德教育研究	1	2		養1		小計			42	43		
	教育学系	29. 生徒指導論	3		2		養1						
		30. 教育相談論	4		2		養1						
		31. 教職実践演習	3		2		養1						
		32. 教育総合実習Ⅰ	4		2		養1						
		33. 教育総合実習Ⅱ（養護実習）	4		2		養1						
		34. 健康障害児・生徒支援論	3		1		養1						
		35. 教育社会学	3		2		養1						
		外国語	36. 基礎英語	1	1			養1・2					
			37. 医療英語	1			1	養1・2					
			38. 医療英会話	2			1						
	39. 韓国語		4		1								
	スポーツ科学	40. スポーツ科学原理	1	1			養1・2						
		41. スポーツ演習	1		1		養1・2						
		42. レクリエーション活動援助法	2		1								

授業科目の名称		配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称		配当 年次	単位数		備考
			必修	選択					必修	選択	
看護学領域	基礎看護学	70. 看護学概論Ⅰ	1	1	養1	在宅看護学	110. 在宅看護学概論	2	1		
		71. 看護学概論Ⅱ	1	1			111. 在宅看護援助論	2	2		
		72. 看護方法論Ⅰ	1	1			112. 在宅看護援助技術	2	1		
		73. 看護方法論Ⅱ	2	1			113. 在宅看護学実習	3	2		
		74. 基礎看護援助技術Ⅰ	1	1	養1	114. 訪問看護ステーション等経営管理論	4	1			
		75. 基礎看護援助技術Ⅱ	1	1		公衆衛生看護学	115. 地域看護学概論	2	1		保
		76. 基礎看護援助技術Ⅲ	1	1	養1		116. 地域看護学活動論	2	2		養1・保
		77. 基礎看護援助技術Ⅳ	1	1			117. 公衆衛生看護学原論	3	1		保
		78. 基礎看護援助技術Ⅴ	2	1			118. 公衆衛生看護活動論Ⅰ	3	2		保
	79. 看護論	1	1		119. 公衆衛生看護活動論Ⅱ		3	2		保	
	80. 看護基礎実習Ⅰ	1	1	養1	120. 公衆衛生看護活動論Ⅲ		4	2		保	
	81. 看護基礎実習Ⅱ	2	2		121. 公衆衛生看護管理論		4	1		保	
	精神看護学	82. 精神看護学概論	1	2	養1		122. 産業保健論	3	1		保
		83. 精神看護援助論Ⅰ	1	1	養1		123. 養護概説	3	2		養1
		84. 精神看護援助論Ⅱ	2	1		124. 学校保健活動論Ⅰ	3	1		養1・保	
		85. 精神看護学実習	3	2		125. 学校保健活動論Ⅱ	3	1		養1	
		母性看護学	86. 母性看護学概論	2	1		126. 公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域実習)	4	3		保
	87. 母性看護援助論Ⅰ		2	1		127. 公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健実習)	4	1		保	
	88. 母性看護援助論Ⅱ		2	1		128. 公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健実習)	4	1		保	
89. 母性疾病論	2		1		統合分野	129. 施設・病棟統合実習	3	2		養1	
90. 母性看護学実習	3		2			130. 看護活動におけるメンバー・リーダーシップ	3	1		保	
小児看護学	91. 小児看護学概論	2	1	養1		131. 感染・災害看護と危機管理(国際協力含む)	4	1			
	92. 小児看護援助論Ⅰ	2	1	養1		132. 看護学教育論	4	1			
	93. 小児看護援助論Ⅱ	2	1			133. クリティカルケア特論	4	1			
	94. 小児看護援助論Ⅲ	2	1			134. 家族援助論	4	1			
	95. 小児看護学実習	3	2	養1		135. 看護研究概論	3	1			
成人看護学	96. 成人看護学概論	1	1			136. 看護研究方法論	4	1		養1・保	
	97. 成人看護援助論Ⅰ	2	1			137. 看護研究セミナー	4	1		養1・保	
	98. 成人看護援助論Ⅱ	2	1		小計		69	20			
	99. 成人看護援助論Ⅲ	2	1		合計		111	63			
	100. 成人看護援助論Ⅳ	2	1		合計 必修科目数90 必修単位数111 選択科目数47 選択単位数63 卒業要件 必修科目数90 必修単位数111 選択科目数47 選択単位数13 総合計 単位数124 ※保健師免許取得希望者は、「保」の記入科目全ての単位を修得すること ※養護教諭一種免許取得希望者は、「養1」の記入科目全ての単位を修得すること ※保健師免許取得者で養護教諭二種免許取得希望者は「養2」の単位を修得すること						
	101. 成人看護援助論Ⅴ	2	1		卒業要件 1. 「一般教養領域」「看護関連領域」「看護学領域」の必須90科目、111単位を修得すること。 2. 「一般教養領域」(人文社会科学系・自然科学系・教育学系・外国語)と「看護関連領域」の選択科目から各2単位以上の計10単位、「看護学領域」の選択科目から3単位以上を修得すること。 3. 必須111単位、選択13単位の合わせて124単位修得を卒業要件とする。 4. 養護教諭一種免許取得を希望する者は、上記の1.2.3.の要件を充たした上に、「養護教諭一種免許課程」に基づき、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目8単位、養護又は教職に関する科目7単位、教職に関する科目21単位を履修すること						
	102. 臨床看護学実習Ⅰ(成人老年・慢性期)	3	2								
	103. 臨床看護学実習Ⅱ(成人老年・急性期)	3	4								
高齢者看護学	104. 高齢者看護学概論	1	1								
	105. 高齢者看護援助論Ⅰ	2	1								
	106. 高齢者看護援助論Ⅱ	2	1								
	107. 高齢者看護援助論Ⅲ	2	1								
	108. 高齢者看護学実習Ⅰ(老人保健施設等)	3	2								
	109. 高齢者看護学実習Ⅱ(医療施設等)	3	2								

# 目 次

## 授 業 内 容

哲学	1
基礎演習Ⅰ	2
ボランティア活動と自己省察	4
人間の心理	5
論理学	6
化学	7
物理学	8
情報処理演習	9
統計の基礎	10
生活科学	11
道徳教育研究	12
基礎英語	13
スポーツ科学原理	14
人体構造機能学Ⅰ	15
人体構造機能学Ⅱ	16
人体構造機能学Ⅲ	17
人体構造機能学Ⅳ	18
生化学	19
看護学概論Ⅰ	20
看護学概論Ⅱ	21
基礎看護援助技術Ⅰ	22
基礎看護援助技術Ⅱ	23
法学	24
論語	25
社会学	26
医療英語	27
スポーツ演習	28
人体構造機能学Ⅴ	29
疾病・治療論総論	30
疾病・治療論各論Ⅰ	31
疾病・治療論各論Ⅱ	32
微生物学	33
栄養学	34
病理学	35
臨床薬理薬物論	36
看護方法論Ⅰ	37
基礎看護援助技術Ⅲ	38
基礎看護援助技術Ⅳ	39
看護論	40
看護基礎実習Ⅰ	41
精神看護学概論	42
精神看護学援助論Ⅰ	43
成人看護学概論	44
高齢者看護学概論	45
基礎演習Ⅱ	46
住環境福祉論	48
教育と学習の原理	49
医療英会話	50
レクリエーション活動援助法	51
疾病・治療論各論Ⅲ	52
疾病・治療論各論Ⅳ	53
疾病・治療論各論Ⅴ	54
社会保障制度	55
社会福祉制度	56
リハビリテーションの基礎	57
看護方法論Ⅱ	58
基礎看護援助技術Ⅴ	59

看護基礎実習Ⅱ	60
精神看護学援助論Ⅱ	61
母性看護学概論	62
母性看護学援助論Ⅰ	63
母性疾病論	64
小児看護学概論	65
小児看護学援助論Ⅰ	66
成人看護学援助論Ⅰ	67
成人看護学援助論Ⅱ	68
成人看護学援助論Ⅲ	69
高齢者看護学援助論Ⅰ	70
在宅看護学概論	71
ヘルスカウンセリングの原理と方法	72
経済学	73
教育心理学	74
教育方法論	75
健康教育論	76
公衆衛生学	77
疫学・保健統計の基礎	78
医療と倫理	79
母性看護学援助論Ⅱ	80
小児看護学援助論Ⅱ	81
小児看護学援助論Ⅲ	82
成人看護学援助論Ⅳ	83
成人看護学援助論Ⅴ	84
高齢者看護学援助論Ⅱ	85
高齢者看護学援助論Ⅲ	86
在宅看護学援助論	87
在宅看護学援助技術	88
地域看護学概論	89
地域看護学活動論	90
専門演習Ⅰ	91
教職概論	92
教育課程論	93
健康障害児・生徒支援論	94
保健医療福祉政策論	95
精神看護学実習	96
母性看護学実習	97
小児看護学実習	98
臨床看護学実習Ⅰ(成人老年・慢性期)	99
臨床看護学実習Ⅱ(成人老年・急性期)	100
高齢者看護学実習Ⅰ	101
高齢者看護学実習Ⅱ	102
在宅看護学実習	103
公衆衛生看護学原論	104
学校保健活動論Ⅰ	105
学校保健活動論Ⅱ	106
看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップ	107
看護研究概論	108
生徒指導論	109
教職実践演習	110
教育社会学	111
疫学・保健統計の実際	112
看護関連法規	113
公衆衛生看護学活動論Ⅰ	114
公衆衛生看護学活動論Ⅱ	115
産業保健論	116
養護概説	117
施設・病棟統合実習	118

科目名	哲学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	儒教 論語 孔子 孟子 老荘思想				

### ■授業の目的・到達目標

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自らとつてみる学問をねらいとしている。

### ■授業の概要

孔子は人間にいかにかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ごとの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきもの生き方。学問について。
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章)
第5回	至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)
第6回	家を斉て国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)
第9回	国に道あると無きとに聞せず節操を持つべきを子路に示す。(右第十、十一章)
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章)
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章)
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を鑑み、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を鑑み、一度も休みのない者については、成績評価としては十分な評価を与える。

### ■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

### ■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	菅沼 澄江 他	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	1年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	建学の精神、学士力、地域貢献活動、研究の基礎、進路				

#### ■授業の目的・到達目標

建学の精神にのっとり、大学生としての基礎的能力と学習が円滑に行えるための能力を養うとともに、医療・福祉職として地域に貢献できる人間力の基礎を身につける。

#### ■授業の概要

建学の精神を理解し、日々の行動に結び付けられるようにするとともに、学士力として求められる文献検索方法やレポートの書き方、プレゼンテーションの方法等について学び、4年間の学習の基礎と人間力を養う。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、オリエンテーション、建学の精神と実践教育プログラム①FCの振り返り・目標発表 ②環境美化・進路説明
第2回	学士力育成プログラム①：大学生としての学習の仕方/国家試験問題集の活用の仕方
第3回	学士力育成プログラム②：レポートの書き方/ノートの取り方
第4回	建学の精神と実践教育プログラム②：マナーと一般常識/レポート等書類の提出の仕方
第5回	建学の精神と実践教育プログラム③：環境美化活動について討議
第6回	建学の精神と実践教育プログラム④：建学の精神について討議
第7回	建学の精神と実践教育プログラム⑤：まとめ
第8回	建学の精神と実践教育プログラム⑥：発表
第9回	学士力育成プログラム③：図書館・図書室の利用方法
第10回	研究の基礎①：文献検索及び文献カードの作成/興味のある事柄について文献を調べる
第11回	研究の基礎②：文献カードの作成/まとめと発表
第12回	研究の基礎③：プレゼンテーションの仕方
第13回	討議法
第14回	グループ研究①：グループ研究の意義と目的
第15回	グループ研究②：研究テーマの設定/研究計画書の作成 ・個人指導

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

基礎演習は4年間の学習の基礎と人間力を養う重要な科目である。学習の仕方、レポートの書き方、討議方法、文献検索方法、研究・調査、グループワーク等他の教科目でも学習したことを活用する。また、文献検索やグループ研究ではPCを使用するため、ワードやエクセル、パワーポイント等の最低限必要なソフトの使用方法をマスターして臨むこと。

##### 〔受講のルール〕

個人学習だけではなくグループで協働して行うことも多く、自ら参加する意思と責任を持って臨むこと。また、医療専門職として、出席時間の厳守と好感を持てる態度や身だしなみ等を整えて受講すること。

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

課題は責任を持って実施すること。夏休み中に各グループで分担した研究・調査を進めること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

授業への参加態度、グループ研究、課題レポートにより総合的に評価する。

#### ■教科書

基礎演習テキスト（群馬医療福祉大学）

#### ■参考書

・KAN-TAN 看護の計算・数式 野崎真奈美他著（医学書院） ・国家試験対策問題集

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	菅沼 澄江 他	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	1年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	建学の精神、学士力、地域貢献活動、研究の基礎、進路				

#### ■授業の目的・到達目標

前期の学習課題をもとに学士力として求められるグループ研究をまとめ、発表を行い、基礎演習Ⅱや専門演習の学習につなげる。また国家試験や就職に関する情報を提供するとともに、各自が4年間計画的に学習するための実践的計画を立案する。さらに建学の精神にのっとり将来の看護職としての人間力を養う。

#### ■授業の概要

建学の精神を理解し、日々の行動に結び付けられるようにするとともに、学士力として求められる文献検索方法やレポートの書き方、プレゼンテーションの方法等について学び、4年間の学習の基礎と人間力を養う。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期オリエンテーション 国家試験対策①:課題学習
第17回	グループ研究③:グループ研究の実際
第18回	グループ研究④:グループ研究の実際
第19回	グループ研究⑤:グループ研究の発表(パワーポイント使用)
第20回	グループ研究⑥:発表後の改善点とポスター発表に向けての準備
第21回	グループ研究⑦:ポスター発表準備
第22回	グループ研究⑧:ポスター発表準備
第23回	グループ研究⑨:ポスター発表準備
第24回	グループ研究⑩:ポスター発表準備
第25回	グループ研究⑪:ポスター発表(昌賢祭当日)
第26回	進路指導①:キャリアデベロップメント
第27回	進路指導②:学習方法と国家試験対策
第28回	国家試験対策②:看護に必要な計算力
第29回	建学の精神と実践教育プログラム⑥:1年間の振り返りと自己の課題(レポート)
第30回	建学の精神と実践教育プログラム⑦:次年度に向けての目標・個人指導

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### [受講生に関わる情報]

基礎演習は4年間の学習の基礎と人間力を養う重要な科目である。学習の仕方、レポートの書き方、討議方法、文献検索方法、研究・調査、グループワーク等の教科目でも学習したことを活用する。また、文献検索やグループ研究ではPCを使用するため、ワードやエクセル、パワーポイント等の最低限必要なソフトの使用方法をマスターして臨むこと。

##### [受講のルール]

個人学習だけでなくグループで協働して行うことも多く、自ら参加する意思と責任を持って臨むこと。また、医療専門職として、出席時間の厳守と好感を持てる態度や身だしなみ等を整えて受講すること。

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

課題は責任を持って実施すること。進路指導ではこれまでの学習方法、進路について各自まとめておくこと。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

授業への参加態度、グループ研究、課題レポートにより総合的に評価する。

#### ■教科書

基礎演習テキスト(群馬医療福祉大学)

#### ■参考書

・KAN-TAN看護の計算・数式 野崎真奈美他著(医学書院) ・国家試験対策問題集



科目名	ボランティア活動と自己省察	担当教員 (単位認定者)	足立勤一・看護学部専任教員	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	ボランティア活動 人間形成 自己省察 自己課題				

#### ■授業の目的・到達目標

本学の求めているボランティア活動は、「対人支援・援助」のあり方を学ぶための人間学の根本と位置付けている。ここでは、建学の精神に基づき、保健医療福祉に関する諸団体・施設等でのボランティア活動を行い、それらの活動を通して、自己課題を見出し、今後の看護活動に生かしていくことを目標とする。

#### ■授業の概要

- ・ボランティアの語源や歴史、意義や目的、活動の種類、実践のために必要な知識・技術・態度を学習する。
- ・病院・施設等でのボランティア体験を通して、自己を省察する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 本学のボランティア活動について
第2回	ボランティア活動とは(GW)
第3回	ボランティア活動の実際に向けてオリエンテーション【活動カード、記録の書き方、諸注意等の説明】
第4回	ボランティア活動の計画【年間予定表作成、自己依頼施設の選定、事前学習】
第5回	医療機関・福祉施設等のボランティアの実際
第6回	医療機関、福祉施設等のボランティアの実際
第7回	ボランティア活動を通して見出した自己課題のまとめ
第8回	ボランティア活動を通して見出した自己課題発表準備・レポートまとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

ボランティア活動を積み重ねることによって、自分自身の新たな問題点や課題を発見し、社会に貢献できる看護専門職者として成長していくことを求める。

- ・本学のボランティア活動ハンドブックをよく理解しておくこと。
- ・それぞれのボランティア施設について良く調べてから活動していくこと。
- ・既習の知識や技術をもとにボランティアが実践できるよう復習しておくこと。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。  
大学生として、社会の一員としてのモラルを忘れず育てていくこと。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

ボランティア体験における態度・記録等を、まとめのレポートの内容に基づき評価する。  
ボランティア活動内容の記録 50%、個人課題レポート 50%。

#### ■教科書

鈴木利定監修 足立勤一・森慶輔編集「ボランティア活動ハンドブック」  
岡本栄一監修 守本他編著「ボランティアのすすめ 基礎から実践まで」 ミネルヴァ書房

#### ■参考書

必要に応じて適宜提示する。

科目名	人間の心理	担当教員 (単位認定者)		単位数 (時間数)	1 ( )
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード					

■授業の目的・到達目標

--

■授業の概要

--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

■受講生に関わる情報および受講のルール

--

■授業時間外学習にかかわる情報

--

■オフィスアワー

--

■評価方法

--

■教科書

--

■参考書

--

科目名	論理学	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	三段論法、判断、推理、帰納、演繹				

#### ■授業の目的・到達目標

[ 授業の目的 ]

正しい思考の形式及び法則を学び、正しく考え、真の知識に到達するための基本を習得する。

[ 到達目標 ]

- ①基本的な記号の意味と使い方が分かる。
- ②主要な論理法則の意味を理解し、日常で正確に使うことが出来る。
- ③論理式の簡単な変形ができる。

#### ■授業の概要

最初にアリストテレス以来の三段論法を中心とする伝統的論理学を学び、次に現代の命題論理を中心とする記号論理学を学ぶ。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション、言語と論理
第2回	概念と定義
第3回	判断と命題
第4回	直接推理①
第5回	直接推理②
第6回	直接推理③
第7回	間接推理①
第8回	間接推理②
第9回	間接推理③
第10回	命題論理①
第11回	命題論理②
第12回	命題論理③
第13回	演繹法と帰納法
第14回	論証の批判と検討①
第15回	論証の批判と検討②

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

板書、口述内容は定期試験に重要なのでノートに整理すること。

小論文、レポートは必ず提出すること。

5回を超える欠席は、定期試験の受験資格を失う。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

予習復習は、予習を重点に学習すること。

#### ■オフィスアワー

授業後 30分

#### ■評価方法

定期試験、小論文、レポートを総合的に判断する。(目安)定期試験 70%、小論文、レポート 30%。

#### ■教科書

「論理学入門」千葉茂美・東千尋・若山玄芳著 学陽書房

#### ■参考書

シラバスで紹介

科目名	化学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	物質の構成、物質の状態、物質の反応、有機化合物				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

物質についての知識を得るとともに、自然科学の考え方を身につけることを目的とする。

##### 〔到達目標〕

- ①さまざまな物質の構成や状態、性質を理解できる。
- ②化学反応の種類や表し方を理解し、量的な関係が把握できる。
- ③今後の生化学・医学・薬学等の学習について基礎ができています。

#### ■授業の概要

元素の種類を知り、元素記号や原子の結合、化学式を学習する。化学反応に伴う量的な扱い方を学ぶとともに基本的な化学反応の種類を知る。有機化合物の構造、性質を学ぶことで将来の他分野への基礎とする。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	はじめに I 物質の構成(1) 1 物質の構成
第2回	I 物質の構成(2) 2 粒子の結合
第3回	I 物質の構成(3) 3 粒子の相対質量と物質質量
第4回	II 物質の状態 1 物質の三態 2 気体 3 溶液
第5回	III 物質の反応(1) 1 化学反応と熱・光 2 化学反応の速さと化学平衡
第6回	III 物質の反応(2) 3 酸と塩基の反応 4 酸化と還元
第7回	IV 有機化合物(1) 1 有機化合物の分類と分析 2 脂肪族化合物
第8回	IV 有機化合物(2) 3 芳香族化合物 まとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。

##### 〔受講のルール〕

- ・プリント、教科書を使用し、板書も行うが、中心は講師の話である。説明をよく聞いて理解に努めること。
- ・わからないことがあった場合は、その場でまたは授業後、あるいは次の授業の始め等に質問するか、カードに書くなどしてそのままにしないこと。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

復習を中心に、授業で扱った問題は自分でもう一度解き直すようにすること。また、化学を理解するためには、抽象的な記号や式だけを見ていても不十分なので、教科書の図をよく見てできるだけ具体的なイメージを持つようにすること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験 100%

#### ■教科書

数研出版編集部：フォトサイエンス 化学図録，数研出版，2014

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	物理学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	運動、力、エネルギー、波動、電磁気、原子				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。

#### 〔到達目標〕

- ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
- ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。
- ③エネルギー、熱、波、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。

### ■授業の概要

物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、放射線等について概説する。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	はじめに I 物理を理解するための道具とルール
第2回	II 力学の基本
第3回	III 物体の運動と力の関係
第4回	IV 圧力のはたらきと物を回転させる力
第5回	V エネルギーとその保存則
第6回	VI 気体分子の運動とエネルギー
第7回	VII 波の性質と音・光
第8回	VII 光(レンズ) VIII 原子の構造と放射線 まとめ

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生に関わる情報〕

・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。

#### 〔受講のルール〕

- ・教科書・プリントを使用し、板書も行すが、中心は講師の話である。説明をよく聞いて理解に努めること。
- ・わからないことがあった場合はいつでも質問してよい。わからないことをそのままにしないこと。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

事前に教科書を読み、分からないところを明確にしておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験 100%

### ■教科書

葉子 研:まるわかり!基礎物理, 南山堂, 2011

### ■参考書

佐藤和良:看護学生のための物理学 第4版, 医学書院, 2009

科目名	情報処理演習	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域おける「自然科学系」			
キーワード	Word, Excel, レポート作成				

#### ■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①パソコンの基本的な操作を理解する。
- ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる。
- ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。

#### ■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使ってレポートなどの各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	(概論)オリエンテーションとキーボード・マウスの操作練習
第2回	(概論)ホームページの利用と情報セキュリティ
第3回	(Word)基本的な文章の入力とファイル操作
第4回	(Word)各種の書式設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
第5回	(Word)応用的な書式設定
第6回	(Word)表を含む文書の作成
第7回	(Word)図形を含む文書の作成
第8回	(Word)同じ体裁の文書を効率よく作成する(テンプレート、スタイル)
第9回	(Excel)Excelの基本操作
第10回	(Excel)各種の書式設定と図形等の利用
第11回	(Excel)グラフの作成(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、複合グラフ)
第12回	(Excel)データベースとしてのExcelの利用(並べ替え、フィルタ、集計)
第13回	(Excel)数式と関数の利用
第14回	(Word/Excel共通)Word/Excel間のコピーと貼り付け、その他補足事項
第15回	レポート作成実習

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

〔受講のルール〕

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

#### ■オフィスアワー

授業開始前20分間。

#### ■評価方法

レポート課題による評価。

レポートとしてのまとめ(30%)、Wordの書式関連機能の活用度(30%)、Wordの図や表に関連する機能の活用度(20%)、Excelの各種機能の活用度(20%)。

#### ■教科書

今すぐ使えるかんたんWord&Excel&PowerPoint2013、技術評論社、2013年

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	統計の基礎	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師・養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード					

#### ■授業の目的・到達目標

近年のコンピューターの発達に伴い、看護学の分野で統計的手法を用いた研究が多くなり、こうした手法を理解することは今後ますます重要になってきている。看護学研究を行う上での分析手法である統計学を習得し、研究を円滑に行っていく力を身につけることを到達目標とする。

#### ■授業の概要

統計学の基礎的な理論について学習し、さらに看護学に関連するデータを用いて、演習形式で学習する。また統計的手法を用いた実証分析の方法についても学習する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	イントロダクション
第2回	統計表の読み方
第3回	データの性質
第4回	分布の代表値
第5回	無作為抽出
第6回	クロス集計
第7回	グラフ作成
第8回	データのちらばり
第9回	相関
第10回	パソコン演習I
第11回	パソコン演習II
第12回	質的データ分析I
第13回	質的データ分析II
第14回	社会調査の手法I
第15回	社会調査の手法II

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。積極的に授業に参加すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

必要とされる予備知識については、教科書を通読することが望まれる。授業で学習した内容は、教科書だけではなく、さまざまな文献やHP等を参照して復習すると、理解がより深まる。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

#### ■教科書

授業時に指示する。

#### ■参考書

授業の中で案内する。



科目名	生活科学	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	家族、衣・食・住・家庭管理、生活科学、生活文化				

#### ■授業の目的・到達目標

「生活を科学する」習慣を身につけることによって、賢く豊かな生活を営めるようになる。また、「生活文化」の知識をコミュニケーションに活かすことはもとより、国際人として日本の文化を語れるようになる。

#### ■授業の概要

一見当たり前で過ごしている日常生活そのものの本質を知るとともに、生活用品・用材の基本構造や各生活事象の背景にある原理・原則について解説する。さらに、衣食住における日本独自の文化についても言及する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス：「生活を科学する」とは？
第2回	「生活科学チェックテスト」の実施（生活者としての習熟度チェック）
第3回	家庭生活の経営と管理：家族・家庭生活 生活設計 生活時間
第4回	家庭生活の経営と管理：「ライフコース」の作成
第5回	家庭生活の経営と管理：家庭経済と消費生活 消費生活の課題
第6回	食生活：栄養と調理
第7回	食生活：食文化
第8回	衣生活：衣服の役割と機能 衣服の選択
第9回	衣生活：被服素材と品質表示 被服の衛生
第10回	衣生活：被服の管理
第11回	衣生活・住生活：洗浄理論
第12回	住生活：住居の役割と機能 快適な室内環境
第13回	住生活：住居の安全と管理 バリアフリーとユニバーサルデザイン
第14回	生活文化：生活の中の文様・色彩 年中行事
第15回	まとめ：生活を統合する

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

板書以外にも各自メモをとり、“生活の中の雑学”も身につけるよう心がけること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

食材や生活用品・用具等に関する知識が無いと、講義で扱う内容が理解できない。そのため日頃から、日用品や食材の買い物・調理・洗濯・家庭内の清掃を行い、自力で日常生活を営めるようになっておくこと。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

試験（60%）提出物（40%）。

#### ■教科書

佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）2004年

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。



科目名	道徳教育研究	担当教員 (単位認定者)	塚本 忠男	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	人間力を育てる学び				

#### ■授業の目的・到達目標

人が社会にあって、人としてどうあるべきなのかを学び、実践できる力を身につける。  
自己の考えを表現できる言語力・話力・能力をみがき、思考力・判断力を身につける。

#### ■授業の概要

人間としての在り方・生き方について学び、積極的に社会に参加できる力を養う。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション(講義内容・方法、授業時の留意事項、評価)・咸有一徳とは
第2回	事象の論説・事実把握・検証・論述すること(題材「ハチドリのひとつく」)
第3回	「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する
第4回	論語に見る「徳」「仁」の解釈。孔子の時代
第5回	小学校・中学校・高等学校学習指導要領に示された「道徳」の解説
第6回	〃
第7回	「真心」の解説(中国における儒学関係古典の解釈)・「心」の字源
第8回	「至誠」「尽くす」の解説・「儒教」とは・知行合一(五常・五倫)の解説
第9回	豊かな人間性の涵養と、人格の向上について(交際・礼儀作法・エチケット)
第10回	家庭生活の基本マナー(儒学における関係古典文献より考察)
第11回	福祉界が望むマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第12回	学校生活での品位あるマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第13回	〃
第14回	時事問題の考察・発表・解説(人としての在り方・生き方を考える)
第15回	〃

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度であること。  
日常生活において学びを実践すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

ニュース・新聞等より、社会現象、とくに人間としての在り方・生き方に関する事象について感心を持ってとらえ、どうあるべきかということに考えを巡らすこと。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

提出物と定期試験によって評価。それぞれが60%を超えていること。

#### ■教科書

咸有一徳

#### ■参考書

授業において紹介。

科目名	基礎英語	担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域科目における「外国語」			
キーワード	基礎英語				

#### ■授業の目的・到達目標

- 1) 英文の情報を早く正確に把握できる。
- 2) 医療関連記事を理解できる。
- 3) 入学までに身につけた単語を使って日常会話が行える。

#### ■授業の概要

医療関連の記事をグループで担当し、発表する形式を進める。理解を深めるために新聞記事の使用や文法事項の復習をする。  
基礎的コミュニケーション技術を身につけるため、聴き取りや役割練習を取り入れる。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	Chapter1: Polio	大きな数字と年号の読み方。医学用語の略語に慣れる。
第2回	Chapter2: Personal Prescription	処方文を読み、命令形の復習と習得を図る。
第3回	Chapter4: Anti-Diarrheal	表から薬の種類、服用回数、服用量を読み取る。
第4回	Chapter3: Hay fever	症状を読み取る。症状表現のhaveと現在完了形のhave
第5回	Chapter10: Food Allergies and Food Intolerance	各パラグラフの要点をつかむ。症状の単語数を増やす。
第6回	Chapter5: Sleeping Problem	分数、少数点、パーセントの読み方。身体部位の単語(p.74)を覚える。
第7回	Chapter6: SARS	症状、感染経路、対策を読み取る。
第8回	Flu Shots on p.64-p.66	内容理解問題に挑戦する。
第9回	Chapter7: Diabetes	長い主語に慣れ、文の構造を理解する。臓器の名前(p.75)
第10回	Chapter8: Arterial Diseases	原因、結果、対策を読み取る。Vital signs測定の話練習。
第11回	Chapter11: Carpal Tunnel Syndrome	CTS が起きる仕組みと症状を読み取る。経験の現在完了形
第12回	筋骨格の症状の表現(p.70)を覚える。痛みについての聴き取り(p.15, p.19)を行う。	
第13回	Chapter12: Sports Related Injuries and Conditio	記事の要旨をまとめる。医療単語の接頭辞と接尾辞
第14回	資料1: Smoking Tobacco Is Suicide	長文を速読し、タバコの害を知る。
第15回	資料2: The AIDS Concerns Everyone	グラフや表から統計的な数値の意味を理解する。

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

英文読解では音読がとても役立ちます。単語の意味がわからなくても、とにかく二回は音読をして授業に臨んで下さい。そして発表担当者は英文の字面だけ訳すのではなく、自分の言葉でわかりやすく内容を伝える努力をして下さい。聴き取りやペアワークは、英語を聞いたり話したりする貴重なチャンスと考え、耳と口を十分に働かせて下さい。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

授業態度、出席状況、定期試験により総合的に判断する。

#### ■教科書

English for Medicine KINSEIDO

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	スポーツ科学原理	担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「スポーツ科学」			
キーワード	スポーツ科学原理				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔目標〕

運動の原理原則を理解し、適切に行うための運動に関する有効な方法を把握し、その効果的な運動の実施方法を学習する。

##### 〔到達目標〕

学習を通して健康の大切さや生活意欲を向上させることができるようになることを目的とする。

#### ■授業の概要

体の機能、メカニズム、大別された2種類の運動や怪我のおこる仕組みを理解し、自己管理の重要性を確認する。スポーツを通じてのコミュニケーション能力を身につける。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション（運動の身体に及ぼす影響）
第2回	運動と体力・健康づくり（体力分類）
第3回	健康のための各種運動と体力づくり（ウォーミングアップ・クーリングダウン）
第4回	運動の習慣づけ（3つの運動）
第5回	スポーツコミュニケーション（実技① ストレッチ体操）
第6回	運動と体力・健康づくり（運動エネルギー）
第7回	スポーツの外傷と障害・予防と対応
第8回	スポーツコミュニケーション（実技②） まとめ・評価

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は資料プリントで行う。出席を常とし積極的に授業に取り組むこと。遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用は禁止。実技は指定のジャージを着用。装飾品は厳禁、肩にかかる髪は束ねる。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

日常生活の中に自分に合った、スポーツを取り入れ継続する。そのためには生活時間を有効に工夫することが必要である。積極的に身体活動を実践して、精神・心理的に安定した豊かな生活を送ること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験 70% 学習意欲 30%（姿勢・積極性・実技の理解）。

#### ■教科書

資料プリントで対応。

#### ■参考書

随時検討する。

科目名	人体構造機能学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	解剖学、生理学、細胞、組織、血液、免疫				

#### ■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

#### ■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	解剖学・生理学とは、解剖学的用語
第2回	ホメオスタシスとフィードバック機構
第3回	細胞の構造
第4回	細胞の機能
第5回	上皮組織
第6回	支持組織
第7回	筋組織
第8回	神経組織
第9回	体内の膜
第10回	皮膚
第11回	体温産生と体温
第12回	血液の成分と機能
第13回	造血、凝結と線溶、血液型と輸血
第14回	自然免疫機構
第15回	獲得免疫機構

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

#### ■教科書

林正健二編集:人体の構造と機能① 解剖生理学、メディカ出版  
林正健二編集:イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

#### ■参考書

坂井建雄編集:カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	人体構造機能学Ⅱ				

#### ■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

#### ■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	骨と骨格
第2回	頭蓋、体幹の骨格、体肢の骨格
第3回	関節の構造と機能
第4回	筋の種類と機能
第5回	骨格筋の解剖生理
第6回	筋、骨格筋系のまとめ
第7回	心臓の構造
第8回	心臓の機能
第9回	血管の形態と機能
第10回	リンパ系の器官と機能
第11回	循環器系の確認テストと解説
第12回	呼吸器系の構造と機能
第13回	肺の名称と肺胞の構造と機能
第14回	呼吸のプロセスと調節
第15回	呼吸器系の確認テストと解説

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

#### ■教科書

林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版  
林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

#### ■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	人体構造機能学Ⅲ				

#### ■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

#### ■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	食欲の調節機構
第2回	口腔の構造と機能
第3回	咽頭・食道の構造と機能
第4回	胃の構造と機能
第5回	小腸の構造と機能
第6回	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能
第7回	糖質・脂質・蛋白質・ビタミンの消化と吸収
第8回	排泄 大腸の構造と機能
第9回	消化器系の確認テストと解説
第10回	腎臓の構造と機能
第11回	尿の生成、血液成分の調節
第12回	尿管・膀胱・尿道の構造と機能
第13回	排尿の生理
第14回	泌尿器系の確認テストと解説
第15回	消化器系及び泌尿器系のまとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

#### ■教科書

林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版  
林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

#### ■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社



科目名	人体構造機能学Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード					

#### ■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

#### ■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	内分泌系とホルモンの作用機序
第2回	脳にあるホルモン分泌器官Ⅰ
第3回	脳にあるホルモン分泌器官Ⅱ
第4回	甲状腺のホルモンの機能
第5回	上皮小体のホルモンの機能
第6回	副腎のホルモンの機能
第7回	膵臓のホルモンの機能
第8回	消化管のホルモンの機能
第9回	内分泌系の確認テストと解説
第10回	生殖と生殖器の概念と特徴
第11回	女性生殖器の構造と性周期
第12回	妊娠と出産
第13回	男性生殖器の構造と機能
第14回	勃起と射精
第15回	生殖器系の確認テストと解説

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

#### ■教科書

林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版  
林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

#### ■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	生化学	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	糖質、脂質、タンパク質、核酸、ビタミン、酵素、補酵素				

#### ■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、生化学を理解できる。
2. 生化学を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の生化学について述べるができる。

#### ■授業の概要

1. 看護の視点で生化学を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	糖質とは
第2回	糖代謝
第3回	脂質とは
第4回	脂質代謝
第5回	タンパク質とは
第6回	タンパク質代謝
第7回	核酸、水と無機質
第8回	血液と尿
第9回	核酸代謝、ポルフィリン代謝
第10回	代謝の異常
第11回	ホルモンと生理活性物質
第12回	酵素
第13回	ビタミンと補酵素
第14回	遺伝情報
第15回	先天性代謝異常

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

#### ■教科書

三輪 一智、中 恵一：系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能② 第12版 医学書院

#### ■参考書

なし



科目名	看護学概論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	倉島 幸子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	人間・環境・健康・生活・看護				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業目的〕

看護とは何かを探求するとともに、看護学を構成する主要概念としての人間・環境・健康・生活の理解を深め、看護学を学ぶ基礎を身につける。

##### 〔到達目標〕

- ① “看護とは何か”が理解できる。
- ② 看護の独自性・専門性が理解できる。
- ③ 看護の対象である人間はどのような存在であるか理解できる。
- ④ 健康の法則について理解できる。
- ⑤ 人間と環境との関係について理解できる。

#### ■授業の概要

1. 学生自身の体験を通して「看護とは何か」「健康とは何か」「病気とは何か」を考え、理論と結びつけて教授する。
2. すべての人間は共通性と個性をもった唯一無二の存在であることおよび人間の可能性を考える機会とする。
3. 学生自身の生活を通し、「生活とはなにか」「環境とは何か」について教授する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、看護学概論で何を学ぶのか
第2回	看護とは何か-看護の原点・歴史の変遷
第3回	看護とは何か-看護の概念および定義に関する諸説
第4回	看護とは何か-Notes on Nursing
第5回	看護の対象である人間はどのような存在か-人間であることとは
第6回	看護の対象である人間はどのような存在か-統合体としての人間
第7回	看護の対象である人間はどのような存在か-人間のライフサイクルと発達課題
第8回	看護の対象である人間はどのような存在か-人間の生活
第9回	人間と環境-環境とは・生活と環境との相互作用
第10回	健康と看護-健康の法則・健康の定義・健康に影響する要因
第11回	健康と看護-健康に生きるとは
第12回	病気とは-看護の視点で考える
第13回	病気とは-人間が病むとは
第14回	看護師に求められる能力とは
第15回	看護師に求められる能力とは

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し理解をして授業に臨むこと。分からない部分を授業で解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験 70%、レポート 30%。

#### ■教科書

茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ看護学概論 基礎看護学①，医学書院，2013  
 F. ナイチンゲール（湯楨ます・薄井坦子他訳）：看護覚え書，現代社，2013  
 時実利彦：人間であること，岩波新書，2013

#### ■参考書

授業中に適宜紹介。

科目名	看護学概論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	倉島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	保健医療システム・教育とキャリア開発・制度政策・看護倫理				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業目的〕

看護職や看護職が協働する医療職の役割、チームのあり方、協働と連携、倫理について深く学び、看護者としての基礎的知識と内的規範を身につける。

##### 〔到達目標〕

- ①チーム医療に携わる様々な職種を把握し、チームの機能を理解できる。
- ②看護サービスの提供の場と、それぞれの場における看護の果たす役割について理解できる。
- ③看護に関わる様々な法制度を理解できる。
- ④看護倫理をめぐる社会的背景を理解し、看護職者としての内的規範を身につける。

#### ■授業の概要

1. 看護の機能する場・就業状況・看護管理システムについて教授する。
2. 保健・医療・福祉が地域で生活している人々にどのように関わっているかを身近なものとして繋げて具体的に教授し、看護職の果たす役割について考える機会とする。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、看護職者の教育とキャリア開発
第2回	看護の機能する場と役割および看護職の就業状況
第3回	看護職者の教育と養成制度
第4回	保健医療福祉システムと看護
第5回	看護管理—看護管理システム・組織・看護サービスにおけるマネジメント
第6回	看護をめぐる制度・政策
第7回	看護における倫理〔1〕
第8回	看護における倫理〔2〕

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し理解をして授業に臨むこと。分からない部分を授業で解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験

#### ■教科書

茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野I看護学概論 基礎看護学①、医学書院、2013  
F. ナイチンゲール（湯楨ます・薄井坦子他訳）：看護覚え書、現代社、2013

#### ■参考書

授業中に適宜紹介。

科目名	基礎看護援助技術I	担当教員 (単位認定者)	溝口 孝美 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	共通技術 感染予防 コミュニケーション 観察 教育指導				

### ■授業の目的・到達目標

#### [ 授業の目的 ]

看護における共通基本技術に必要な知識を学び、基本技術を習得できる。

#### [ 到達目標 ]

1. 看護技術とはどのようなものか理解できる。
2. 感染予防の基礎的知識を理解し、衛生学的手洗いができる。
3. 人間関係を発展させるための技術を修得できる。
4. 看護における観察の重要性を理解し、正確に生命徴候の観察技術を修得できる。
5. 看護における健康教育の重要性と方法を理解できる。

### ■授業の概要

看護学概論と基礎看護援助技術との関連を学習し、一つ一つの援助技術が科学的根拠に基づき、援助を受ける対象にとって看護に繋る技術になっているか問題意識と探究心を持って各看護技術を修得できるように進める。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 看護技術総論	中溝
第2回	感染防止の技術 [1] 感染予防の基礎知識	中溝
第3回	感染防止の技術 [2] 衛生学的手洗い (演習)	中溝
第4回	人間関係を発展させる技術 [1] ーコミュニケーションの意義と目的、構成要素と成立過程ー	菅沼
第5回	人間関係を発展させる技術 [2] ーコミュニケーションの基本・コミュニケーション障害への対応ー	菅沼
第6回	人間関係を発展させる技術 [3] ー効果的なコミュニケーションの実際 (演習)	菅沼
第7回	観察 [1] 観察とは何か、看護する為の観察とは	石川
第8回	観察 [2] バイタルサインの観察とアセスメント	石川
第9回	観察 [3] バイタルサイン測定 (演習)	石川
第10回	観察 [4] バイタルサイン測定 (演習)	石川
第11回	看護記録に関する法的規定、看護記録の構成要素と記載基準、報告の留意点	溝口
第12回	教育指導技術 [1] 看護における教育機能・指導技術の基本となるもの	溝口
第13回	教育指導技術 [2] 指導の対象者と領域・方法	溝口
第14回	技術確認試験	溝口
第15回	技術確認試験	溝口

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### [ 受講生に関わる情報 ]

- ・演習は白衣・ナースシューズを着用。頭髪・爪・化粧は「演習室使用時の心構え」に準じる。(身支度をきちんとすること。身支度が整わない場合は受講を認めない)
- ・講義までに事前学習課題を学習して臨むこと。

#### [ 受講のルール ]

- ・他の受講生の迷惑になる行為は厳禁 (私語・携帯電話の使用)。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

看護技術の修得は、何回も繰り返して演習し習得すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験 (70%) 技術確認試験 (30%)、提出物、学習態度、演習の参加態度等を総合して評価する。

### ■教科書

1. 有田清子他: 基礎看護技術I 医学書院

### ■参考書

三上れつ・小松万喜子編集: 演習・実習に役立つ基礎看護技術、NOVELLE HIROKAWA

科目名	基礎看護援助技術Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	菅沼 澄江 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	環境 活動休息 栄養 食事				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

日常生活に伴う援助技術が理解でき、習得できる。

#### 〔到達目標〕

1. 療養生活の場である環境について理解できる。
2. 病床を整える技術が習得できる。
3. 基本的活動の基礎知識が理解でき、活動に伴う援助が習得できる。
4. 睡眠と休息の援助の基本知識が理解でき、睡眠休息の援助が習得できる。
5. 食事援助の基本知識が理解でき、食事援助・口腔ケアの援助が習得できる。
6. 非経口的栄養摂取の援助について理解できる。

### ■授業の概要

日常生活の援助の中で、入院されている患者の環境についての基準を理解し、入院環境を整える（ベッドメイキングやシーツ交換など）。人間の身体の機能を力学的に学び、人間の基本的な体位、体位変換、身体の移動や移乗・移送の技術を学ぶ。人間にとっての栄養の重要性を理解し、食事の援助及び口腔ケアや経口的摂取の困難な場合、栄養摂取のための方法を理解する。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	①環境調整の技術	菅沼
第2回	②環境調整の技術	菅沼
第3回	③環境調整の技術（演習）①ベッドメイキング	石川
第4回	④環境調整の技術（演習）②ベッドメイキング	石川
第5回	⑤環境調整の技術（演習）①シーツ交換・環境整備	石川
第6回	⑥環境調整の技術	菅沼
第7回	①活動休息の援助技術	溝口
第8回	②活動休息の援助技術	溝口
第9回	③活動休息の援助技術（演習）ボディメカニクスと安楽な体位	溝口
第10回	④活動休息の援助技術（演習）①移動・体位変換	溝口
第11回	⑤活動休息の援助技術（演習）②移動・体位変換	溝口
第12回	⑥活動休息の援助技術（演習）移乗・移送	溝口
第13回	①食事の援助技術	小林
第14回	②食事の援助技術（口腔ケア）（演習）食事介助・口腔ケア	小林
第15回	③食事の援助技術	小林

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生に関わる情報〕

演習は白衣を着用（身支度をきちんとすること。身支度が整わない場合は受講を認めない）

講義までに事前学習課題を学習して臨むこと。

技術は何回も繰り返して演習して習得すること。

#### 〔受講ルール〕

他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。

遅刻・早退については担当教員に理由を申し出ること。

常に教科書は持参すること。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

事前学習の課題については必ず提出し、授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するように努力すること。看護技術の習得に関しては、再学習して修得すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験（70%）、技術確認試験（30%）、提出物、学習態度、演習の参加態度などを総合して評価する。

### ■教科書

1. 有田清子他：基礎看護技術Ⅱ 医学書院

### ■参考書

三上れつ・小松万喜子編集：演習・実習に役立つ基礎看護技術、NOVELLE HIROKAWA

科目名	法学	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	民主主義、自由主義、人権、知的財産 医療過誤				

#### ■授業の目的・到達目標

##### [ 授業の目的 ]

現代社会では、人は法の保護と規制のもとで生活している。わが国の基本法である憲法、民法、刑法を中心に医療過誤を含め、判例等を参考にして、法的な考え方を学び、問題解決能力を身につける。

##### [ 到達目標 ]

- ①社会生活をしていく上での基本的法律を理解する。
- ②法的思考、考え方を身につける。
- ③医療従事者としての問題解決能力を身につける。

#### ■授業の概要

法の特徴を学び、憲法の基本原理、統治機構、人権保障の具体的事例を取り上げる。また、生活に直接かかわる民法、刑法の理解を深めるとともに、知的財産、医療過誤、国際法等についても触れる。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 法の意義・種類・歴史・法形式
第2回	日本国憲法(基本原理)
第3回	日本国憲法(統治機構1)
第4回	日本国憲法(統治機構2)
第5回	日本国憲法(人権保障1)
第6回	日本国憲法(人権保障2)
第7回	民法(総則・物権)
第8回	民法(債権)
第9回	民法(親族・相続)
第10回	刑法(総論)
第11回	刑法(各論)
第12回	労働法、社会保障法
第13回	知的財産法
第14回	医療と法
第15回	国際社会と法

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

板書、口述の内容はノートに整理しておくこと。

小論文、レポートは必ず提出すること。

欠席が、5回を超えると定期試験の受験資格を失う。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

予習復習は、予習を重点に行うこと。法律問題の新聞・テレビ等に関心を持つこと。

#### ■オフィスアワー

授業後 30 分。

#### ■評価方法

定期試験、小論文、レポートを総合的に評価する。(目安) 定期試験 70%、小論文・レポート 30%。

#### ■教科書

「法学」松尾浩也・高橋和之著 有信堂

#### ■参考書

小六法(小型版)で有斐閣「ポケット六法」か三省堂「模範六法」。担当者配付の「新しい人権の判例」。他はシラバスで紹介。



科目名	論語	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	論語				

#### ■授業の目的・到達目標

本学の特色は建学の精神に「仁」を据えていることである。仁とは他者を自分のように感じる心である。仁の精神を学ぶことにより、自己陶冶や他者への配慮といった、人格の絶えまざる向上を目指すものである。社会を担う人間にはある程度の社会倫理が要求される。本講義では『論語』を通じて人としてのあるべき姿を考察していく。

#### ■授業の概要

各時代の知識人がどのように『論語』を理解したか具体例を挙げ解説していく。論語という古典を用いて、「考える(思想)」とは何かを考察する。「己が思索するとはどういうことか?」を受講生に問う。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、受講の際の注意。
第2回	論語概説
第3回	孔子の回想Ⅰ(人生における「志」の重要性)為政篇第4章
第4回	孔子の回想Ⅱ(孔子の「志」を人々はどのように理解したか)為政篇第4章、王陽明「示弟立志説」
第5回	論語に見る日常漢語(日本語の語彙として論語の言葉を読む)
第6回	己を見限るのは己自身(自己の限界とは)雍野篇第10章、「教」の可能性(人には出来不出来などない)衛霊公篇第38章
第7回	人は変わることが可能か、陽貨篇第2・3章
第8回	孔子と障害者、衛霊公篇第41章。孔子と不治の病、雍野篇第8章
第9回	論語に見る「悪」Ⅰ(「悪」の字をどう読むか)里仁篇第3・4章
第10回	論語に見る「悪」Ⅱ(仁者は「悪が無い」のか「悪むことが無いのか」)里仁篇第3・4章
第11回	仁者とは如何なる人かⅠ(三者三様の行動から)微子篇第1章
第12回	仁者とは如何なる人かⅡ(司馬遷の疑問)述而篇第14章、『史記』伯夷列伝
第13回	仁者の気象Ⅰ、雍野篇第8章
第14回	仁者の気象Ⅱ、(宋明性理学に於ける「仁」の展開一万物一体の仁一)雍野篇第8章
第15回	論語と自己陶冶(社会福祉・看護に従事する者として、如何に自己を向上させるか)顔淵篇第1章

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、「人が学び続けるとはどういう意義か」を、自己に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ②周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ①論語を代表とする古典に親しみ、古人の思考に触れ、人文学に於ける学問様式を理解すること。
- ②授業計画に示されている章は必ず一読し、理解をして授業に臨むこと。不明の部分は授業にて解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

期末試験 70%、平常点(受講態度、課題など) 30%。

#### ■教科書

鈴木利定監修・中田勝編著『注解 書き下し 論語全文(付・原文)』明治書院、平成16年10月

#### ■参考書

宇野哲人『論語新釈』講談社学術文庫、1980年1月。金谷治『論語』新訂版、岩波文庫、1999年11月  
他は講義中に適宜紹介する。

科目名	社会学	担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年後期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	社会学				

#### ■授業の目的・到達目標

社会学の学説史、理論史を十分に踏まえながら、現代社会学の動向と展開を、最新の動向を中心として分析しながら「講義の流れ」にそって、考察を進める。学生はそれぞれの問題意識に応じて、個別の社会学のテーマを追求することを学習の目的とする。

#### ■授業の概要

現代社会が求めている問題の理論的・実践的解明を社会学の視点から整理する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	社会学について
第2回	社会理論と社会システム
第3回	近代的家族と現在家族の特徴
第4回	農村と都市の変遷
第5回	ジェンダー論
第6回	少子高齢化社会と福祉
第7回	大衆社会
第8回	共生時代(まとめ)

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

板書、口述の内容を整理しておくこと。  
欠席は3回を超えると定期試験の受験資格を失う。  
授業は「授業計画」通り進まない場合もあるので、承知しておくこと。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

レポート作成・配布資料に目を通しておくこと。

#### ■オフィスアワー

木曜日の空き時間に講師控室で応答する。

#### ■評価方法

定期試験 80%、課題提出と授業態度等 20%で総合評価する。

#### ■教科書

授業時に資料を配布する。

#### ■参考書

船津 衛編著『21世紀の社会学』日本放送出版協会

科目名	医療英語	担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「外国語」			
キーワード	医療英語				

#### ■授業の目的・到達目標

1. 臨床場面での基本表現が身につく。
2. 会話の中で、キーワードを聞き取ることができる。
3. 現場で初歩的な応答ができる。

#### ■授業の概要

音声に重点をおく。  
CDの会話を聴き、看護の現場での特殊な用語や表現に慣れる。情報収集のための質問や指示を口頭練習する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	Lesson 1: In the Lobby of the Hospital	診療科名
第2回	Lesson 2: Registration	診療申込書の項目
第3回	Lesson 3: Checking the Registration Card	診療申込書記入のために必要な質問
第4回	Lesson 4: Finding the Way	診療科名と院内の道案内
第5回	Lesson 6: Daily Activity	日常生活についての質問
第6回	The Old Time Pain Reliever on p.33	読解のための図やメモの利用
第7回	Lesson 7: More about Daily Activities	症状
第8回	Lesson 8: Asking about Symptoms	痛みの種類と程度
第9回	Lesson 9: More about Symptoms	病名
第10回	Music During Surgery ?	医療分野における音楽の効用
第11回	Lesson 10: Checking Blood Pressure and Weight	測定時の指示
第12回	Lesson 11: Laboratory Specimens	検査名の発音
第13回	検査名のパズル	英文の説明と検査名を結びつける
第14回	Lesson 12: Taking Medicines	薬の服用時の指示と注意事項
第15回	Can Doctors' Pens Carry Disease-Causing Organisms?	英文記事の構造

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の予習として、各課のUseful Expression の中の三つの表現を口頭で言えるようにしておいて下さい。そして毎回、集中して聴き取りに挑戦してください。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

出席や遅刻回数を考慮し、定期試験で評価する。

#### ■教科書

How are you feeling? (SEIBIDO)

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。



科目名	スポーツ演習	担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「スポーツ科学」			
キーワード	スポーツ演習				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔目標〕

明るく豊かな人生を送るために生涯にわたって実施できる運動やスポーツの楽しさと必要性を体験を通して学習する。

##### 〔到達目標〕

幼児から高齢者・障がい者までの、健康・体力・興味・関心など様々な要求に応じた運動やスポーツが、日常生活の中で継続的に行えるような状態を創り出せるようになる。

#### ■授業の概要

各種運動の実践を通して身体統御の方法を身につけ、チームの一員、仲間としての自覚をもち、社会生活のなかで規則やルールを守り、精神力や体力を養い、人間関係の円滑化を図れるようになる。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目 オリエンテーション(班づくり A、B2班に分ける・コミュニケーションゲーム)	
第2回	持久走(12分間走)	
第3回	A班 バレーボール	B班 ソフトボール
第4回	A班 バレーボール	B班 ソフトボール
第5回	A班 バレーボール	B班 ソフトボール
第6回	A班 ソフトボール	B班 バレーボール
第7回	A班 ソフトボール	B班 バレーボール
第8回	A班 ソフトボール	B班 バレーボール
第9回	A班 バasketボール	B班 フットサル
第10回	A班 バasketボール	B班 フットサル
第11回	A班 バasketボール	B班 フットサル
第12回	A班 フットサル	B班 バasketボール
第13回	A班 フットサル	B班 バasketボール
第14回	A班 フットサル	B班 バasketボール
第15回	成果発表 種目別大会実施	

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は指定のジャージを着用する。肩にかかる髪は束ねる。装飾品は厳禁。積極的に授業に参加すること。他の受講生の迷惑になる行為は厳禁(やる気のない態度や暴言)。出席を常とし、遅刻をしないこと(遅刻3回で欠席1回とカウントする)。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

日常生活の中に自分に合った、スポーツを取り入れ継続する。そのためには生活時間を有効に工夫し、積極的に身体活動を、実践することを期待する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

学習した種目の実技テスト 80% 学習意欲 20% (グループ内での関わり方)。

#### ■教科書

授業内で適宜紹介する。

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	人体構造機能学Ⅴ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	人体構造機能学Ⅴ				

#### ■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

#### ■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	神経組織の構造と機能に基づく分類	神経組織の構造と機能(神経細胞)
第2回	神経組織の構造と機能(情報の伝達・興奮の伝導・シナプス伝達・反射)	
第3回	中枢神経系の構造と機能(大脳・間脳・脳幹)	
第4回	中枢神経系の構造と機能(小脳・脊髄・中枢神経系を保護する組織, 伝導路)	
第5回	末梢神経系の構造と機能(脳神経)	
第6回	末梢神経系の構造と機能(脊髄神経・体性神経系)	
第7回	末梢神経系の構造と機能(自律神経系)	生体のリズム
第8回	神経系の確認テストと解説	
第9回	感覚器の種類と特徴	
第10回	視覚・聴覚の構造と機能	
第11回	平衡覚器の構造と機能 嗅覚と嗅覚受容器の構造と機能	
第12回	体性感覚器と内臓感覚器の構造と機能	
第13回	感覚器系の確認テストと解説	
第14回	神経系と感覚器系のまとめ	
第15回	解剖実習	

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

#### ■教科書

林正健二編集:人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版  
林正健二編集:イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

#### ■参考書

坂井建雄編集:カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	疾病・治療論総論	担当教員 (単位認定者)	川手 進・竹吉 泉 三浦 雅文・吉田 大作	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	疾病・治療論総論				

#### ■授業の目的・到達目標

将来看護を実践するにあたって、目の前の患者さんに、どのようなことが起こっていて、その問題を解決するにはどうすればよいのか、そしてその結果がどうなるかを予測できるようになることが必要である。その基礎となる、各領域の疾患の概要・症状・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得し、看護診断ならびに看護計画が立てられるようになることを目的とする。

#### ■授業の概要

疾病の発生機序と人体に及ぼす影響を学び、回復を助けるための治療方法として、リハビリテーション、放射線療法、手術療法などについて学習する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	細胞・組織に生じる変化1 代謝障害
第2回	細胞・組織に生じる変化2 循環障害
第3回	細胞・組織に生じる変化3 炎症と免疫、膠原病
第4回	細胞・組織に生じる変化4 腫瘍
第5回	個体の変化に影響する条件1 先天異常
第6回	個体の変化に影響する条件2 老化のメカニズム
第7回	生命の危機的状況①：ショック、火傷、熱傷、DIC・MOF
第8回	生命の危機的状況②：死について
第9回	手術療法1 全身麻酔
第10回	手術療法2 外科手術の実際
第11回	放射線治療総論
第12回	放射線治療各論
第13回	リハビリテーション1 リハビリテーションの基礎（ADL評価、廃用症候群、各種制度など）
第14回	リハビリテーション2 リハビリテーションの実際（理学療法）
第15回	リハビリテーション3 リハビリテーションの実際（作業療法、言語聴覚療法）

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

まず、私語は厳禁とする。注意しても私語の止まないものは、退席させる。本講義は、概論的内容であるため、各疾患に関して学習するときのベースとなる内容であることを十分理解して取り組むこと。各授業ごとにノートを整理し、各自が内容を関連付けて学習することが必要である。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

各講師の授業終了直後に質問すること。

#### ■評価方法

筆記試験による。

#### ■教科書

授業内で適宜紹介する。

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	浜田 邦弘・金子 和光 栗原 卓也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	疾病・治療論各論Ⅰ				

#### ■授業の目的・到達目標

将来看護を実践するにあたって、目の前の患者さんに、どのようなことが起こっていて、その問題を解決するにはどうすればよいのか、そしてその結果がどうなるかを予測できるようになることが必要である。その基礎となる、各領域の疾患の概要・症状・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得し、看護診断ならびに看護計画が立てられるようになることを目的とする。

#### ■授業の概要

消化器系・腎泌尿器系・内分泌系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、消化器系疾患の理解と治療 1: 食道・胃の疾患の治療①
第2回	消化器系疾患の理解と治療 2: 食道・胃の疾患の治療②
第3回	消化器系疾患の理解と治療 3: 肝臓・胆嚢の疾患と治療
第4回	消化器系疾患の理解と治療 4: 腸の疾患と治療①
第5回	消化器系疾患の理解と治療 5: 腸の疾患と治療②
第6回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 1 腎機能障害のある疾患とその治療①
第7回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 2 腎機能障害のある疾患とその治療②
第8回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 3 人工透析、腎臓の手術
第9回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 4 泌尿器系の疾患と治療① 前立腺の疾患
第10回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 5 泌尿器系の疾患と治療② その他の疾患
第11回	内分泌系疾患と治療 1 病態生理の理解と主な治療① パセドウ病・原発性アルドステロン症等
第12回	内分泌系疾患と治療 2 病態生理の理解と主な治療② 副腎脂質ホルモン異常など
第13回	内分泌系疾患と治療 3 病態生理の理解と主な治療③ 糖尿病
第14回	内分泌系疾患と治療 4 病態生理の理解と主な治療④ 脂質代謝異常、痛風等
第15回	内分泌系疾患と治療 5 病態生理の理解と主な治療⑤ その他の代謝異常 まとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

授業終了直後に、各講師に質問すること。

#### ■評価方法

筆記試験 100%。

#### ■教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎泌尿器  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌: 医学書院

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神戸 将彦・富岡 真一 根本 俊和	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	疾病・治療論各論Ⅱ				

#### ■授業の目的・到達目標

将来看護を実践するにあたって、目の前の患者さんに、どのようなことが起こっていて、その問題を解決するにはどうすればよいのか、そしてその結果がどうなるかを予測できるようになることが必要である。その基礎となる、各領域の疾患の概要・症状・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得し、看護診断ならびに看護計画が立てられるようになることを目的とする。

#### ■授業の概要

循環器系・呼吸器系・血液・造血器系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、循環器系疾患の理解と治療1 心筋梗塞、狭心症
第2回	循環器系疾患の理解と治療2 高血圧、心不全、先天性心疾患
第3回	循環器系疾患の理解と治療3 心筋疾患、心臓弁膜症
第4回	循環器系疾患の理解と治療4 大動脈瘤他、心臓の検査
第5回	循環器系疾患の理解と治療5 主な治療（ペースメーカー、手術療法など）
第6回	呼吸器系疾患の理解と治療1 肺がんの理解と内科的療法
第7回	呼吸器系疾患の理解と治療2 肺がんの理解と外科的療法
第8回	呼吸器系疾患の理解と治療3 肺炎、気管支炎
第9回	呼吸器系疾患の理解と治療4 気管支喘息、結核
第10回	呼吸器系疾患の理解と治療5 主な治療
第11回	血液・造血器系疾患の理解と治療1 血液疾患の特徴と症状
第12回	血液・造血器系疾患の理解と治療2 白血病
第13回	血液・造血器系疾患の理解と治療3 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫
第14回	血液・造血器系疾患の理解と治療4 DIC、紫斑病、再生不良性貧血など
第15回	血液・造血器系疾患の理解と治療5 輸血療法他主な治療 まとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

授業終了直後に、各講師に直接質問すること。

#### ■評価方法

筆記試験 100%。

#### ■教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器、系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病感染症、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液：医学書院

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。



科目名	微生物学	担当教員 (単位認定者)	高木 勝広	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	日和見感染症、院内感染症、滅菌と消毒、薬剤耐性				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

病気の原因となる微生物の基礎的な性質、感染と発症のメカニズム、化学療法、感染予防対策等について、医療従事者として必要な知識を身につける。特に看護師による院内感染の予防対策は重要である。院内感染予防の観点から合理的な対応と適切な対策を行えるよう、その基盤となる知識を習得する。

##### 〔到達目標〕

- ①微生物とはどのような生物なのか、その種類と性質について理解する。
- ②感染とその防御機構について理解する。
- ③主な病原微生物の性質と病気等について理解する。

#### ■授業の概要

近年、微生物学分野における著しい発展の反面、SARSの流行や新型インフルエンザの出現、さらにはMRSAなど難治性の薬剤耐性菌による院内感染や日和見感染症の急増など、感染症の種類やその様相は著しく変貌している。本講義では、感染症の原因となる各種病原微生物の一般的性質及びこれらに対する宿主の免疫応答機構を学習する。各論では免疫低下に因る日和見感染症、耐性菌による院内感染症、人畜共通感染症、輸入感染症などについて学ぶ。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	微生物と微生物学
第2回	細菌学総論① 細菌の形態と特徴
第3回	細菌学総論② 細菌の増殖、遺伝、分類、常在細菌叢
第4回	ウイルス学総論① 形態と構造、分類
第5回	ウイルス学総論② 培養と増殖、遺伝
第6回	真菌学総論 形態と特徴、増殖、分類
第7回	原虫学総論 形態と特徴、増殖、分類 滅菌と消毒
第8回	感染症と発病 感染の機構、感染の成立から発症・治癒
第9回	細菌学各論① グラム陽性球菌からグラム陽性無芽胞桿菌
第10回	細菌学各論② グラム陰性菌
第11回	細菌学各論③ 抗酸菌、放線菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア
第12回	ウイルス学各論① DNAウイルス
第13回	ウイルス学各論② RNAウイルス
第14回	その他の感染（真菌、原虫）
第15回	講義全体のまとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

講義計画に該当する内容をテキストから探し、事前に読んでおいてください。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

小テスト（20%）、学期末定期試験（80%）等で評価します。

#### ■教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④ ISBN 978-4-260-00673-6

#### ■参考書

東匡伸、小熊恵二編：シンプル微生物学、南江堂 ISBN978-4-524-23978-8

科目名	栄養学	担当教員 (単位認定者)	木村 順子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	栄養アセスメント、栄養素、おもな消化酵素と基質および消化後の産物、食事療法、経腸栄養法、静脈栄養法				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔目的〕

看護業務に必要な栄養学の基本的な知識を身につける。

##### 〔到達目標〕

- ・栄養状態の評価、判定法を理解し、実践できる。
- ・栄養素の種類とはたらき、消化、吸収、代謝、食事摂取基準について理解できる。
- ・各種疾患患者の食事療法についての知識を得る。
- ・栄養補給法の種類と特徴を理解できる。
- ・実践可能な分野は自らの日常生活にいかす。

#### ■授業の概要

栄養学は生涯を通じて健康を保持・増進し、健康的なライフスタイルを送れるよう、食の科学を追求し、それを実践するための学問である。栄養学概論、栄養学各論、病院食、疾患別食事療法の実際を授業計画のスケジュールに沿って進めていく。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき
第2回	栄養状態の評価・判定、エネルギー代謝
第3回	栄養素の消化吸収、栄養素の体内代謝
第4回	栄養ケア・マネジメント、ライフステージと栄養
第5回	臨床栄養（A. 病院食、B. 疾患別食事療法の実際①）
第6回	臨床栄養（B. 疾患別食事療法の実際②、③）
第7回	臨床栄養（B. 疾患別食事療法の実際④～⑧）
第8回	臨床栄養（B. 疾患別食事療法の実際⑨～⑪）、栄養補給法） 健康づくりと食品・食事・食生活、日本人の食事摂取基準

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・他の教科との関連を理解する。
- ・教科書は、授業内容に合わせ、あらかじめ読んでおき、理解を深めておく。
- ・私語等受講生の迷惑になる行動は慎む。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

課題は指示された日程までに完成し、提出すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

定期試験（80%）及び課題提出（20%）をもとに総合評価する。

#### ■教科書

著者代表 中村丁次 系統看護学講座専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能 [3] 医学書院

#### ■参考書

著者代表 中村丁次 系統栄養学講座別巻 栄養食事療法 医学書院

科目名	病理学	担当教員 (単位認定者)	前島 俊孝	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	病因、病態				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。

##### 〔到達目標〕

- ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。
- ・基本的な疾患の病態について説明できる。

#### ■授業の概要

細胞障害、循環障害、先天異常、炎症・免疫・感染症、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	病理学と解剖学
第3回	病因
第4回	細胞障害
第5回	循環障害
第6回	循環障害
第7回	先天異常
第8回	炎症
第9回	免疫異常・アレルギー
第10回	感染症
第11回	腫瘍
第12回	腫瘍
第13回	腫瘍
第14回	代謝異常
第15回	まとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・解剖学全般の復習をして、病理学の講義に望んで欲しい。
- ・机の隣同士2人で相談し、病理学と解剖学の教科書を1冊ずつ用意すること。
- ・授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りと相談するなどして何らかの答えを導き出すように。
- ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

特に予習の必要はないが、授業で扱った内容について、必ずその週のうちに教科書を読み復習すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)80%、レポート20%。

#### ■教科書

新クイックマスター 病理学(堤 寛 監修、医学芸術社)

#### ■参考書

解剖学の教科書(病理学の講義でも使用する)



科目名	臨床薬理薬物論	担当教員 (単位認定者)	新井 篤	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	臨床薬理学薬物論				

#### ■授業の目的・到達目標

Ptが、受けている薬物療法を安全に行えるよう臨床病態と関連づけながら使われている薬の作用や副作用などを正しく理解することができる。

#### ■授業の概要

薬理作用の基礎として、薬の作用原理・吸収・代謝・排泄などの機序を学び、その後、病態生理をおさえた上で臨床薬を中心にその薬理作用・治療法や使用上の注意点を学び臨床で活用できる知識を身に付けることを目的とする。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	今後の授業内容についてオリエンテーションを行う。および生理学復習。
第2回	薬理学 総論 薬理作用の基礎。薬の作用原理・受容体・吸収分布・代謝・排泄・相互作用・薬物中毒・副作用などを理解する。
第3回	薬理学 各論 末梢神経系と末梢神経作用薬について を学ぶ。
第4回	自律神経系薬物について を学ぶ。
第5回	中枢神経系作用薬について を学ぶ。
第6回	心血管系作用薬について を学ぶ。
第7回	呼吸器・消化器・生殖器系作用薬について を学ぶ。
第8回	抗感染症薬について を学ぶ。
第9回	抗癌剤について を学ぶ。
第10回	免疫治療薬について を学ぶ。
第11回	抗アレルギー薬について を学ぶ。
第12回	抗炎症薬について を学ぶ。
第13回	物質代謝作用薬（糖尿病・甲状腺・骨粗鬆症）について を学ぶ。
第14回	皮膚科・眼科用薬について を学ぶ。
第15回	救急時用いられる薬物・消毒薬について を学ぶ。

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

各自ノートを取る。教科書および参考図書を良く読むこと。教科書 参考書は必ず持参して下さい。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている教科書は必ず熟読し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。授業冒頭で学習理解度を知るためミニテストを行うこともある。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

■筆記試験（客観・論述）100%

#### ■教科書

- ①系統看護学講座 専門基礎5 疾病のなりたちと回復の促進2 医学書院
- ②新井篤 著 栗原 卓也 監修 コメディカルのための薬理学（株）アライ 発行
- ③治療薬マニュアル 医学書院

#### ■参考書

南山堂 薬理学マニュアル

科目名	看護方法論I	担当教員 (単位認定者)	倉島 幸子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	看護過程の構造・全体像・対象特性・解決を要する矛盾(看護上の問題)				

#### ■授業の目的・到達目標

##### [ 授業目的 ]

看護過程を展開する思考の道筋を学び、既習の知識の統合と活用方法を身につけ看護実践力をつけることを目的とする。

##### [ 到達目標 ]

- ①看護過程の構造が理解できる。
- ②人間を統合的に把握し解決を要する矛盾(看護上の問題)を導きだし計画的に実施・評価する思考の道筋を理解できる。
- ③看護を実践するために知識を統合し活用する方法を身につける。

#### ■授業の概要

1. 看護過程を構成する要素とプロセスを教授する。
2. 人間を統合的に把握し解決を要する矛盾を導き出す思考の道筋を事例を用いて教授する。
3. 解決を要する矛盾(看護上の問題)をとらえ解決の方向性を描き、その人にあった看護計画について事例を用いて教授する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、看護方法論Iで何を学ぶのか、看護過程とは
第2回	看護過程の構成要素・意義、NANDA看護診断
第3回	看護過程の基盤となる考え方-問題解決過程・クリティカルシンキング
第4回	矛盾の性質、矛盾の構造、矛盾の視点からの「人間・健康・看護・看護上の問題」の定義
第5回	看護過程の展開-対象の全体像を描く、対象特性をとらえる、日常生活力のアセスメント
第6回	看護過程の展開-対象の全体像を描く、対象特性をとらえる、日常生活力のアセスメント
第7回	看護過程の展開-解決を要する矛盾を導く思考プロセス
第8回	看護過程の展開-解決を要する矛盾を導く思考プロセス
第9回	対象の全体像、対象特性をとらえる為の知識の活用の仕方
第10回	対象特性から解決を要する矛盾(看護上の問題)をとらえ、解決の方向性を描く。
第11回	事例に対して対象特性の把握〜解決の方向性を描くまでの思考プロセスをグループワーク
第12回	事例に対して対象特性の把握〜解決の方向性を描くまでの思考プロセスをグループワーク
第13回	事例に対する看護目標、看護計画の立案
第14回	事例に対する看護目標、看護計画の立案
第15回	まとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し理解をして授業に臨むこと。分からない部分を授業で解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

授業への参加度とレポートを総合して評価する。

#### ■教科書

三瓶眞貴子:看護学矛盾論 第2版,金芳堂 2013  
 茂野香おる:基礎看護技術I基礎看護学②,医学書院,2013

#### ■参考書

薄井坦子・三瓶眞貴子:看護の心を科学する,日本看護協会出版会,1996

科目名	基礎看護援助技術Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	菅沼 澄江 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	清潔・衣生活 排泄 感染予防 看取り				

#### ■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

日常生活に伴う援助技術が理解でき、習得できる。

〔到達目標〕

1. 感染予防の根拠が理解でき、無菌操作の援助が習得できる。
2. 自然排泄の意義が理解でき、排尿、排便の援助が習得できる。
3. 排尿困難時の援助方法が選択でき、導尿技術の援助が習得できる。
4. 身体の清潔の意義が理解でき、清潔ケアの援助が習得できる
5. 死への看取りの援助について理解できる。

#### ■授業の概要

前回の感染予防としての手洗いに引き続き、物品等の無菌操作について学ぶ。人間の生活習慣としての自然排泄について考え、自立にて排尿困難な場合の援助方法や無菌操作による導尿の技術を習得する。清潔に関しては、日常生活習慣に近かつけるためのアセスメントに基づき、入浴、シャワー浴、洗髪、清拭等の清潔ケア援助及び評価が出来る。看とりの看護について、安楽に導く過程について学ぶ。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	①感染防止の技術	溝口
第2回	②感染防止の技術(演習)無菌物の取り扱い	溝口
第3回	③感染防止の技術(演習)手袋の装着・ガウンテクニック等	溝口
第4回	①排泄の援助技術	小林
第5回	②排泄の援助技術	小林
第6回	③排泄の援助技術(演習)便器・尿器の与え方・オムツ交換	小林
第7回	④排泄の援助技術(演習)①導尿	小林
第8回	⑤排泄の援助技術(演習)②導尿	小林
第9回	①清潔の援助技術	菅沼
第10回	②清潔の援助技術	菅沼
第11回	③清潔の援助技術(演習)①清拭・足浴	菅沼
第12回	④清潔の援助技術(演習)②清拭・足浴	菅沼
第13回	⑤清潔の援助技術(演習)洗髪	菅沼
第14回	①看取りの援助技術	石川
第15回	②看取りの援助技術	石川

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

演習は白衣を着用(身支度をきちんとすること。身支度が整わない場合は受講を認めない)。

講義までに事前学習課題を学習して臨むこと。

技術は何回も繰り返して演習して習得すること。

〔受講ルール〕

他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用等)は厳禁。

遅刻・早退については担当教員に理由を申し出ること。

常に教科書は持参すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

事前学習の課題については必ず提出し、授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するように努力すること。看護技術の習得に関しては、再学習して修得すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験(70%)、技術確認試験(30%)、提出物、学習態度、演習の参加態度などを総合して評価する。

#### ■教科書

1. 有田清子他:基礎看護技術Ⅱ 医学書院

#### ■参考書

三上れつ・小松万喜子編集:演習・実習に役立つ基礎看護技術、NOVELLE HIROKAWA

科目名	基礎看護援助技術Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	溝口 孝美 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	与薬 検査 呼吸・循環を整える 救命救急				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

1. 診療における看護師の役割を学び、診療の介助における基本技術を習得することを目的とする。

##### 〔到達目標〕

1. 診療介助に伴う援助技術が理解できる。
2. 生体検査・検体検査、ME機器の看護の役割について理解できる。
3. 検体検査に必要な基礎的知識を理解し、血液検査における基本技術を習得する。
4. 観察・測定技術を踏まえ、呼吸・循環を整える援助技術の基礎を習得する。
5. 与薬に必要な基礎的知識を理解し、与薬に対する基本技術習得する。
6. 救命救急の処置の技術の基礎を理解できる。

#### ■授業の概要

医学的な問題を抱える対象に実施される診療・検査・治療における看護師の役割と診療に伴う看護に必要な知識、技術を教授する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目のオリエンテーション ①検査の介助技術	小林
第2回	②検査の介助技術 (演習)真空採血管を用いた静脈血の採血方法	小林
第3回	①与薬の技術	菅沼
第4回	②与薬の技術 (演習)経口与薬、口腔内与薬、直腸内与薬	菅沼
第5回	③与薬の技術	菅沼
第6回	④与薬の技術 (演習)筋肉内注射方法(中殿筋、三角筋)	菅沼
第7回	⑤与薬の技術 (演習)静脈内注射、点滴静脈内注射	菅沼
第8回	⑥与薬の技術	菅沼
第9回	①呼吸・循環を整える技術	溝口
第10回	②呼吸・循環を整える技術	溝口
第11回	③呼吸・循環を整える技術 (演習)酸素吸入療法	溝口
第12回	④呼吸・循環を整える技術 (演習)吸引・排たんケア・吸入	溝口
第13回	①救命救急の技術	石川
第14回	②救命救急の技術 (演習)一次救命処置・包帯法	石川
第15回	技術確認試験	溝口

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ・演習は白衣、ナースシューズを着用。頭髮・爪・化粧は「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。
- ・講義には事前学習課題を学習して臨むこと。
- ・技術は何回も繰り返し練習して習得すること。

##### 〔受講のルール〕

- ・他の受講生に迷惑になる行為(私語、携帯電話等の使用)は厳禁。
- ・遅刻早退については担当教員に理由を申しでること。
- ・常に教科書は持参すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験(70%)、技術確認試験(30%)、提出物、学習態度、演習の参加態度など総合して評価する。

#### ■教科書

2. 有田清子他:基礎看護技術Ⅱ、医学書院

#### ■参考書

三上れつ、小松万喜子編集:実習に役立つ基礎看護技術

科目名	看護論	担当教員 (単位認定者)	倉島 幸子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	ナイチンゲール・科学的看護論・ヘンダーソン・ペプロウ・ロイ・オレム				

#### ■授業の目的・到達目標

##### [ 授業目的 ]

看護援助の基礎となる代表的な看護論の特徴を学び、看護実践への活用ができる。

##### [ 到達目標 ]

- ①各看護論の特徴が理解できる。
- ②理論と看護実践の繋がりが理解できる。

#### ■授業の概要

1. 大理論・中範囲理論・実践理論の理論のレベルと関係について教授する。
2. 代表的な看護論の理論的枠組みおよび知識体系について教授する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、理論とは、看護論で何を学ぶのか
第2回	ナイチンゲール看護論〔1〕
第3回	ナイチンゲール看護論〔2〕
第4回	ヘンダーソン、ペプロウ、ロイ、ワトソン、オレムの看護論についてグループワークを行う。
第5回	ヘンダーソン、ペプロウ、ロイ、ワトソン、オレムの看護論についてグループワークを行う。
第6回	上記理論について発表し共通理解をする。
第7回	上記理論について発表し共通理解をする。
第8回	ナイチンゲール看護論を継承発展させた「科学的看護論」〔1〕
第9回	ナイチンゲール看護論を継承発展させた「科学的看護論」〔2〕
第10回	ナイチンゲール看護論を継承発展させた「科学的看護論」〔3〕
第11回	ヘンダーソン看護論〔1〕
第12回	ヘンダーソン看護論〔2〕
第13回	看護現象を理解するために用いられる諸理論
第14回	看護現象を理解するために用いられる諸理論
第15回	看護現象を理解するために用いられる諸理論

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し理解をして授業に臨むこと。分からない部分を授業で解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験

#### ■教科書

三瓶眞貴子：看護学矛盾論 第2版，金芳堂 2013

#### ■参考書

薄井坦子・三瓶眞貴子：看護の心を科学する，日本看護協会出版会，1996

科目名	看護基礎実習 I	担当教員 (単位認定者)	倉島 幸子 他	単位数 (時間数)	1 (45)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
	カリキュラム上の位置づけ	看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	病院機能 患者療養生活の場 看護師の役割				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

医療看護の行われている場において、患者および患者をとりまく環境の理解を深め看護の実際がわかる。

[到達目標]

- 1) 病院機能の概略および病院における医療チームとその役割を理解する。
- 2) 入院患者の療養生活の場がわかる。
- 3) 入院患者とコミュニケーションをはかり、対象のおかれている立場を理解する。
- 4) 看護師の役割を理解する。

■実習履修資格者

看護学概論 I、II の単位認定の受験資格要件を満たしている。

■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習時期 平成 27 年 1 月 19 日～23 日
2. 実習日数 5 日間
3. 時間数 45 時間

■実習上の注意

具体的内容については、看護学臨地実習共通要綱及び基礎看護学実習要項に順じ遵守すること。

■評価方法

1. 出欠席と単位については看護学臨地実習共通要綱を参照すること。
2. 基礎看護学実習 I の実習評価表に基づき目標の達成度、実習態度、提出された実習記録等によって評価する。



科目名	精神看護学概論	担当教員 (単位認定者)	酒井 美子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「精神看護学」			
キーワード	精神保健 メンタルヘルス ライフサイクルと発達課題 看護モデル・対人関係論				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

人間の精神の発達を理解し、精神保健の概念から精神看護師の役割を知り、必要な知識を得る。

##### 〔到達目標〕

- ①精神保健の定義と現代社会のメンタルヘルスの課題と対策を理解する。
- ②こころの仕組みと働きを理解する。
- ③精神機能と障害を理解する。
- ④ライフサイクルにおける危機と危機理論を理解する。
- ⑤地域精神保健看護を理解する。
- ⑥リエゾン精神看護と看護者のメンタルヘルスを理解する。

#### ■授業の概要

さまざまな社会情勢における人間のメンタルヘルス上の問題を持つ人の看護を実践するために、精神看護の目的や対象を理解する。また、精神看護の意義及び役割機能や歴史的変遷を概観し、さらに精神看護に必要な理論を身につける。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	精神保健の定義・現代社会とメンタルヘルスの動向
第2回	こころの健康(こころの仕組みと働き:フロイト)
第3回	精神機能と障害
第4回	ライフサイクルと精神保健(エリクソン・ハヴィガースト)
第5回	ライフサイクルにおける危機と危機理論(カプラン)
第6回	精神科医療の歴史・法律
第7回	精神看護における人権-看護倫理と法
第8回	臨床におけるこころの健康と不健康
第9回	現代社会とメンタルヘルス(自殺の背景と対策)
第10回	現代社会とメンタルヘルス(依存症の背景と対策)
第11回	現代社会とメンタルヘルス(いじめ・犯罪の背景と対策)
第12回	地域で暮らす人のメンタルヘルス(犯罪・災害などの危機にある人のメンタルヘルス)
第13回	リエゾン精神看護と看護者のメンタルヘルス
第14回	地域精神保健看護
第15回	まとめ・質疑応答とコメント

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生にかかわる情報〕

- ・メンタルヘルスにおける社会問題に着目し、あらゆる状況下にある人の「生きる力」を支えるために自ら思考する。
- ・予習・復習により、学習の整理、新たな課題を見出し、自分の考えを述べ思考を発展させる学習姿勢で臨む。

##### 〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨む。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、予習をしてわからない部分を授業で解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

出席状況・授業参加態度・筆記試験による総合評価で60%以上を単位認定とする。

#### ■教科書

川野雅資編集:精神看護学I「精神保健看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011  
川野雅資編集:精神看護学II「精神臨床看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	精神看護学援助論I	担当教員 (単位認定者)	酒井 美子 他	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「精神看護学」			
キーワード	精神を病む人の特徴 精神を病む人の治療・看護 日常生活 精神科リハビリテーション看護				

#### ■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神を病む人の特徴を知り、症状に合った治療ならびに看護の知識と援助を習得する。

〔到達目標〕

- ①精神看護の考え方を理解する。
- ②精神を病む人の特徴を理解する。
- ③精神を病む人の治療と看護を理解する。
- ④精神科リハビリテーション看護を理解する。
- ⑤地域精神保健活動に係るマンパワーの実際と課題を考えることができる。

#### ■授業の概要

精神を病む人の特徴を理解し、精神機能の障害により日常生活に影響する要因を考えることができる。また、精神科リハビリテーションの視点で、その人らしい生活を営めるよう地域精神保健の活用方法について知識を深めることができる。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	精神看護の考え方	酒井美子
第2回	精神を病む人の特徴と理解	〃
第3回	精神を病む人の援助の基本	〃
第4回	精神症状と看護	関根 正
第5回	精神症状と看護	〃
第6回	精神症状と看護	〃
第7回	精神症状と看護	〃
第8回	精神症状と看護	〃
第9回	精神を病む人の治療と看護(精神療法・身体療法・集団療法)	酒井美子
第10回	精神を病む人の治療と看護(薬物療法)	〃
第11回	精神を病む人の治療と看護(作業療法・レクリエーション・SST)	〃
第12回	精神を病む人の治療と看護(SST)	〃
第13回	精神科リハビリテーション看護(病棟-外来-デイケア・ナイトケア-社会復帰施設)	〃
第14回	地域精神保健活動に係るマンパワーの実際と課題	〃
第15回	まとめ・質疑応答とコメント	〃

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生にかかわる情報〕

- ・精神に関する科目、精神看護学概論で得た知識を繋げて学習する。
- ・予習・復習により、学習の整理、新たな課題を見出す学習姿勢で臨む。
- ・演習では、体験を通して自分の感じたことや考えたことを積極的に表現する。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨む。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、予習をしてわからない部分を授業で解決するよう努力すること。演習は主体的に参加して学ぶ。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

出席状況・授業参加態度・筆記試験による総合評価で60%以上を単位認定とする。

#### ■教科書

川野雅資編集:精神看護学I「精神保健看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011  
川野雅資編集:精神看護学II「精神臨床看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011  
宮本真巳:看護場面の再構成、日本看護協会出版会、2011

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	成人看護学概論	担当教員 (単位認定者)	平賀 元美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	成人 経過別看護				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

成人の特徴及び健康問題を理解するとともに、成人の健康課題への取り組み方の特徴を理解して、看護に役立てる能力を身につける。

成人看護を理解し実践するうえで基礎となる概念を理解する。

##### 〔到達目標〕

①成人の特徴として、成長発達、発達課題、健康問題、成人を取り巻く環境を理解する。

②成人期にある人の健康状態と看護の考え方を、健康の保持増進、急性期、慢性期、回復期、終末期の経過において理解する。

#### ■授業の概要

グループワークを通して、成人の理解、健康障害の特徴、成人を取り巻く環境について理解する。

成人看護の理解は、看護するうえで基礎となる概念を事例に照らして理解し、看護の方法を検討できるようにする。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション グループワークの説明
第2回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔1〕
第3回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔2〕
第4回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔3〕
第5回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔4〕
第6回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔5〕 発表
第7回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔6〕 発表
第8回	成人期にある人々の特徴と取り巻く環境、健康問題
第9回	成人看護の目的と特性 成人期にある人々の健康の保持増進のための看護①
第10回	成人期にある人々の健康の保持増進のための看護②
第11回	事例に基づく健康の保持増進のための看護の理解
第12回	成人期の健康障害との経過の特徴 成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護（慢性的な経過）
第13回	事例に基づく慢性的な経過をたどる人々の看護の理解
第14回	成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護（急性的な経過）
第15回	成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護（終末の経過）

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

・この科目は臨床看護学実習の履修要件となっている。

・グループワークはリーダーを決め、計画的かつ主体的に取り組むこと。

##### 〔受講のルール〕

・授業計画を確認し、必要なテキストの準備を行って積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業で解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験（客観・論述）とし、60%を超えていることとする。

#### ■教科書

- 1) 小松浩子他 系統看護学講座成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院
- 2) 国民衛生の動向
- 3) 黒田裕子 よくわかる中範囲理論 学研

#### ■参考書

- 1) 舟島なをみ 看護のための人間発達学 医学書院
- 2) 松本千明 健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 医歯薬出版株式会社

科目名	高齢者看護学概論	担当教員 (単位認定者)	橋本 知子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「高齢者看護学」			
キーワード	高齢者看護学、高齢社会、高齢化、保健医療福祉、医療制度、介護保険制度、権利擁護、高齢者虐待、エイジズム				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔目的〕

高齢者看護を理解するための基礎知識を学ぶ。

#### 〔目標〕

- ①老いを生きる高齢者その人に焦点を当て、エイジングや発達課題について理解する。
- ②今日の高齢社会の諸相について統計的資料を活用して理解を深める。
- ③高齢社会における保健・医療・福祉の動向とその課題について理解を深める。
- ④高齢者の自立と権利を知り、それらを阻む虐待や拘束などの実態から高齢者を守るための諸制度について理解する。
- ⑤ライフサイクルの最終段階における死の概念と支援について理解する。
- ⑥高齢者看護の理念・定義の変遷等を知り、実践と責務について理解する。
- ⑦高齢者の生活に影響を与える加齢変化を統合的にとらえ高齢者看護の基礎知識を修得する。

### ■授業の概要

今日の高齢社会の諸相を統計的側面で大局的にとらえ、人間の加齢過程を把握し、高齢者の発達段階・課題を知る。また、高齢社会における保健・医療・福祉の動向とその課題について理解を深める。それらを通して、高齢者看護の理念並びに高齢者看護の視点で洞察することができるようにする。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション①老いの概念②加齢過程と新しいモデル③高齢者の発達段階・課題
第2回	高齢社会と社会保障①高齢社会の統計的輪郭(少子高齢化、高齢者の健康状態、暮らし等)
第3回	②保健医療福祉の動向(ソーシャルサポート:フォーマル、インフォーマル等)
第4回	保健医療福祉システム構築①高齢者保健医療・福祉制度の変遷②高齢者福祉の創設
第5回	③老人医療費の増加④保健医療福祉の連携と在宅サービス⑤高齢者医療制度改革
第6回	⑥介護保険制度創設⑦高齢者医療確保法 小テスト①
第7回	⑧介護保険制度の改正⑨介護保険制度の理念・しくみ・サービス・予防
第8回	⑩高齢者を支える職種・活動の場・専門化⑪保健医療福祉施設⑫介護家族
第9回	高齢社会の権利擁護①スティグマと差別②エイジズム③権利擁護(アドボカシー)
第10回	④高齢者虐待⑤身体拘束⑥権利擁護のための制度(成年後見制度、日常生活自立支援事業)
第11回	高齢者看護の理念①老年看護の成り立ち②老年看護の定義と変遷 小テスト②
第12回	高齢者看護の実践の特徴と責務
第13回	高齢者の健康問題とライフサイクルの最終段階における死の概念と支援
第14回	長寿社会を生きる社会生活の条件や地域資源を活用した看護の展開
第15回	高齢者看護に関する基礎的知識の統合

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

1回～15回の講義を通して高齢者看護を理解するための基礎を学びます。高齢者が抱える今日的な課題となっている諸問題を解説していきます。高齢者看護を保健・医療・福祉の側面から捉えその動向を知ることが、高齢者看護をより深く理解できるようにくみ立っています。欠席しないで予習・復習をして講義に参加して下さい。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

### ■オフィスアワー

授業終了後の放課後。

### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)80%、小テスト10%、課題レポート10%で総合評価する。総合評価は筆記試験・課題レポートの60%を超えることが大前提である。

### ■教科書

①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②国民衛生の動向

### ■参考書

老年看護学関連出版物、随時資料を提示。



科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	2年生担任	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	建学の精神、学士力、地域貢献活動、研究、進路				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

基礎演習Ⅰに引き続き、建学の精神に基づき、人間として基礎的教養力と問題解決能力を養うとともに、医療従事者としての基本的姿勢と、社会に貢献できる人間力を身につける。

#### 〔到達目標〕

マナー・バランス感覚・挨拶・服装・時間厳守・環境美化・ボランティアといった自律的実践能力を身に付ける。グループ研究を通して学士としての基礎的能力を身に付ける。また、人生観や職業観を深め、自己の課題を明確にし、専門演習への円滑な移行を図ることができる。

### ■授業の概要

建学の精神への理解を深め、マナー・バランス感覚・挨拶・服装・時間厳守・環境美化・ボランティア活動、地域貢献といった自律的実践力を身につける。また、基礎演習Ⅰで学んだ文献検索は内容の理解や要約の仕方等の詳細についても教授するとともに、グループ研究ではアンケート調査の方法を学び、研究をさらに発展させ発表を行う。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	前期ガイダンス、オリエンテーション
第2回	建学の精神と実践プログラム①目標の設定と計画
第3回	建学の精神と実践プログラム②環境美化・ボランティア活動、地域貢献
第4回	進路・資格取得プログラム-学習方法、進路選択、国家試験
第5回	学士力・研究指導プログラム①看護研究とは
第6回	学士力・研究指導プログラム②質問紙による調査方法と統計
第7回	学士力・研究指導プログラム③研究計画書
第8回	学士力・研究指導プログラム④文献要約（レポート）
第9回	グループ研究①テーマの設定
第10回	グループ研究②研究計画書の作成
第11回	グループ研究③質問紙の作成
第12回	グループ研究④質問紙の集計
第13回	グループ研究⑤結果の分析
第14回	夏季休暇の計画、課題について（読書感想文）
第15回	前期の振り返りと自己の課題

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生に関わる情報〕

- ①基礎演習は、ボランティア活動・環境美化活動と合わせて、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- ②予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問すること。
- ③教科書や当日の記録を基に十分な復習を行う。

#### 〔受講のルール〕

- ①授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ②授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。
- ③受講態度の望ましくない場合は退出させ、当該授業を欠席扱いとする。
- ④私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は退出させ、当該授業について欠席扱いにする。
- ⑤レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ①授業での学びを日常生活でも意識して取り組むこと。
- ②夏休み中に各グループで分担した研究調査を進めること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

- ①レポート課題 30%
- ②グループ研究 30%
- ③受講態度、授業への取り組み 40%

### ■教科書

- ①鈴木利定・中田勝（著）「咸有一徳」
- ②基本演習テキスト（群馬医療福祉大学）
- ③KAN-TAN看護の計算・数式 野崎真奈美他著（医学書院）

### ■参考書

系統別看護師国家試験問題（医学書院）

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	2年生担任	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	建学の精神、学士力、地域貢献活動、研究、進路				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

基礎演習Ⅰに引き続き、建学の精神に基づき、人間として基礎的教養力と問題解決能力を養うとともに、医療従事者としての基本的姿勢と、社会に貢献できる人間力を身につける。

##### 〔到達目標〕

マナー・バランス感覚・挨拶・服装・時間厳守・環境美化・ボランティアといった自律的実践能力を身に付ける。グループ研究を通して学士としての基礎的能力を身に付ける。また、人生観や職業観を深め、自己の課題を明確にし、専門演習への円滑な移行を図ることができる。

#### ■授業の概要

建学の精神への理解を深め、マナー・バランス感覚・挨拶・服装・時間厳守・環境美化・ボランティア活動、地域貢献といった自律的実践力を身につける。また、基礎演習Ⅰで学んだ文献検索は内容の理解や要約の仕方等の詳細についても教授するとともに、グループ研究ではアンケート調査の方法を学び、研究をさらに発展させ発表を行う。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期ガイダンス、オリエンテーション
第17回	グループ研究⑥学内発表(口頭)
第18回	グループ研究⑦学内発表(口頭)
第19回	グループ研究⑧学内発表の振り返りと昌賢祭発表に向けて
第20回	グループ研究⑨昌賢祭発表準備(ポスター制作)
第21回	グループ研究⑩昌賢祭発表準備(ポスター制作)
第22回	研究指導プログラム①グループ研究からの学びと課題(レポート)
第23回	研究指導プログラム②4年生看護研究発表会への参加
第24回	マナーと一般常識(レポート)
第25回	進路・資格取得プログラム①学習方法と国家試験対策
第26回	進路・資格取得プログラム②学習方法と国家試験対策
第27回	進路・資格取得プログラム③養護教諭、保健師、看護職種としての様々な資格や就職について
第28回	地域貢献プログラム①ボランティア活動報告
第29回	地域貢献プログラム②ボランティア活動報告(レポート)
第30回	1年間の振り返りと自己の課題、次年度の目標(レポート)

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ①基礎演習は、ボランティア活動・環境美化活動と合わせて、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- ②予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問すること。
- ③教科書や当日の記録を基に十分な復習を行う。

##### 〔受講のルール〕

- ①授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ②授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など)を活用すること。
- ③受講態度の望ましくない場合は退出させ、当該授業を欠席扱いとする。
- ④私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は退出させ、当該授業について欠席扱いにする。
- ⑤レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ①授業での学びを日常生活でも意識して取り組むこと。
- ②夏休み中に各グループで分担した研究調査を進めること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

- ①レポート課題 30%
- ②グループ研究 30%
- ③受講態度、授業への取り組み 40%

#### ■教科書

- ①鈴木利定・中田勝(著)「咸有一徳」
- ②基本演習テキスト(群馬医療福祉大学)
- ③KAN-TAN看護の計算・数式 野崎真奈美他著(医学書院)

#### ■参考書

系統別看護師国家試験問題(医学書院)



科目名	住環境福祉論	担当教員 (単位認定者)	岡部 貴代	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	福祉 住環境 バリアフリー				

#### ■授業の目的・到達目標

- ①住環境整備がなされたときの利点を理解し、その必要性を説明することができる。
- ②在宅生活において、生活行為別に住環境整備の提案をおこなうことができる。
- ③基本的な建築用語を理解でき、設計図面から簡単な情報を読み取ることができる。

#### ■授業の概要

医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識を身につけ、主に在宅生活において、実際に問題解決を提案できる能力を養う。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、住環境整備の必要性
第2回	バリアフリーとユニバーサルデザイン、介護保険制度における住宅改修
第3回	住宅建築の基礎知識
第4回	住環境整備の共通基本技術(1)
第5回	住環境整備の共通基本技術(2)
第6回	生活行為別住環境整備の手法(1)
第7回	生活行為別住環境整備の手法(2)
第8回	生活行為別住環境整備の手法(3)、事例集

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

講義中のノート筆記は必ず行う。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

住宅、街、道路、交通など、自分の身の回りの生活環境を、授業で学習した住環境整備の視点で観察し、発見や疑問を授業内で確認、質問する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

定期試験で100%の評価をする。

#### ■教科書

東京商工会議所編・出版：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 改訂2版

#### ■参考書

授業中に随時紹介する。

科目名	教育と学習の原理	担当教員 (単位認定者)	島田 昌幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師・養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	教育、学習、教育評価、授業、学習意欲、教材作成、カリキュラム、ガイダンス				

#### ■授業の目的・到達目標

〔目的〕

教育と学習の意義を多面的に問い直し、同時に、自己教育の視点からも役立てる方法を検討する。

〔到達目標〕

- ①教育、学習、意欲、カリキュラム、教材、ガイダンス等の基本的概念を習得する。
- ②教育の課題に取り組み、自分の解決案をまとめる。
- ③課題解決の学習を通して学んだ成果を発表または報告する。

#### ■授業の概要

教育とは何か、なぜ学ぶのか、教育評価は必要か、学習意欲はどうしたら高まるか?等々、日常生活の中で見過ごしている教育の諸問題を検討する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	序章 オリエンテーション
第2回	第1章 教育と学習の本質 第1節 教育と学習の課題
第3回	第2節 参考書と課題
第4回	第2章 教育と評価 第1節 教育評価の意義
第5回	第2節 教育評価の方法
第6回	第3章 学習と教育 第1節 学習とは何か
第7回	第2節 学習の種類 第3節 学習と教育
第8回	第4章 意欲を高める授業 第1節 意欲と成功
第9回	第2節 成功への期待を高める授業 第3節 失敗体験を活かす授業
第10回	第4節 発達段階に応じた教育、授業方法
第11回	第5章 学習意欲を支援する自作教材作成法
第12回	第6章 カリキュラム
第13回	第7章 教育に影響を及ぼした人々
第14回	第8章 ガイダンス
第15回	第9章 課題と発表

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行うことになる。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験(客観、論述)40%、課題レポート及び発表40%、授業への参加度20%。

#### ■教科書

島田昌幸著「教育と学習の原理」研文社

#### ■参考書

テキストおよび授業の中で紹介する。

科目名	医療英会話	担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「外国語」			
キーワード	医療英会話				

#### ■授業の目的・到達目標

看護現場で患者やスタッフと意思疎通を図れる。  
覚えた表現を応用して様々な会話の場面に対応できる。  
看護現場で使用頻度の高い語彙を聞き取れ、発音することができる。

#### ■授業の概要

ペアワークを中心に行い、英語を話す機会を多く設ける。  
時には、ゲーム、パズル、絵本などを取り入れて、楽しむ。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	Chapter 1: Things that Nurses Do	絵を使って看護師のすることを表現する。
第2回	Chapter 1: What is a Nurse?	内容について英問英答。
第3回	Chapter 2: Describing Medical Instruments	物を説明する。
第4回	Chapter 3: Asking for Personal Details	診療申込書の質問をする。相手の嗜好や要求をきく。
第5回	Chapter 4: Good Communication with a Patient Is Important	意思疎通の技術に関する聴き取りと読解。
第6回	Chapter 4: Sympathizing with the Patient	共感を伝える表現を練習。
第7回	Chapter 5: Something Special for Me	文化の違いについて考える。
第8回	Chapter 5: Avoiding and Solving Difficulties	絵を見て、問題点を指摘する。
第9回	Chapter 6: That's Important Information	指示を聴き取り、不確かな部分を質問する。
第10回	Chapter 6: The Nurse Seeks Advice from the Doctor	処置の助言を求める。
第11回	Chapter 7: Nurses Work with Related Professionals	他の専門職について知る。
第12回	Chapter 7: Telling a Story	情報を覚え、他の人にそれを伝える。
第13回	Chapter 8: So Busy Tonight	救急治療室での会話を聴きとる。
第14回	Chapter 9: Nurses Work Outside the Hospital	地域社会で働く看護師の仕事内容を把握する。
第15回	Chapter 10: What Type of Nurse Do You Want to Be?	医療現場の事象を英語で説明する。

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

実践で役立つ英会話は、何度も繰り返して身体で覚えたものです。普段生活の中で、教科書付属のCDを聴き流し、英語の音に慣れてください。そして授業中は、照れずに大きな声を出して役割練習を繰り返して下さい。お互いに練習台になりながら、英会話力を磨きましょう。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

出席、授業態度、定期試験により総合的に評価する。

#### ■教科書

English for Nursing Students (NAN'UN-DO)

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「スポーツ科学」			
キーワード	レクリエーション活動援助法				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔目的〕

対象者が元気や活力を回復し、自立した豊かな生活を送れるような、レクリエーション援助ができるようになる。

##### 〔到達目標〕

レクリエーションの意義を理解し、基礎技術・手法を身につけ、対象者にふさわしい形で様々なレクリエーション活動の支援が展開できるようになる。

#### ■授業の概要

レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験学習を通して学習する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目 オリエンテーション（アイスブレイキング）
第2回	コミュニケーション・ワーク（ホスピタリティ精神）
第3回	レクリエーションの意義と支援者にとってのレクリエーション
第4回	高齢者・障がい者にとってのレクリエーション
第5回	アセスメントの実際
第6回	治療的意味合いを含めたレクリエーション
第7回	レクリエーション活動の安全管理
第8回	まとめ（ふりかえり・評価）

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は資料プリントで行う。出席を常とし積極的に授業に出席すること。遅刻・授業中の私語・携帯電話の使用は禁止。実技は指定のジャージを着用。装飾品は厳禁、肩にかかる髪は束ねる。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

各種イベントや講習会・セミナー・ボランティア活動等へ積極的に参加して、人間交流の在り方やレクリエーション支援の方法を幅広く体験、経験する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験 70% 課題 20% 学習意欲 10%（姿勢・積極性・コミュニケーション能力）。

#### ■教科書

資料プリントで対応する。

#### ■参考書

必要に応じて適宜紹介する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	竹内 法明・栗原 卓也 奥泉 宏康	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	運動器系疾患、脳神経疾患				

#### ■授業の目的・到達目標

将来看護を実践するにあたって、目の前の患者さんに、どのようなことが起こっていて、その問題を解決するにはどうすればよいのか、そしてその結果がどうなるかを予測できるようになることが必要である。その基礎となる、各領域の疾患の概要・症状・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得し、看護診断ならびに看護計画が立てられるようになることを目的とする。

#### ■授業の概要

運動器系・脳神経系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、運動器系の疾患の理解と治療1: 骨折①上肢の骨折(上腕骨顆上骨折、橈骨骨折、鎖骨骨折など)
第2回	運動器系の疾患の理解と治療2: 骨折②下肢の骨折(大腿骨頸部骨折、大たい骨骨折、脛骨・踵骨骨折など)
第3回	運動器系の疾患の理解と治療3:脊椎の疾患①椎間板ヘルニア、側弯症他
第4回	運動器系の疾患の理解と治療4:脊椎の疾患②脊髄損傷、脊髄腫瘍
第5回	運動器系の疾患の理解と治療5:神経麻痺
第6回	運動器系の疾患の理解と治療6:先天性疾患(内反足、先天性股関節脱臼等)
第7回	運動器系の疾患の理解と治療7:骨腫瘍
第8回	脳神経系の疾患の理解と治療1:脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血(内科的治療)
第9回	脳神経系の疾患の理解と治療2:脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血(外科的治療)
第10回	脳神経系の疾患の理解と治療3:脳腫瘍
第11回	脳神経系の疾患の理解と治療4:パーキンソン病、ALS
第12回	脳神経系の疾患の理解と治療5:脊髄小脳変性症、髄膜炎など
第13回	脳神経系の疾患の理解と治療6:認知症
第14回	脳神経系の疾患の理解と治療7:脱髄性疾患、脳性まひ他
第15回	脳神経系の疾患の理解と治療8:その他

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

授業終了直後に、各講師に質問すること。

#### ■評価方法

筆記試験 100%

#### ■教科書

系統看護学講座専門分野Ⅱ 脳・神経、系統看護学講座専門分野Ⅱ 運動器:医学書院

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	高玉 篤・岡宮 智史 栗原 卓也・笹澤 武史・吉村 健佑	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	疾病・治療論各論Ⅳ				

#### ■授業の目的・到達目標

将来看護を実践するにあたって、目の前の患者さんに、どのようなことが起こっていて、その問題を解決するにはどうすればよいのか、そしてその結果がどうなるかを予測できるようになることが必要である。その基礎となる、各領域の疾患の概要・症状・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得し、看護診断ならびに看護計画が立てられるようになることを目的とする。

#### ■授業の概要

感覚器領域（眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科）ならびに精神神経系と歯科領域の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、感覚器系疾患1 眼科の疾患の理解と治療①遠視、近視、老視、白内障
第2回	感覚器系疾患2 眼科の疾患の理解と治療②緑内障、感染性疾患他
第3回	感覚器系疾患3 耳鼻咽喉科の疾患の理解と治療①喉頭部の疾患
第4回	感覚器系疾患4 耳鼻咽喉科の疾患の理解と治療②鼻腔の疾患
第5回	感覚器系疾患5 耳鼻咽喉科の疾患の理解と治療③耳の疾患
第6回	感覚器系疾患6 皮膚科の疾患の理解と治療①皮膚炎、湿疹、感染性疾患
第7回	感覚器系疾患7 皮膚科の疾患の理解と治療②皮膚悪性腫瘍、褥瘡
第8回	精神疾患の理解と治療1: 精神疾患の特徴
第9回	精神疾患の理解と治療2: 精神発達遅滞、パーソナリティ障害
第10回	精神疾患の理解と治療3: 不安障害（神経症）、心身症・身体表現性障害
第11回	精神疾患の理解と治療4: 統合失調症
第12回	精神疾患の理解と治療5: 躁うつ病
第13回	精神疾患の理解と治療6: 児童期の精神疾患、老年期の精神疾患
第14回	精神疾患の理解と治療7: アルコール依存症、薬物依存と中毒
第15回	歯科領域の疾患の理解と治療: 齲蝕、歯周病、保存治療、補綴治療

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

各教員の授業終了直後に質問すること。

#### ■評価方法

筆記試験 100%

#### ■教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 歯・口腔 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開: 医学書院

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。



科目名	疾病・治療論各論V	担当教員 (単位認定者)	林 博・多田 真和	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	疾病・治療論各論V				

#### ■授業の目的・到達目標

将来看護を実践するにあたって、目の前の患者さんに、どのようなことが起こっていて、その問題を解決するにはどうすればよいのか、そしてその結果がどうなるかを予測できるようになることが必要である。その基礎となる、各領域の疾患の概要・症状・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得し、看護診断ならびに看護計画が立てられるようになることを目的とする。

#### ■授業の概要

1. 生殖器系疾患の病態生理と治療について学ぶ。
2. 小児期にある子どもおよび高齢者に特有な疾患を取り上げ、各疾患の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について教授する。これらの疾患の治療に伴う看護を考える基礎知識とする。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、生殖器系疾患の理解と治療 1: 子宮筋腫・子宮がん
第2回	生殖器系疾患の理解と治療 2: 卵巣のう腫・卵巣がん、不妊
第3回	生殖器系疾患の理解と治療 3: 乳がん
第4回	生殖器系疾患の理解と治療 4:
第5回	■代謝・内分泌疾患：新生児マスキリーニング対象疾患、1型糖尿病など ■免疫・アレルギー性疾患：アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、若年性関節リウマチなど
第6回	■感染症：急性乳幼児下痢症、麻疹、風疹、突発性発疹症、水痘・带状疱疹、手足口病、流行性耳下腺炎、急性灰白髄炎、日本脳炎、インフルエンザなど
第7回	■呼吸器疾患：気管支喘息、細気管支炎、マイコプラズマ肺炎、仮性ク룹など ■腎・泌尿器疾患：ネフローゼ症候群など
第8回	■循環器疾患：先天性心疾患（心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、卵円孔開存症、ファロー四徴症など）、後天性心疾患（川崎病、リウマチ性弁膜症など）
第9回	■消化器疾患：口唇・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、腸閉塞、腸重積症、ヒルシウスブルング病、直腸肛門奇形・鎖肛、急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、胆道閉鎖症など
第10回	■血液疾患：血友病、血管性紫斑病、突発性血小板減少性紫斑病など ■腫瘍性疾患：神経芽腫、ウィルムス腫瘍、急性リンパ性白血病、脳腫瘍など ■神経疾患：髄膜炎、てんかん、水頭症、熱性けいれん、憤怒けいれん、脳性まひ、進行性筋ジストロフィー、二分脊椎症など ■運動器・骨格器疾患：先天性股関節脱臼、先天性筋性斜頸、脊柱側弯症、骨折、合指症など
第11回	■皮膚疾患：色素性母斑、熱傷など ■眼疾患：結膜炎、全色盲、先天性白内障・緑内障、斜視など ■耳鼻咽喉疾患：外耳奇形、中耳炎、副鼻腔炎、アデノイド増殖症、口蓋扁桃肥大など
第12回	老年特有の疾患の理解と治療 1:
第13回	老年特有の疾患の理解と治療 2:
第14回	老年特有の疾患の理解と治療 3:
第15回	老年特有の疾患の理解と治療 4:

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

授業終了直後に、各講師に質問すること。

#### ■評価方法

筆記試験 100%

#### ■教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論、  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論：医学書院

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	社会保障制度	担当教員 (単位認定者)	瓜巢 一美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「社会科学系(保健医療福祉)」			
キーワード	社会保障 代替的所得保障 社会福祉				

■授業の目的・到達目標

1. 社会保障の用語及び歴史的な理解。
2. 社会保障制度の目的・制度体系の理解。
3. 社会福祉及び国民生活への国策について。

■授業の概要

医療対象あるいは雇用労働者にとっての社会保障制度の役割などを関係者(医療従事者)が理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	社会福祉と社会保障の関係
第2回	わが国の社会保障関係の概要Ⅰ
第3回	わが国の社会保障関係の概要Ⅱ
第4回	わが国の社会保障関係の概要Ⅲ
第5回	介護保険の概要
第6回	生活保護・社会保険の制度Ⅰ
第7回	生活保護・社会保険の制度Ⅱ
第8回	社会保障の国際比較など

■受講生に関わる情報および受講のルール

--

■授業時間外学習にかかわる情報

随時提供。

■オフィスアワー

出講日随時。

■評価方法

授業内容におけるテスト 100%。

■教科書

社会保障の手引(平成24年版または25年版)中央法規出版 2800円(税別)

■参考書

随時提示する。

科目名	社会福祉制度	担当教員 (単位認定者)	小出 省司	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「社会科学系(保健医療福祉)」			
キーワード	社会福祉制度				

#### ■授業の目的・到達目標

- 1 社会福祉制度は医療を受けている人々に密接な関係を持っています。例えば生活が困窮している患者さんは必要によっては生活保護(医療扶助)を受けなければなりません。この授業は看護師、保健師を目指す皆さんがそのアウトラインを承知することにより今後の業務の参考となるような内容にしていきたいと思います。
- 2 系統看護学講座「社会福祉」(健康支援と社会保障制度③)【医学書院】を基本図書として、社会保障制度全般や社会福祉サービスの個別をみていく中でそれぞれの福祉の対象者の実態がどのような状況であるかについて理解すると共に、特に日本国憲法をはじめとする各種法律に基づきサービスの提供等が行われているので、各法でどのように規定されているかについて検討し、国をはじめとする行政の取り組み、関係団体や社会福祉施設の実情等を把握し、今後の課題等についても考察してみる。

#### ■授業の概要

レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験学習を通して学習する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション、講師紹介等
第2回	社会保障制度と社会福祉 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向
第3回	医療保障
第4回	介護保障
第5回	所得保障 公的扶助
第6回	社会福祉の分野とサービス
第7回	社会福祉実践と医療・看護
第8回	社会福祉の歴史 まとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

授業では基本的に「パワーポイント」で資料説明等しながら問題点の把握、今後の学習の狙い等理解を深めていくこととする。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

参考法①日本国憲法②社会福祉法③生活保護法④児童福祉法⑤身体障害者福祉法⑥知的障害者福祉法⑦母子及び寡婦福祉法⑧老人福祉法 等々

#### ■オフィスアワー

学習の効果は「不明点」や「疑問点」をその都度確認しておくことにあります。

- ①授業時に遠慮なく質問等すること。
- ②授業以外でも事務局(学生課、教務課等)を通じて質問事項をメモして提出すること。
- ③どのようなことでも相談に乗りますので遠慮なく。
- ④授業時のパワーポイントは、希望者にはUSBでコピーを可能とします。(オリエンテーション時に説明)

#### ■評価方法

筆記試験 70% 課題 20% 学習意欲 10% (姿勢・積極性・コミュニケーション能力)

#### ■教科書

○教科書 系統看護学講座『社会福祉』(健康支援と社会保障制度③)【医学書院】

#### ■参考書

①『国民の福祉と介護の動向』(厚生労働統計協会)②社会保障の手引き③福祉六法等(各社)

科目名	リハビリテーションの基礎	担当教員 (単位認定者)	小島俊文・北爪浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「社会科学系(保健医療福祉)」			
キーワード	リハビリテーション・理学療法・運動療法・物理療法				

#### ■授業の目的・到達目標

##### [授業の目的]

リハビリテーションについて理解し、理学療法および作業療法と多職種、特に看護との関係について理解することを目的とする。

##### [到達目標]

- ①リハビリテーションの定義について述べるができる。
- ②理学療法の治療手段について述べるができる。
- ③作業療法について概要を説明できる。

#### ■授業の概要

本講義では、医療分野におけるリハビリテーションについて、理学療法および作業療法の立場から説明する。リハビリテーションは常にチーム医療として実施されるため、看護との関わりや専門職の役割を考察する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	リハビリテーションの基礎：リハビリテーションとは・ノーマライゼーションとIL運動とQOL(小島)
第2回	理学療法とは何か：理学療法士の法律・理学療法の定義・理学療法の対象(小島)
第3回	理学療法の方法：障害の捉え方(ICIDHとICF)・運動療法とは(小島)
第4回	理学療法の方法：物理療法とは・理学療法士の活動分野(小島)
第5回	作業療法とは何か、作業療法の定義を学びながら、その対象と方法について理解する。
第6回	ICFに基づく作業療法の方法について、領域別疾患の特徴を捉えながら学習する。
第7回	実際に作業療法で使用する作業について、体験を通して治療的意義を学ぶ。
第8回	作業体験を通して、治療的意義、領域別治療方法への応用について学ぶ。また看護と作業療法の役割を学ぶ。

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為(私語、携帯電話の使用など)は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、授業に臨むこと。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験 100%

#### ■教科書

指定しない

#### ■参考書

中村隆一 編：入門リハビリテーション概論第7版。医歯薬出版、2009

科目名	看護方法論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	中溝 道子 他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	看護過程展開・事例				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業目的〕

看護方法論Ⅰの学びを基に、事例を通して看護過程展開の思考の道筋を理解する。

##### 〔到達目標〕

ヘンダーソン看護論をもとに、提示した演習事例について看護に必要な情報を着目し、常在条件・病理的状态に関する情報を解釈することができる。

#### ■授業の概要

1. 提示した事例について、既習の知識をどのように活用し統合すると対象に必要な看護が導かれるか、自己学習とグループワークを通して理解を深める。
2. グループワーク発表を通して、看護過程展開における学習の共有をする。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション、ヘンダーソン看護論の主要概念の確認
第2回	演習事例について対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔1〕
第3回	演習事例について対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔2〕
第4回	演習事例について対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔3〕
第5回	演習事例について対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔4〕
第6回	演習事例について対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔5〕
第7回	演習事例について対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔6〕
第8回	演習事例について対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔7〕

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

1. 看護過程展開する為に必要な事前学習をしっかりと臨むこと。特に、受け持ち事例の病態生理はまとめておくこと。
2. 時間内にワークができない場合は、グループで話し合い別に時間を設け学習を進めること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

グループワークの参加度・内容、課題レポートを総合して評価する。

#### ■教科書

茂野 香おる他：専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，医学書院，2011.

#### ■参考書

授業中に適宜紹介。



科目名	基礎看護援助技術V	担当教員 (単位認定者)	中溝 道子他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	基礎看護援助技術V				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

演習事例を通して看護に必要な既習の知識を統合し対象に必要な看護を導き出し、それを基に複数の技術を用いて実践する学習を通して看護実践能力を高める。

##### 〔到達目標〕

- ①対象が抱える看護問題がわかり、看護の必要性や根拠がわかる。
- ②対象の看護援助に必要な技術がわかり、必要物品・手順・留意点が考えられる。
- ③看護援助の基本や根拠を踏まえ、対象に合わせて複数技術を使って安全・安楽に実施できる。
- ④対象の反応を確認しながら、看護援助を行うことができる。
- ⑤看護援助の結果を評価することができる。

#### ■授業の概要

看護方法論Ⅱとの授業の関連を説明し、個人学習とグループ学習を組み合わせ、グループダイナミクスを利用して基礎看護援助技術Ⅰ～Ⅳの既習の知識を活用し、看護実践能力の強化を図る。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 看護方法論の事例展開の確認
第2回	演習事例に対して必要な看護を導く【1】
第3回	演習事例に対して必要な看護を導く【2】
第4回	演習事例に対して必要な看護を導く【3】
第5回	演習事例に対して必要な看護を導く【4】
第6回	演習事例に対して必要な看護を導く【5】
第7回	演習事例に対して必要な看護を導く【6】
第8回	演習事例に対して必要な看護を導く【7】
第9回	実習室での複数技術を使ったグループ演習【1】
第10回	実習室での複数技術を使ったグループ演習【2】
第11回	実習室での複数技術を使ったグループ演習【3】
第12回	実習室での複数技術を使ったグループ演習【4】
第13回	実習室での複数技術を使ったグループ演習【5】
第14回	実習室での複数技術を使ったグループ演習【6】
第15回	実習室での複数技術を使ったグループ演習【7】

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ・演習は白衣、ナースシューズを着用。頭髪・爪・化粧は「演習室使用時の心構え」に準じない場合は、受講を認めない。
- ・講義には事前学習課題を学習して臨むこと。
- ・技術は何回も繰り返して練習し習得すること。

##### 〔受講のルール〕

- ・他の受講生に迷惑になる行為（私語、携帯電話等の使用）は厳禁。
- ・遅刻・早退については、担当教員の理由を申し出ること。
- ・常に教科書・配布資料を持参すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ・各種援助技術は再学習してから授業に臨むこと。
- ・参考書・資料は何度でも目を通して理解してからグループワークに臨むこと。

#### ■オフィスアワー

授業時に提示する。

#### ■評価方法

個人ワーク・グループワークの学習成果レポート70%、演習・グループワークの参加度30%とする。

#### ■教科書

有田清子他：基礎看護技術Ⅰ，医学書院  
有田清子他：基礎看護技術Ⅱ，医学書院

#### ■参考書

授業時、紹介する。



科目名	看護基礎実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	倉島 幸子 他	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	情報収集 情報アセスメント 問題の明確化 看護計画 看護実践 評価				

#### ■授業の目的・到達目標

##### [授業の目的]

基礎看護学の既習の知識・技術を活かして、対象の健康上のニーズを把握し看護実践を通して看護過程展開の基礎を学ぶ。

##### [到達目標]

1) 対象の健康上のニーズを把握し、対象に合わせた日常生活援助を考え実践・評価ができる。

(1) 必要な情報を収集し、分析することができる。

(2) 患者がどのような状況にある人なのか、患者像を描くことができる。

(3) 対象の健康上のニーズを把握し、看護問題を明確にできる。

(4) 個別性を踏まえた看護計画が立案できる。

(5) 対象の反応を見ながら安全・安楽を考慮し、科学的根拠を考えて実施ができる。

(6) 実施した結果をもとに、看護計画の評価・修正ができる。

(7) 実施した援助内容及び結果を正確に報告・記録できる

(8) 対象と円滑な人間関係を築くことができる。

2) 実習の体験をふまえて自己の看護観を述べることができる。

#### ■実習履修資格者

看護基礎実習Ⅰの単位修得

看護学概論Ⅰ～Ⅱの単位修得

看護学方法論Ⅰ～Ⅱの単位修得

基礎看護援助技術Ⅰ～Ⅴの単位修得

#### ■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習時期 ①平成 26 年 9 月 1 日～ 12 日 ②平成 25 年 9 月 16 日～ 26 日

2. 実習日数 10 日間

3. 時間 90 時間

#### ■実習上の注意

1. 具体的内容については、看護学実習の共通要綱及び基礎看護学実習要項に順じ遵守すること。

2. 事前学習を自己学習ノートにまとめておくこと。

#### ■評価方法

1. 出欠席と単位については看護学実習要綱共通編を参照すること。

2. 基礎看護学実習Ⅱの実習評価表に基づき目標の達成度、実習態度、提出された実習記録等によって評価する。

科目名	精神看護学援助論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	酒井 美子 他	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「精神看護学」			
キーワード	精神看護理論・モデル 看護過程				

#### ■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神の健康問題に直面している人とその家族のQOLを高める看護とその思考過程を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①精神機能の障害が日常生活に及ぼす影響を理解できる。
- ②セルフケアモデルに基づいて対象のアセスメントができる。
- ③DSM-Ⅳに基づく精神科看護診断・ケアプランを立案できる。

#### ■授業の概要

精神に障害を持つ人とその家族の事例を通して、エビデンスに基づく看護過程の展開方法を思考する力を身につける。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	精神看護に用いる看護理論・モデル：対人援助（ペプロー、トラベルビー、オーランド）	関根 正
第2回	精神看護に用いる看護理論・モデル：生活援助（オレム・アンダーウッド）	〃
第3回	精神看護に用いる看護理論・モデル：自己洞察（ウイーデンバック）	〃
第4回	精神看護に用いる看護理論・モデル（プロセスレコード）	〃
第5回	精神看護に用いる看護理論・モデル（ロールプレイ）	〃
第6回	看護過程の展開（考え方）	酒井美子
第7回	看護過程の展開（アセスメントの仕方：精神機能と生活機能）	〃
第8回	看護過程の展開（看護目標の考え方）	〃
第9回	看護過程の展開（看護計画の立て方）	〃
第10回	看護過程の展開（評価・修正）	〃
第11回	看護過程の展開（統合失調症の事例を用いた事例展開）	〃
第12回	看護過程の展開（統合失調症の事例を用いた事例展開）	〃
第13回	看護過程の展開（統合失調症の事例を用いた事例展開）	〃
第14回	事例を用いた看護過程の発表	〃
第15回	事例を用いた看護過程の発表	〃

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生にかかわる情報〕

- ・精神に関する科目、精神看護学概論で得た知識を繋げて学習する。
- ・予習・復習により、学習の整理、新たな課題を見出す学習姿勢で臨む。
- ・演習では、体験を通して自分の感じたことや考えたことを積極的に表現する。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨む。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、予習をしてわからない部分を授業で解決するよう努力すること。  
演習は主体的に参加して学ぶ。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

出席状況・授業参加態度・筆記試験による総合評価で60%以上を単位認定とする。

#### ■教科書

川野雅資編集：精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011。  
川野雅資編集：精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011。  
川野雅資編著：エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図、中央法規、2008。

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	母性看護学概論	担当教員 (単位認定者)	石沢 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「母性看護学」			
キーワード	ライフサイクル、リプロダクティブヘルス・ライツ、家族、ウエルネス				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

母性看護の目的や対象の理解を行い、社会のニーズに即した看護の役割機能について考える。

##### 〔到達目標〕

1. 母性看護の対象について理解することができる。
2. 母性を取り巻く環境や社会制度について理解する。
3. 母性看護の現状と今後の展望を考える。

#### ■授業の概要

「母性とは、現に子どもを産み育てているもののほか、将来子どもを産み育てるべき存在及び過去にその役目を果たしたものの」というWHOの定義の視点から、各ライフステージにおける母性について理解する。また、各期にある母性を取りまく制度・環境についても理解を深める。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、母性看護の基盤となる概念（母性看護の対象の理解）
第2回	看護職の法的役割
第3回	母性看護における倫理的配慮
第4回	母性看護で用いられる理論
第5回	母子保健統計
第6回	母性看護と法律・施策
第7回	セクシャリティ
第8回	人の発生
第9回	性周期と性ホルモン
第10回	家族計画
第11回	不妊カップルの理解と看護
第12回	障害を持つ子どもの理解と看護
第13回	周産期の死を体験した家族の理解と看護
第14回	ライフサイクルからみた女性の健康課題と看護
第15回	虐待・性暴力を受けた子どもと女性の理解

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講のルール〕

授業計画を確認し、事前に教科書は読んでから授業に臨むこと。母性看護に関する社会の事象や政策などに関心を持ち、常に情報収集を行い、自分としての考えや意見を持って授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

母性看護は女性の一生についての心身の変化、またそれに関わるパートナーの健康、新生児と政策、法律など幅が広く学習量が多く、国家試験でも点数の獲得が難しい科目です。法律や政策などは細部まで授業の中で行うのは困難であるため予習が必要です。まとめた学習は難しいので、授業ごとに予習復習を行い知識が定着するようにして下さい。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験：小テスト 30%×2回、科目終了時レポート 40%で総合的に評価を行う。60%以上を越える事が前提となる。

#### ■教科書

横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護実践の基本 母性看護学1 メディカ出版

#### ■参考書

国民衛生の動向 厚生統計協会 2013/2014

科目名	母性看護援助論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	堀越 摂子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「母性看護学」			
キーワード	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児、生理的変化、ウエルネス看護				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業目的〕

周産期にある女性及び新生児の身体的、心理的変化について理解する。また、それらを取り巻く家族への看護を学ぶ。

##### 〔到達目標〕

- ①妊娠期、分娩期、産褥期にある女性に起こる生理的な身体の変化や心理的特徴について理解する。
- ②新生児の身体特徴や生理について理解できる。
- ③母子関係や愛着の形成について理解できる。
- ④妊婦、産婦、褥婦及び新生児と家族に必要な看護が理解できる。

#### ■授業の概要

周産期にある女性の身体に起こる生理的変化や心理的変化、新生児の特徴や母子関係について理解し、家族を含めた看護援助について学ぶ。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	受精と胎児の発育に伴う妊婦の身体的変化
第2回	妊娠に伴う心理社会的変化と看護ケア
第3回	妊婦の日常生活と看護ケア
第4回	妊娠中に起こる不快症状と看護ケア
第5回	分娩開始と経過
第6回	産痛と看護ケア
第7回	分娩の進行と胎児のリスク
第8回	妊娠期、分娩期のまとめ
第9回	産褥期の身体的変化と適応
第10回	褥婦への看護ケアの視点
第11回	褥婦のフィジカルアセスメント
第12回	褥婦の心理社会的変化のアセスメント
第13回	新生児の生理学的適応
第14回	新生児のアセスメント
第15回	早期新生児期の看護ケア

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講のルール〕

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児の生理的変化と異常な状態、異常との合併など範囲が広い為、授業計画を参考に教科書を読んでから授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

母性看護援助論は妊娠期、分娩期、産褥期、新生児と生理的に変化していく過程の身体的特徴、また新生児の身体的特徴、母子関係などと幅が広く学習量が多い為、国家試験でも点数の獲得が難しい科目です。まとめた学習は難しいので、授業ごとに予習復習を行い知識が定着するようにして下さい。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験(科目終了時)、レポートで総合的に評価を行う。

#### ■教科書

- ①横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護実践の基本 母性看護学1 メディカ出版
- ②横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護技術 母性看護学2 メディカ出版

#### ■参考書

- ①佐世正勝、石村由利子：ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 医学書院
- ②平澤美恵子監修：写真で分かる母性看護技術 インターメディカ

科目名	母性疾病論	担当教員 (単位認定者)	林 博	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「母性看護学」			
キーワード	不妊 流産、早産、合併症、帝王切開、産褥熱、血栓症、ハイリスク				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業目的〕

周産期における異常について理解する。

##### 〔到達目標〕

- ①妊娠期の経過の異常について理解する。
- ②妊娠に合併する疾患について理解する。
- ③異常出血など症状に特徴のある疾患について理解する。
- ④帝王切開術とその適応について理解する。
- ⑤ハイリスク新生児について理解する。
- ⑥不妊の原因と治療について理解する。

#### ■授業の概要

生理的経過の中で行われる妊娠、出産、産褥、新生児の各期に起こる異常な状態、疾患について学ぶ。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	妊娠期の異常
第2回	妊娠と合併症
第3回	異常出血を伴う疾患
第4回	帝王切開術
第5回	産褥期の異常
第6回	ハイリスク新生児
第7回	不妊の原因と治療
第8回	不妊の原因と治療

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講のルール〕

授業計画を確認し、事前に教科書又は配布プリントを読んでから授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。

##### 〔受講生に関わる情報〕

不妊、帝王切開などは社会のニーズに伴い、国家試験の出題も必ず予想されています。疾患として学ぶ事はもとより、倫理や法律なども合わせての学習が必要となります。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

周産期に起きる異常な症状や、原因を理解することで、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の観察や予防が理解しやすくなるので、知識の定着を図るように復習を行うこと。また、法律、倫理的な考えなど合わせて学習をしてください。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験（中間、科目終了時）により評価する。

#### ■教科書

横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護実践の基本 母性看護学1 メディカ出版

#### ■参考書

- ①医療情報科学研究所編集：病気が見える vol.10 産科 メディックメディア
- ②正津晃監修：新図説臨床看護 母性看護（含婦人科）



科目名	小児看護学概論	担当教員 (単位認定者)	西山 智春	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「小児看護学」			
キーワード	小児看護 子どもの人権 成長発達 子どもと家族				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

小児看護学概論は、小児看護学の学習基盤（導入）として、小児看護を実践する上で必要な基礎的知識や考え方を学び、小児観を育むことを目的とする。

##### 〔到達目標〕

1. 小児看護における対象理解に必要な基礎的知識を学ぶ。
2. 子どもと家族と社会の繋がりを理解し、子どもの成長発達や健康をサポートする看護の役割について学ぶ。

#### ■授業の概要

現代の子どもと家族の概況をとらえ、小児の健康と小児各期の成長発達の特徴及び小児とその家族に対する支援・看護の役割機能について教授する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション	小児看護の特徴と理念	子ども観の変遷
第2回	子どもを取り巻く社会環境（家族を含む）		
第3回	小児保健統計と関係法規		
第4回	子どもの権利と倫理①		
第5回	子どもの権利と倫理②		
第6回	成長発達の理解に役立つ基礎的理論		
第7回	小児各期の成長発達に役立つ基礎的知識		
第8回	乳児期の成長発達	金泉志保美	
第9回	幼児期の成長発達	"	
第10回	学童期の成長発達	"	
第11回	思春期の成長発達	"	
第12回	乳幼児の健康問題と社会的背景	"	
第13回	学童・思春期の健康問題と社会的背景		
第14回	保健医療チームにおける小児看護活動と他種職との連携		
第15回	まとめ	小児看護の目標と役割	小児看護の方向性と課題

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・小児看護学概論（必修）は、小児看護学学習のための基盤となる科目であり、看護師国家試験出題基準に含まれる。
- ・配布資料及びグループ・自己学習を含むに関する資料等はポートフォリオとして整理し、小児看護学の講義・演習・実習に活用できるようにする。
- ・小テストを実施します。予習復習をして授業に臨むようにしてください。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

周辺で見かける子どもたちや親子の様子を意識して観察してみてください。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

小テスト（20%）、定期試験（80%）により、総合的に評価する。

#### ■教科書

奈良間美保他著 系統看護学講座 専門22 小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院  
中野綾美他著 小児の発達と看護 MCメディカ出版

#### ■参考書

松尾宣武・濱中喜代編集 小児看護学概論・小児保健 メヂカルフレンド社



科目名	小児看護援助論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	西山 智春	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「小児看護学」			
キーワード	小児各期 成長発達 日常生活習慣の自立 フィジカルアセスメント 子どもの安全				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

小児各期の成長発達並びに自立に向けた日常生活支援、子どもの安全、フィジカルアセスメント等、小児看護を実践する上で必要な基礎的知識を学び、アセスメントに基づく小児看護の実践ができる能力を養うことを目的とする。

#### 〔到達目標〕

1. 健康な乳幼児・学童・思春期の日常生活習慣の自立過程と援助方法を理解する。
2. 小児各期の健康問題と、それに対する保健指導・健康教育を理解する。
3. 小児のフィジカルアセスメントを理解する。
4. 小児各期の不慮の事故と安全教育について理解する。

### ■授業の概要

健康な小児の成長発達を促すための援助方法、さらに、正常な成長発達を阻害する要因とその予防についての保健指導を学ぶ。また、フィジカルアセスメント・一次救命処置等のモデルを使用した演習を取り入れて教授する。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 小児期にある子どもの健康な生活への支援： 1) 育児の概念と方法 2) コミュニケーション	
第2回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【1】：環境 ・発達段階別の安全環境、入院している子どもの安全環境	
第3回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【2】：食事と栄養 ・発達段階別栄養の特徴、離乳食、食事行動の発達過程とその支援	
第4回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【3】：排泄 ・排泄行動の発達過程（トイレトレーニング）とその支援	
第5回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【4】：清潔と衣生活 ・清潔行動（衣服の着脱・整容を含む）の発達過程とその支援（清拭・部分浴など）	
第6回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【5】：睡眠と活動 ・発達段階別の生活リズム、睡眠の意義とメカニズム、発達段階別の遊び	
第7回	小児期にある子どもへの保健指導・健康教育 ・発達段階別の保健指導、健康教育の特徴	
第8回	子どもの示す主な症状とその看護【1】 ・不機嫌及び啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、嘔吐、下痢、便秘	金泉志保美
第9回	子どもの示す主な症状とその看護【2】 ・脱水、浮腫、出血、貧血、けいれん、意識障害	〃
第10回	小児のフィジカルアセスメント【1】	
第11回	小児のフィジカルアセスメント【2】	
第12回	小児のフィジカルアセスメント【3】〔演習〕 ・バイタルサイン測定、身体計測	
第13回	小児各期の不慮の事故と予防および事故時の対処【1】 ・不慮の事故と予防・安全教育・一次救命処置の方法	
第14回	小児各期の不慮の事故と予防および事故時の対処【2】〔演習〕 ・子どもの心肺蘇生法（AEDを用いた心肺蘇生法も含む）	
第15回	総括	

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・人体構造機能学・小児看護概論の学習と関連させて履修すること。
- ・配布資料及びグループ・自己学習を含む、に関する資料等はポートフォリオとして整理し、小児看護学の講義・演習・実習に活用できるようにする。
- ・実習室で演習する際は、ユニホームを必ず着用すること。事前学習をし授業に臨むようにしてください。
- ・演習を欠席した場合、再演習を申し出ること。未演習のまま単位を修得することはできない。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

人体構造機能学、小児看護概論の学習と関連させて履修すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

定期試験（80%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。

### ■教科書

1. 奈良間美保他：系統看護学講座 専門22 小児看護学（1）「小児看護概論・小児臨床看護総論」第11版，医学書院

### ■参考書

「写真でわかる小児看護技術」インターメディカ

科目名	成人看護援助論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	平賀元美・伊藤てる子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	慢性期看護 セルフケア セルフマネジメント				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

成人の慢性期にある対象を理解し、健康特性に合わせた看護実践能力を身につける。

#### 〔到達目標〕

- ① 疾病を持ち、かつ生活者である成人にとっての疾病コントロールに必要なセルフケアの概要と必要性を理解する。
- ② セルフコントロールのための生活習慣の再獲得に必要な知識や技術の提供を行う方法を理解する。
- ③ 慢性的な経過をたどる成人について看護診断に基づく思考プロセスを理解する。

### ■授業の概要

成人期のあらゆる健康レベルのなかで慢性期にある対象の看護を学ぶ。

呼吸器系、腎・泌尿器系、循環器系、内分泌系、脳神経系に慢性的な障害を抱えた患者の看護について、アセスメントから看護実践の方法までを学ぶ。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	授業オリエンテーション 慢性期にある患者の理解	担当：平賀元美
第2回	A 呼吸器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.慢性呼吸器疾患(COPD)患者の理解 2.在宅酸素療法	〃
第3回	A 呼吸器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 3.看護診断	〃
第4回	B 循環器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.心不全患者の看護 2.ストレス緩和と生活コントロール	伊藤てる子
第5回	B 循環器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 3.看護診断	〃
第6回	C 脳神経系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.ALS患者の理解 2.ALS治療と社会保障、生活の支援	平賀元美
第7回	D 免疫系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 アレルギーのある患者の看護	〃
第8回	D 免疫系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.全身性エリテマトーデス患者の理解 2.生活のコントロール	〃
第9回	E 内分泌系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.糖尿病患者の理解	相川辰栄
第10回	E 内分泌系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 2.糖尿病患者のセルフコントロールのための看護	〃
第11回	E 内分泌系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 3.教育的関わりに必要な方法論 4.セルフコントロールのためのパンフレット作成①	平賀元美
第12回	E 内分泌系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 4.セルフコントロールのためのパンフレット作成②	〃
第13回	E 内分泌系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 4.セルフコントロールのためのパンフレット作成③発表	〃
第14回	F 腎・泌尿器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.慢性腎炎、腎不全患者の理解 2.水分、食事のコントロール 3.活動と安静の指導	相川辰栄
第15回	F 腎・泌尿器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 4.透析患者の看護 5.体重コントロールの指導	〃

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生に関わる情報〕

- ・この科目は臨床看護学実習の履修要件となっている。
- ・既習の人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論を履修していることが望ましい。

#### 〔受講のルール〕

- ・授業計画を確認し、必要なテキストの準備を行って積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)で60%を超えていること。

### ■教科書

- 1) 竹村信彦他:系統看護学講座成人看護学[11]アレルギー-膠原病感染症 医学書院
- 2) 系統看護学講座成人看護学[3]循環器 医学書院
- 3) 金田 智他:系統看護学講座成人看護学[5]消化器 医学書院
- 4) 黒江ゆり子他:系統看護学講座成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院
- 5) 大東貴志他:系統看護学講座成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院
- 6) 浅野浩一郎他:系統看護学講座成人看護学[2]呼吸器 医学書院
- 7) 竹村信彦他:系統看護学講座成人看護学[7]脳・神経 医学書院

### ■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	成人看護援助論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	赤石三佐代・平賀元美 伊藤てる子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	急性期看護、周手術期、クリティカル				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

成人の急性期にある対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を身につける。

#### 〔到達目標〕

- ① 手術を受け身体の一部を喪失した患者の看護を実践できる能力を身に付ける。
- ② 生体侵襲を受ける患者に必要な基本的援助技術を習得する。
- ③ クリティカルな状態にある患者に必要な基本的援助技術を習得する。
- ④ 検査に必要な成人援助技術について習得する。

### ■授業の概要

成人看護に必要な援助技術の理論と実際を学習する。

基礎看護技術論をベースに対象特性、疾病特性を加味した援助技術を学習する。

手術を受ける患者と家族への看護方法、救急時のケアなどについて、対象特性や疾病特性および援助の根拠とともに学習し、演習を通し看護実践能力の向上を目指す。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 健康レベルに応じた看護 手術による身体侵襲 成人の健康レベルに応じた看護 1)対象の理解 2)手術による身体侵襲	赤石
第2回	A.手術を受ける成人の看護〔1〕周手術期看護の概要	〃
第3回	A.手術を受ける成人の看護〔2〕手術に向けた身体の準備 検査看護	〃
第4回	A.手術を受ける成人の看護〔3〕手術中患者の看護 麻酔、手術体位	〃
第5回	A.手術を受ける成人の看護〔4〕手術後の回復を促進するための看護 術後合併症	〃
第6回	A.手術を受ける成人の看護〔5〕胃がん患者の看護 胃チューブ・留置カテーテルの管理	〃
第7回	A.手術を受ける成人の看護〔6〕大腸がん患者の看護 ストマケア ドレナージ	〃
第8回	A.手術を受ける成人の看護〔7〕ドレーン挿入中の患者の清拭と更衣 〈演習〉	赤石・平賀・伊藤
第9回	A.手術を受ける成人の看護〔8〕喉頭全摘出術患者の看護 内視鏡手術を受ける患者の看護	赤石
第10回	B.各種治療を受ける成人の看護〔1〕1)乳がん患者の看護 2)化学療法 3)輸血療法	〃
第11回	B.各種治療を受ける成人の看護〔2〕1)食道がん患者の看護 2)放射線治療	〃
第12回	C.クリティカルな状態にある患者の看護〔1〕救急看護の概念	〃
第13回	C.クリティカルな状態にある患者の看護〔2〕外傷・熱傷患者の看護 ショック時の看護	〃
第14回	C.クリティカルな状態にある患者の看護〔3〕狭心症・心筋梗塞患者の看護 心肺停止状態の対応 心電図	〃
第15回	C.クリティカルな状態にある患者の看護〔4〕心肺蘇生法 心電図測定 シリンジポンプ等 〈演習〉	赤石・平賀・伊藤

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生に関わる情報〕

- ・この科目は臨床看護学実習の履修要件となっている。
- ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。
- ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと。

#### 〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験（客観・論述）80%、技術演習、課題レポート等20%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）。  
総合評価は筆記試験、技術演習等合わせて60%を超えていることが前提となる。

### ■教科書

- 1) 臨床外科看護総論、医学書院
- 2) 系統看護学講座、医学書院、呼吸器・消化器・循環器・女性生殖器も使用
- 3) 写真でわかる臨床看護技術1・2 インターメディカ

### ■参考書

講義の中で適宜提示する。



科目名	成人看護援助論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	平賀元美・赤石三佐代 伊藤てる子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	看護診断・成果・介入・評価				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

成人期の対象における看護の実践方法を、エビデンスに基づき導き出す方法を習得する。

##### 〔到達目標〕

- ①看護に必要な情報を系統的に収集できる。
- ②収集した情報を分析解釈して看護問題または共同問題を明確にできる。
- ③看護介入による成果を明確にできる。
- ④看護成果をもたらす介入計画を立案できる。またクリニカルパスの活用方法を理解する。
- ⑤看護成果の評価方法を学ぶ。

#### ■授業の概要

成人の看護過程を教授する。既習の看護理論や中範囲理論を基盤として看護モデルを活用し成人の看護過程を学び、演習を通して理解を深める。更に臨床看護学実習に反映させ習得していく基礎を身につける。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 事例紹介(内科的治療を行う事例) 看護過程における看護診断の重要性 (講義)
第2回	看護診断における領域・類の構成/アセスメントガイドの説明 事例を元にアセスメント用紙を用いて情報を整理する方法 (講義)
第3回	情報の分析・解釈および関連図の書き方 (講義)
第4回	グループワーク①: 事例を元にアセスメント用紙に情報の整理・分析 (演習)
第5回	グループワーク②: 事例・アセスメント内容を元に関連図の作成 (演習)
第6回	整理した情報の確認 仮診断へ看護問題を導き出すための方法 優先順位の付け方 (講義)
第7回	グループワーク③: 仮診断の検証 (演習)
第8回	グループワーク④: 優先順位の決定 看護目標の設定
第9回	看護診断の実際[1] 共同問題、リンケージ・NOC・NICの活用方法、看護成果の設定、看護介入 (講義)
第10回	グループワーク⑤: 看護成果(NOC)の設定 (演習)
第11回	グループワーク⑥: NICを用いて活動計画の立案 (演習)
第12回	看護診断の実際[2] 看護活動の評価・修正、経過記録の付け方 (講義)
第13回	グループワーク⑦: 看護活動、経過記録(SOAP/フローシート)を作成 (演習)
第14回	看護診断の実際[3] 事例紹介(手術療法を行う事例)、共同問題、クリニカルパス (講義)
第15回	自己学習課題提示、まとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

・基礎看護学における看護過程の展開について想起するとともに、既習のヘルスプロモーション、成長発達理論、ストレスコーピング理論、セルフケア理論などをフルに活用して成人看護学で学習すべき内容の統合を図る。よって既習学習の復習を十分にして授業に臨むこと。

##### 〔受講のルール〕

- ・本講義は、学生自ら講義で行ったことを復習し、実際に看護過程を展開してみることによって理解を促す科目であるため、必ず課題に取り組み、事前に理解できていない部分を明らかにして、授業に臨み、確認すること。
- ・課題に取り組み達成してこない場合はグループワークなどの授業に参加できないことがあるので十分注意すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)60%、課題レポート等20%、演習への取り組み20%。  
総合評価は筆記試験、課題レポート評価、演習への取り組みを合わせて60%を超えていることが前提となる。

#### ■教科書

- 1) NANDA - NOC - NIC 理解第4版 黒田裕子(著)
- 2) NANDA-I 看護診断-定義と分類
- 3) 看護診断・成果・介入 NANDA, NOC, NIC のリンケージ
- 4) 看護成果分類(NOC) -看護ケアを評価するための指標・測定尺度
- 5) よくわかる中範囲理論 黒田裕子監修 Gakken
- 6) 看護診断を読み解く 中木高夫著 Gakken 他

#### ■参考書

基礎から学ぶ看護過程と看護診断、ロザリンダ・アルファロ・ルフィーヴァ著江本愛子監訳 医学書院  
これなら使える看護診断 江川隆子編集 医学書院 他講義の中で適宜提示する。

科目名	高齢者看護援助論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	橋本 知子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「高齢者看護学」			
キーワード	高齢者疑似体験、加齢変化、脆弱性、高齢者特有の症状、症状アセスメント				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔目的〕

高齢者の生活に与える加齢変化を把握し、高齢者を看護するための基礎知識を修得する。

##### 〔到達目標〕

- ①加齢変化を疑似体験を通して理解する。
- ②加齢現象に伴って生じる高齢者の脆弱性を知る。
- ③高齢者に特徴的な症状をアセスメントすることができる。
- ④①～③を通して高齢者の生活に及ぼす影響を理解する。

#### ■授業の概要

人体構造機能学Ⅰ～Ⅳ、疾病・治療論総論等で学修した知識を基に、高齢者看護の援助の根拠を捉え支援の実際を理解する科目です。そして、高齢期における加齢現象が日常生活に影響を与えている根拠や症状の変化をアセスメントするための基礎知識を学びます。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	疑似体験計画書の作成、グループワーク
第3回	疑似体験実践(個人・グループワーク)
第4回	疑似体験評価(個人)
第5回	高齢者の加齢変化の特徴と脆弱性
第6回	細胞・組織・器官の加齢変化
第7回	運動・神経系の加齢変化
第8回	循環(血液を含む)・呼吸器系の加齢変化
第9回	腎・泌尿・生殖器・免疫系の加齢変化
第10回	消化器・内分泌・代謝系の加齢変化
第11回	皮膚・感覚器系の加齢変化
第12回	高齢者に多い症状①(発熱・痛み・掻痒)小テスト①
第13回	高齢者に多い症状②(脱水・嘔吐・浮腫)
第14回	高齢者に多い症状③(倦怠感・便秘・下痢)
第15回	加齢変化が日常生活に及ぼす影響

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ①講義資料は教科書を予習・復習するためのものです。授業前後に活用してください。
- ②知識の整理と確認を小テストによって行うので必ず試験を受けること。それによって自己の学習課題に取り組む。
- ③毎回の講義は学習テーマが異なります。欠席しないようにして下さい。
- ④出席時間を守る、挨拶をもって授業に臨む。これらは当大学の人間力を目ざすものでもあるので心をこめて実践する事。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業に示されるキーワードは教科書や授業時に配布された資料などで復習をすること。わからないことは授業で解決するように努めましょう。

#### ■オフィスアワー

授業終了後

#### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)80%、小テスト10%、課題レポート10%で総合評価する。総合評価は筆記試験・課題レポートの60%を超えることが大前提である。

#### ■教科書

①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②国民衛生の動向

#### ■参考書

老年看護学関連出版物、随時資料を提示。

科目名	在宅看護学概論	担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「在宅看護学」			
キーワード	生活の場 継続看護 訪問看護師 在宅療養者 家族・介護者 地域ケアシステム				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

在宅看護の理念、特性、対象、看護職の役割、関係職種との連携、法的背景等を学び、将来の訪問看護師としての志向性を高める。

##### 〔到達目標〕

- ①在宅看護の理念、在宅看護の歴史的背景がわかる。
- ②在宅看護の特徴、看護の継続性、訪問看護師の役割が理解できる。
- ③在宅看護の対象が在宅療養者と家族・介護者であることが理解できる。
- ④在宅看護における関係職種との連携、ケアコーディネーション、地域ケアシステムの構築の意義を理解し、チームケアにおける看護専門職の果たす役割を認識することができる。

#### ■授業の概要

講義を主とするが、時にDVD等の視聴覚媒体も使用する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	・科目オリエンテーション ・在宅看護とは
第2回	・在宅看護の歴史 ・現代社会と在宅看護
第3回	・在宅看護の基本理念 在宅看護の目的、訪問看護師の役割・機能 ・在宅看護の特性 ・看護の継続性
第4回	・在宅看護の対象〔1〕 1) 地域で生活する人々 2) 在宅療養者
第5回	・在宅看護の対象〔2〕 在宅療養者の家族と介護者
第6回	・在宅看護の機能する場 ・在宅看護に関わる法律・制度
第7回	・地域ケアシステムと関係機関との連携
第8回	・在宅看護管理：訪問看護ステーション運営、安全管理 ・在宅療養者の権利保障、倫理的課題

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ①現在、在宅医療・看護・介護問題がマスコミ等で頻りに報じられているので、新聞・テレビ等からの情報に常に関心を持って学習に臨んでもらいたい。
- ②自身や家族・身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講してください。
- ③教科書・プリント等は毎回持参してください。
- ④変更がある場合は前の週の授業が掲示で知らせるので、常に注意を払ってください。
- ⑤遅刻・早退・欠席等は可能な限り事前に連絡し、プリント・資料等は自己責任で入手し、学習してください。

##### 〔受講のルール〕

- ①私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は当該授業について欠席扱いにする。
- ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。
- ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ・既修科目（基礎看護、社会学、社会福祉等）の復習をして、授業に臨んでほしい。
- ・教科書の該当項目の予習とともに、授業終了後の復習を特にしっかりしていただきたい。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

授業態度、出席状況、課題レポート、定期試験により総合的に評価する。

#### ■教科書

杉本 正子, 眞船 拓子編集：在宅看護論 -実践をこぼしに-, ヌーベルヒロカワ, 2008

#### ■参考書

櫻井直子他編：ナースングラフィカ、在宅看護論 地域療養を支えるケア、メディカ出版、2013



科目名	ヘルスカウンセリングの原理と方法	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子 他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	健康 カウンセリング 自己効力感				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

一人一人のニーズに応じた支援を行うために、ヘルスカウンセリングの基本的知識と技法を学ぶ。

##### 〔到達目標〕

ヘルスカウンセリングの基礎的知識と技法を理解し、学校でできる支援の意義について理解を深める。

#### ■授業の概要

カウンセリングについて、もっとも基本的なことを検討し、ヘルスカウンセリングの基本技法と展開について学ぶ。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ヘルスカウンセリングの意義
第3回	カウンセリングの方法
第4回	自己決定を効果的に促すヘルスカウンセリング法
第5回	ヘルスカウンセリングの基本技法と展開
第6回	ケースに学ぶヘルスカウンセリング
第7回	発達障害・精神疾患を理解する
第8回	様々な不適応を示す子どもたちへの対応

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
- ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。

##### 〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ・健康に関する情報（新聞記事、文献等）を収集し、自分の考えを論じる。1例を選び要約と意見・感想をレポートにまとめる。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験（客観・論述）70%、レポート30%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）。  
総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

#### ■教科書

看護に役立つヘルスカウンセリング、宗像恒次、メジカルフレンド社、1999  
系統看護学講座 基礎6 心理学、辰野千寿、医学書院、1992

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	経済学	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	マクロ経済学				

#### ■授業の目的・到達目標

経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解し、毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを到達目標とする。

#### ■授業の概要

経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	イントロダクション
第2回	DI
第3回	GDP
第4回	経済成長
第5回	金融
第6回	国際経済学I
第7回	国際経済学II
第8回	まとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。積極的に授業に参加すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

必要とされる予備知識については、教科書を通読することが望まれる。授業で学習した内容は、教科書だけではなく、さまざまな文献やHP等を参照して復習すると、理解がより深まる。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

#### ■教科書

授業時に指示する。

#### ■参考書

授業の中で案内する。

科目名	教育心理学	担当教員 (単位認定者)	島田 昌幸	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	教育評価、学習意欲、教材、発達段階、学習方法、問題解決学習、言語情報学習				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 【目的】

近い将来指導的な役割を担う者にとって重要な教育心理学的な概念の学習を通して、課題解決の方法を学ぶ。

##### 【到達目標】

- ①発達、評価、学習、意欲、教材等の基本的概念を習得する。
- ②教育心理学の課題について自分の解決案をまとめる。
- ③課題解決への実践と成果を小論文等にまとめ、発表する。

#### ■授業の概要

教育評価、学習意欲、発達段階等々の重要なテーマについて教育心理学的な観方、解決方法を紹介する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	序章 授業案内 第1章 教育心理学への招待	課題1 読書感想
第2回	第2章 青年期の特徴と発達課題	課題2 小論文
第3回	第3章 発達障害の特徴と教育	課題3 小論文
第4回	第4章 教育と学習とガイダンス	課題4 小論文
第5回	第5章 学習意欲を高める評価と教材	課題5 教材作成
第6回	第6章 効果的学習法(1)(運動技能学習と言語情報学習)	
第7回	第7章 効果的学習法(2)(問題解決学習)	課題6 小論文
第8回	課題研究発表と総括	

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行う必要がある。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験(客観、論述)40%、課題レポート及び発表40%、授業への参加度20%。

#### ■教科書

島田昌幸著「教育心理学」研文社

#### ■参考書

テキストおよび授業の中で紹介する。

科目名	教育方法論	担当教員 (単位認定者)	島田 昌幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	教育方法、ガイダンス、授業、システム化、教材開発、学習意欲				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔目的〕

教育方法の事例の検討、授業のシステム化、芸術的構成、情報機器の活用等、多様な教育方法の学習をもとにして、独自の自作教材を開発する。

##### 〔到達目標〕

- ①教育方法、ガイダンス、授業、システム化、教材開発等の基本的概念を習得する。
- ②自作教材の作成を行う。
- ③課題解決の学習を通して学んだ成果を発表または報告する。

#### ■授業の概要

教育方法の事例(カウンセリング、ユニークな授業、情報化)の検討をもとにして、授業に役立てる自作教材開発の方法を紹介する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	序章 授業案内 第1章 教育方法の意義と内容(1)(カウンセリング、プログラム学習)
第2回	第1章 教育方法の意義と内容(2)(仮説実験授業、シュタイナー教育)
第3回	第1章 教育方法の意義と内容(3)(情報化、CAI、参考書と課題)
第4回	第2章 教材開発の意義と方法(1)(教材開発の意義、三種類の自作テキスト教材)
第5回	第2章 教材開発の意義と方法(2)(自作テキスト教材の特徴、作成法と活用法)
第6回	第3章 情報機器の活用の方法(1)(自作プレゼンテーション教材)
第7回	第3章 情報機器の活用の方法(2)(自作CAI教材等)
第8回	第3章 情報機器の活用の方法(3)(作品例紹介と作成演習)
第9回	第4章 学習意欲を支援するガイダンス(1)(意欲の構造、魅力的目標)
第10回	第4章 学習意欲を支援するガイダンス(2)(達成期待、満足感期待)
第11回	第4章 学習意欲を支援するガイダンス(3)(人物伝)
第12回	第5章 授業の構成法(1)(授業のシステム化と芸術的構成)
第13回	第5章 授業の構成法(2)(目標イメージ検討法、授業改善の方法)
第14回	第6章 課題研究成果の発表
第15回	第7章 総括

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行うことになる。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験(客観、論述)40%、課題レポート及び発表40%、授業への参加度20%。

#### ■教科書

島田昌幸著「教育方法論」研文社

#### ■参考書

テキストおよび授業の中で紹介する。

科目名	健康教育論	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	健康教育 ヘルスプロモーション 行動変容				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

健康教育やヘルスプロモーションの考え方、行動変容を促す健康教育の理論と方法を理解する。

##### 〔到達目標〕

健康教育のテーマを決めて学習指導案を作成し模擬授業を実践することにより、健康教育を実際の養護実習の場において活用する準備ができる。

#### ■授業の概要

ヘルスプロモーションにおける健康教育の理念を学び、主体的に行動変容を促す健康教育の手法を用いた、計画段階から評価までのプロセスを具体的な事例で確認する。その後、行動変容を促す健康教育の手法を用いた健康教育の学習指導案を作成し、模擬授業後の発表を行い、評価につなげる。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・健康教育の概要
第2回	健康教育プログラムの計画と評価
第3回	健康教育・ヘルスプロモーションの展開と方法
第4回	健康教育の実施1(演習)
第5回	健康教育の実施2(演習)
第6回	健康教育の実施3(演習)
第7回	健康教育の実施4(演習)
第8回	健康教育の発表

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
- ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。

##### 〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習I・IIおよび専門演習Iにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など)を活用すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。(評価には使わない)

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ・健康に関する情報(新聞記事、文献等)を収集する。一つ取り上げ、その内容を要約し、意見・感想をまとめ、3分間スピーチで語る。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、レポート30%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)。  
総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

#### ■教科書

松本千明 著:健康行動理論の基礎、医歯薬出版、2011  
後閑容子 他著:健康科学概論(第3版)、廣川書店、2012  
文部科学省:小学校学習指導要領解説 総則編、体育編、特別活動編、2008  
文部科学省:中学校学習指導要領解説 総則編、保健体育編、特別活動編、2008  
文部科学省:高等学校学習指導要領解説 総則編、保健体育編、2009

#### ■参考書

学校保健・安全実務研究会:新訂版 学校保健実務必携《第2次改定版》、第一法規、2011  
日本健康教育士養成機構編:新しい健康教育 理論と事例から学ぶ健康増進への道、保健同人社、2011  
これからの小学校保健学習:日本学校保健会、2012  
これからの中学校保健学習、日本学校保健会、2011  
喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料 中学校編:日本学校保健会、2011

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	健康 予防 人口動態 セルフケア ヘルスプロモーション 環境				

#### ■授業の目的・到達目標

公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になった個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれることがわかる。

#### ■授業の概要

人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ
第2回	家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ
第3回	公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ
第4回	疫学的方法による健康の理解について学ぶ
第5回	人口静態と人口動態、疾病統計について学ぶ
第6回	母子保健統計について学ぶ
第7回	地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ
第8回	ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

本試験 100%

#### ■教科書

みるみる公衆衛生学最新版 医学評論社

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。



科目名	疫学・保健統計の基礎	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	疫学・保健統計の基礎				

#### ■授業の目的・到達目標

将来看護を実践するにあたって、疫学的なアプローチにより判明した根拠に基づき医療を行うEvidence-based medicine (EBM) が重要となる。大勢の人間集団の健康や病気の状態を観察、解析して、病気の発症要因を明らかにし、病気の予防やコントロールを行う学問すなわち疫学を理解することによって、Evidenceを知り、Evidence-based nursing (EBN) の実践が可能となる。疫学とEvidenceを理解することを目的とし、EBNの実践を目標とする。

#### ■授業の概要

疫学の歴史と概念を学んだ後、疫学の研究方法、疾病頻度の各種指標、保健統計調査の種類内容、スクリーニングの意味と注意点、主な疾患の疫学を学ぶ。最後に疫学で使用される統計学の基礎を学習する。豊富な問題演習を合わせ行うことで、知識の確実な定着をはかってゆく。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	疫学の歴史と概念、疫学研究(概念、標本抽出)
第2回	疫学研究の体系、各種研究の特徴と注意点
第3回	第1回、2回の範囲の問題演習
第4回	疾病頻度の指標
第5回	第4回の範囲の問題演習
第6回	保健統計調査
第7回	第6回の範囲の問題演習
第8回	スクリーニング
第9回	第8回の範囲の問題演習
第10回	主な疾患の疫学 I (感染症)
第11回	主な疾患の疫学 (がん、生活習慣病、精神疾患)
第12回	第10,11回の範囲の問題演習
第13回	統計学の基礎 I (データの扱い、データの散布、分布)
第14回	統計学の基礎 II (推定、検定、 $\chi^2$ 検定、t検定)
第15回	第13,14回の範囲の問題演習

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は厳禁とする。注意しても私語の止まないものは、退席させる。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

時間内に理解できなかった演習問題を確実に理解しておくこと。テキストは薄いですが、完全にマスターすれば、保健師国家試験における疫学・保健統計領域のほとんどの問題が正解できるようになる。

#### ■オフィスアワー

授業終了直後に質問すること。

#### ■評価方法

筆記試験による。

#### ■教科書

看護学生のための疫学・保健統計 改定2版 浅野 嘉延 著 南山堂

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	医療と倫理	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「社会科学系(保健医療福祉)」			
キーワード	生命倫理、生殖医療、臓器移植、遺伝子医療、安楽死、死の尊厳、研究と倫理、情報管理				

#### ■授業の目的・到達目標

古くは古代ギリシャのヒポクラテスにまで遡ることのできる医の倫理は、日本においては医道として認識されており、1年次で履修した「哲学」において、その基盤はできていると確信する。本講義では、近年の医学における急速な進歩に伴う新たな医療行為に伴って生じる、倫理的問題について学習し、将来の諸君の取るべき立場について、考えを固めることを目的とする。自分が、自分の両親や子供が授業で提示されるような状況になった場合に、迷うことなく決断し、行動することができることを、到達目標とする。

#### ■授業の概要

まず、医療の歴史を顧みて、その中で生まれてきた倫理的問題を理解する。その後各分野の専門家による近年の医療や情報科学の進歩に伴う、新たな医療倫理上の問題点を提示し、学生諸君に考えてもらう。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	医療の歴史と倫理 I	: 医学とは何か?医療とは?医道とは?人間の生命を考える
第2回	医療の歴史と倫理 II	: 医学の発達とその過程で生じた諸問題
第3回	生殖医療における倫理	: 新たに生命をつくり出すことが可能となった生殖医療上の問題について学習する
第4回	医療情報の取り扱いI	: インフォームドコンセント、守秘義務、情報開示などを理解する
第5回	脳死、臓器移植の現状と倫理	: 外科学、免疫学の進歩によって可能となった臓器移植により生じる倫理的問題を学習する
第6回	医療情報の取り扱いII	: 臨床研究上生ずる倫理の問題点を理解し、それらを審査する倫理委員会への理解を深める
第7回	遺伝子医療の現状と倫理	: 分子生物学の進歩により可能となった遺伝子医療の現状の一断面から、倫理的問題を考える
第8回	安楽死(がん末期)の現状と倫理	: 死を迎えるにあたっての考え方の多様化を、がん末期を例に学習する

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

私語厳禁。注意をしても私語をやめない者は、退出させる。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

報道(新聞、テレビ、ネット)などで話題になる、医療の進歩に伴う諸問題は、現在の諸君にとっては、経験したことがなく、身近な問題でない場合がほとんどであろう。しかし、自分が授業中に提示されるような立場に立った場合に、どのような決断をし行動がとれるかが定まっていなければ、将来現場に出ても、患者さんを救うことはできない。答えは1つでなく、正解がない場合もあるが、常に自分が同じ対場に立った場合に、どのような行動をとるかを、授業中、授業後の復習において、考えをまとめること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

全講義完了ののちに行う筆記試験により判定する。

#### ■教科書

医学概論 : 日野原重明 著、医学書院  
 学生のための医療概論 : 千代豪昭/黒田研二 編、医学書院

#### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	母性看護援助論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	堀越 摂子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「母性看護学」			
キーワード	妊婦健康診査、沐浴、清拭、産褥体操、フィジカルアセスメント、看護過程、ウエルネス				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業目的〕

妊婦・産婦・褥婦および新生児に必要なケアを看護過程を用いて理解し、記述できる。  
母性看護に必要な基本的技術の原理と根拠を明確にし、実施することができる。

##### 〔到達目標〕

- ①母性看護における看護過程の特徴について理解できる。
- ②妊娠期、分娩期、産褥期、新生児、母子関係、家族などの情報を整理しアセスメントの方法を理解出来る。
- ③妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な援助技術について理解できる。

#### ■授業の概要

母性看護援助論Ⅰを踏まえて、母性看護に必要な観察・援助技術を学ぶ。また、妊婦・産婦・褥婦・新生児各々の特性を踏まえ、効果的に看護を展開するための方法（看護過程）を学び実践へつなげる事が出来る。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	母性看護における看護過程
第2回	記録用紙と記入の方法
第3回	妊娠期の情報収集とアセスメント
第4回	妊娠期の情報収集とアセスメント
第5回	分娩期の観察と看護援助
第6回	産褥期の情報収集とアセスメント
第7回	産褥期の情報収集とアセスメント
第8回	新生児の観察とアセスメント
第9回	新生児の観察とアセスメント
第10回	母性看護における保健指導。沐浴指導、産褥体操の方法
第11回	沐浴指導、産褥体操の方法
第12回	新生児のフィジカルアセスメントに必要な技術
第13回	新生児の清潔方法（沐浴、清拭）
第14回	妊婦健康診査に必要な看護技術
第15回	産褥期、新生児のフィジカルアセスメントに必要な技術

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報とルール〕

- ①技術演習の時はユニホームの着用、髪を束ねる、爪を切るなどの準備を行う。準備が出来ていないものは受講できない。
- ②12回からA,Bクラスを分け、他の授業科目と組んで演習を行う予定であるため、計画表を見て忘れ物をしないように注意する。
- ③レポートの提出は期限を守る事。期限に提出出来ない場合は減点の対象になる。また、必要な項目が記入されていない場合は再提出が求められる。提出が無い場合は演習の授業は受講できない。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

援助論Ⅱは、実習に出る為に大切な授業となる。講義形式の授業ではないので、自ら進んで学習に取り組む事が必要になる為、疑問は教員に質問を行い学習を進める。レポート提出が多くあるため、空き時間を上手に活用し、期限を守って提出を行うこと。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

看護過程、保健指導案（沐浴・産褥体操）、妊婦健康診査に必要な援助技術、新生児の清潔方法、産褥期のフィジカルアセスメントに必要な技術は演習の前にレポート提出を行う。基準に満たない場合は再提出となる。レポート評価 60 点、筆記試験 40 点で総合的に評価を行う。

#### ■教科書

- ①横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護実践の基本 母性看護学 1 メディカ出版
- ②横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護技術 母性看護学 2 メディカ出版

#### ■参考書

- ①佐世正勝、石村由利子：ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 医学書院
- ②平澤美恵子監修：写真で分かる母性看護技術 インターメディカ
- ③大田操：ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程 医歯薬出版

科目名	小児看護援助論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	西山 智春	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「小児看護学」			
キーワード	小児看護、病気を抱える子ども、日常生活支援、発達支援、家族支援				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）に応じた看護を実践する上で必要な基本的知識・技術を学ぶ。

#### 〔到達目標〕

- ①小児期に生じやすい健康障害の経過、症状、治療を理解し、健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を統合的に理解する。
- ②健康障害を抱える子どもと家族の特徴的な看護問題とその看護を理解する。
- ③子どもの発達段階、健康状態に応じた看護を実践する上で基本となる小児看護技術を習得する。

### ■授業の概要

健康障害を抱える子どもの健康の回復・維持・増進、健全な成長・発達を目指すことが小児看護の役割である。そのためには、子どもの発達段階、健康状態、個性性に応じた看護を展開する上で必要な基本的知識・技術を習得することが必要である。本科目では、様々な発達段階、健康状態にある子どもと家族の事例を提示することによって授業を展開するとともに、視聴覚教材、看護教育用シュミレータを活用することによってイメージ化をはかり、健康障害を抱える子どもと家族に特徴的な看護問題と看護援助方法について教授する。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/小児期にある子どもの健康障害と看護の方法[1]:病気、障害および入院による子どもと家族への影響と看護、医療を受ける子どもの権利
第2回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法[2]:健康障害を抱える子どもへの日常生活支援
第3回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法[3]:健康障害を抱える子どもへの日常生活支援
第4回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法[4]:急性期にある子どもと家族への看護(川崎病)
第5回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法[5]:長期療養を必要とする子どもと家族への看護(ネフローゼ症候群)①
第6回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法[6]:長期療養を必要とする子どもと家族への看護(ネフローゼ症候群)②
第7回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法[7]:予後不良の疾患を抱える子どもと家族への看護(小児がん)
第8回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法[8]:ハイリスク新生児と家族への看護(低出生体重児)
第9回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法[9]:障害を抱える子どもと家族への看護(重症心身障害児) 安藤まり子
第10回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法[10]:心身に障害を抱える子どもと家族への看護(神経症性障害)
第11回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[1]:採血、採尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺
第12回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[2]:与薬、輸液療法、酸素療法
第13回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[3]:手術を受ける子どもと家族への看護 金泉志保美
第14回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[4]:【演習】与薬時の看護、輸液療法時の看護
第15回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[5]:【演習】与薬時の看護、輸液療法時の看護

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生に関わる情報〕

- ・上記「履修要件」に記載した科目において学習した知識・技術を十分復習するとともに、予習を必ず行うこと。
- ・演習時には白衣を着用し、身だしなみを整え授業に臨むこと。

#### 〔受講のルール〕

- ・小児看護学実習に繋がる重要な科目であるため、授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ～Ⅱにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方、文献検索等)を活用すること。
- ・ポートフォリオを持参し、内容を補充しながら授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むとともに、わからない部分を授業にて解決するよう努めること。
- ・授業の進行過程において、各自ポートフォリオを作成すること。
- ・授業中に提示された課題には必ず取り組むこと。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、授業中に実施する小テスト10%、技術演習および課題レポート20%により総合的に評価する。

### ■教科書

- ①奈良間美保他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論,医学書院.
- ②奈良間美保他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論,医学書院
- ③中野綾美編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学①-小児の発達と看護,メディカ出版.
- ④中野綾美編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学②-小児看護技術,メディカ出版.

### ■参考書

- ・山元恵子監修:写真でわかる小児看護技術,インターメディカ
- ・筒井真優美監修:小児看護実習ガイド,照林社



科目名	小児看護援助論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	西山 智春	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「小児看護学」			
キーワード	小児看護、ヘンダーソンの看護論、看護過程、常在条件、病理的狀態				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）、個別性に応じた看護過程を展開する方法を学ぶ。

#### 〔到達目標〕

- ①健康障害を抱える子どもの特徴をふまえ、看護過程の意義、ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の基本的考え方を理解する。
- ②健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題とその支援の必要性をアセスメントする。
- ③健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題の解決および回避に向けた個別的な看護計画を立案する。

### ■授業の概要

健康障害を抱える子どもの健康の回復・維持・増進、健全な成長・発達を目指すことが小児看護の役割である。そのためには、子どもの発達段階、健康状態、個別性に応じた看護を展開することが必要不可欠である。本科目では、様々な発達段階にある、疾患を抱える子どもと家族のモデル事例への看護過程の展開を試行することを通じ、子どもの特徴をふまえたヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際（基本的欲求、基本的欲求に影響を与える常在条件と病理的狀態、アセスメント、関連図の作成、看護問題と目標設定、具体策の立案、実施・評価）を教授する。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/健康障害を抱える子どもの看護過程とヘンダーソンの看護論 [1]: 意義、基本的欲求、子どもの特徴を踏まえた常在条件と病理的狀態の分析
第2回	モデル事例に基づく看護過程演習 [1]: 情報の整理・アセスメント
第3回	モデル事例に基づく看護過程演習 [2]: 情報の整理・アセスメント
第4回	モデル事例に基づく看護過程演習 [3]: 情報の整理・アセスメント
第5回	モデル事例に基づく看護過程演習 [4]: 関連図の作成
第6回	モデル事例に基づく看護過程演習 [5]: 看護問題・共同問題の抽出と優先順位の設定
第7回	モデル事例に基づく看護過程演習 [6]: 目標設定、看護計画の立案
第8回	モデル事例に基づく看護過程演習 [7]: 実施・評価/健康障害を抱える子どもの看護過程の総括

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生に関わる情報〕

・上記「履修要件」に記載した科目において学習した知識・技術を十分復習するとともに、予習を必ず行うこと。

#### 〔受講のルール〕

- ・小児看護学実習に繋がる重要な科目であるため、授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ～Ⅱにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方、文献検索等）を活用すること。
- ・ポートフォリオを持参し、活用しながら課題に取り組むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や迷惑を及ぼしたり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・授業中に提示された看護過程の課題の提出期限は厳守すること。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むこと。
- ・授業中に提示された看護過程の課題には必ず取り組むこと。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

課題レポート（モデル事例の看護過程展開の演習記録用紙の提出）90%、授業態度・出席状況 10%により総合的に評価する。

### ■教科書

焼山和憲著：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程-看護計画立案モデル 第4版，日総研出版，2007

### ■参考書

- ・石黒彩子，浅野みどり編：発達段階からみた小児看護過程+病態関連図，医学書院，2008
- ・荃津智子編：発達段階を考えたアセスメントに基づく看護過程，医歯薬出版，2012

科目名	成人看護援助論Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	赤石三佐代・伊藤てる子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	QOL セルフケア ADL 自立				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

成人期の回復期にある対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を身につける。

#### 〔到達目標〕

- ①回復期にある対象のセルフケア獲得のための援助方法を学習する。
- ②対象の症状や状態、経過や治療にあわせた看護実践理論を学習する。
- ③生活行動の障害を持ちながら生活している患者の看護を実践できる能力を身に付ける。
- ④生活の再調整・再構築のために必要な基本的援助技術を習得する。

### ■授業の概要

成人期にある対象の回復期および生活行動の障害に焦点を当て、QOL、ADLの自立、セルフケアに焦点を当て、呼吸器疾患、脳血管疾患、運動器疾患の看護を学ぶ。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション	A 回復期にある対象の看護	〔1〕呼吸器の障害を持つ患者の看護	赤石
第2回	A 回復期にある対象の看護	〔2〕呼吸器の障害による症状に対する看護		〃
第3回	A 回復期にある対象の看護	〔3〕呼吸器の障害：肺炎・喘息・結核患者の看護		〃
第4回	A 回復期にある対象の看護	〔4〕呼吸器のリハビリテーション（講義）		多田菊代・赤石
第5回	A 回復期にある対象の看護	〔5〕呼吸器のリハビリテーション（演習）		〃
第6回	A 回復期にある対象の看護	〔6〕呼吸音の聴取、血糖測定、ミキシング（演習）		赤石・平賀・伊藤
第7回	A 回復期にある対象の看護	〔7〕循環器の障害を持つ患者の看護		伊藤
第8回	B 生活行動に障害のある成人の看護	〔1〕脳血管障害のある対象を中心に		〃
第9回	B 生活行動に障害のある成人の看護	〔2〕脳血管障害のある対象を中心に		〃
第10回	B 生活行動に障害のある成人の看護	〔3〕脳血管障害のある対象を中心に		〃
第11回	B 生活行動に障害のある成人の看護	〔4〕神経・筋疾患患者の看護		赤石・平賀・伊藤
第12回	B 生活行動に障害のある成人の看護	〔5〕運動器に障害：骨折患者の看護		〃・〃・〃
第13回	B 生活行動に障害のある成人の看護	〔6〕運動器に障害：大腿骨頸部骨折患者の看護		〃・〃・〃
第14回	B 生活行動に障害のある成人の看護	〔7〕運動器に障害：関節の炎症性疾患の看護		〃・〃・〃
第15回	B 生活行動に障害のある成人の看護	〔8〕運動器に障害：脊椎疾患患者の看護		〃・〃・〃

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生に関わる情報〕

- ・この科目は臨床看護学実習の履修要件となっている。
- ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。
- ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと。

#### 〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験（客観・論述）80%、技術演習、課題レポート等20%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）  
総合評価は筆記試験、技術演習等合わせて60%を超えていることが前提となる。

### ■教科書

- ・浅野浩一郎他：系統看護学講座；成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院
- ・阿部光樹他：系統看護学講座；成人看護学〔3〕循環器 医学書院
- ・竹村信彦他：系統看護学講座；成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院
- ・織田弘美他：系統看護学講座；成人看護学〔10〕運動器 医学書院

### ■参考書

講義の中で適宜提示する。



科目名	成人看護援助論Ⅴ	担当教員 (単位認定者)	赤石 三佐代 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	終末期、ターミナル、緩和、がん看護				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

成人期の終末期にある対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を身につける。

#### 〔到達目標〕

- ①終末期の状態にある患者に必要な基本的援助技術を習得する。
- ②がん患者に対する緩和ケアの理論や方法論を学び、実践能力を身につける。
- ③ターミナル期の患者に必要な成人援助技術について習得する。
- ④終末期の患者とその家族を取り巻く環境の在り方を考える能力を身につける。

### ■授業の概要

成人期のあらゆる健康レベルのなかで終末期における対象の看護を学ぶ。

がん患者のアセスメントから看護を展開するための理論や方法論を学習する。肺がん、白血病、エイズ、前立腺がん等の疾患を踏まえた看護実践能力を学習する。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔1〕 1) 肺がんの病態生理 2) 事例提示(小細胞がん)	赤石・平賀・伊藤
第2回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔2〕 肺がんの検査・治療	〃
第3回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔3〕 肺がん患者の看護	〃
第4回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔4〕 事例展開①(情報収集・アセスメント・関連図・仮診断の検証・確定診断・優先順位)	〃
第5回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔5〕 事例展開②(看護成果・介入)	〃
第6回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔6〕 1) 白血病患者の看護 2) 無菌室の看護	〃
第7回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔7〕 AIDS患者の看護	〃
第8回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔8〕 狭心症・心筋梗塞患者の終末期の看護	伊藤
第9回	B. 機能障害のある成人の看護〔1〕 生殖器障害: 前立腺がん患者の看護	〃
第10回	B. 機能障害のある成人の看護〔2〕 生殖器障害: 子宮がん患者の看護	〃
第11回	B. 機能障害のある成人の看護〔3〕 リンパ浮腫のある患者の看護	荒井よう子・赤石
第12回	B. 機能障害のある成人の看護〔4〕 1) 安寧を得る援助 2) リンパマッサージ 演習	〃
第13回	C. 死に直面した患者家族の看護〔1〕 1) 終末期にある対象の理解 2) 悲嘆の看護(グリーフケア)	〃
第14回	C. 死に直面した患者家族の看護〔2〕 1) 緩和ケア 2) ペインコントロール 3) エンゼルケア	〃
第15回	C. 死に直面した患者家族の看護〔3〕 1) 安楽死、セデーションを考える 2) 臨終時の看護	〃

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生に関わる情報〕

- ・この科目は臨床看護学実習の履修要件となっている。
- ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。
- ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと。

#### 〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)で評価する。(詳細な評価基準は授業シラバス参照)  
総合評価は筆記試験、技術演習等合わせて60%を超えていることが前提となる。

### ■教科書

- 1) 系統看護学講座 緩和ケア、医学書院
- 2) 系統看護学講座、医学書院、呼吸器・消化器・循環器・女性生殖器も使用

### ■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	高齢者看護援助論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	丸井 明美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「高齢者看護学」			
キーワード	高齢者看護、高齢者の疾患・症状、高齢者アセスメント、加齢変化、QOL				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

高齢者看護学概論および高齢者看護援助論Ⅰの知識をもとに、高齢者看護の援助について理解する。

##### 〔授業の到達目標〕

- ①生理的加齢現象が高齢者に及ぼす影響を考え、日常生活を整える看護の基本的知識を得る。
- ②健康障がい併せ持つ高齢者の疾患・症状をアセスメントし、具体的な看護について理解できる。
- ③高齢者のQOLを高めるべく、健康逸脱からの回復と終末期を支える看護を総合的に展開できる看護援助方法について理解する。

#### ■授業の概要

高齢者看護学概論および高齢者看護援助論Ⅰの知識をもとに、高齢者看護の援助について学習する。具体的には、これまで基礎看護学で学んだ基本的な看護援助、例えば、清潔ケアや排泄ケア、口腔ケア等が、老年期の生理的加齢現象や疾患を持つ高齢者に及ぼす影響を考え、日常生活を整える看護について学びを深める。さらに、健康障がい併せ持つ高齢者の疾患・症状の特徴を理解し、高齢者のQOLを高めるべく、健康逸脱からの回復と終末期を支える看護を総合的に展開できる看護援助方法について学ぶ。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/日常生活を支える基本動作と看護ケア
第2回	高齢者の転倒と看護ケア/廃用症候群の予防と看護
第3回	高齢者の食事と看護ケア(摂食・嚥下機能障害、PEG)
第4回	高齢者の口腔ケア
第5回	高齢者の排泄ケアと清潔ケア(尿失禁・便秘)(ドライスキン)
第6回	高齢者の生活リズムと看護ケア(睡眠と覚醒、休息と活動)/高齢者に特徴的なコミュニケーション障がいと看護ケア
第7回	検査・治療、手術療法を受ける高齢者の看護
第8回	高齢者の栄養ケアマネジメント/低栄養
第9回	疾患を持つ高齢者の看護ケア(脳・神経系、パーキンソン病)
第10回	疾患を持つ高齢者の看護ケア(循環器・呼吸器疾患、感染症)
第11回	疾患を持つ高齢者の看護ケア(骨粗鬆症、骨折、褥瘡)
第12回	認知機能に障がいがある高齢者の看護(認知症)
第13回	うつ、せん妄のある高齢者の看護ケア 高齢者のリスクマネジメント(医療安全・災害看護)
第14回	終末期にある高齢者と家族の看護
第15回	高齢者に特徴的な疾患・症状についてのアセスメントと高齢者に対する看護援助方法のまとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講に関わる情報〕

高齢者に特徴的な疾患・症状についてのアセスメントと看護を学ぶため、高齢者看護学概論および高齢者看護援助論Ⅰ、疾患の病態生理・治療と基礎看護学での生活援助の知識や演習内容の復習が必要である。

##### 〔受講のルール〕

シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。わからないことはそのままにせず積極的に質問すること。将来の医療専門職として時間の厳守と好ましい態度、身だしなみ等を整えること。授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

予習・復習はもとより、高齢者を取り巻く問題について新聞やニュース等を意識し、自分なりの考えを深めて下さい。

#### ■オフィスアワー

火曜日

#### ■評価方法

定期試験 90%、レポート 10%

#### ■教科書

- ・系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
- ・生活機能からみた老年看護過程(医学書院)

#### ■参考書

- ・系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論(医学書院)

科目名	高齢者看護援助論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	丸井 明美 他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「高齢者看護学」			
キーワード	生活行動モデル、目標志向型思考、高齢者看護援助技術				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

高齢者看護学で用いる看護過程の理解と援助技術が実践できる。

##### 〔授業の到達目標〕

- ①高齢者の看護過程で用いる生活行動モデルと目標志向型思考の看護過程を理解することができる。
- ②高齢者の看護過程を展開することができる。
- ③模擬患者に対して高齢者看護に必要な援助を実践することができる。

#### ■授業の概要

高齢者看護に必要な看護過程と援助技術を教授する。具体的には軽度認知症がある高齢者の事例を用い、生活行動モデルと目標志向型思考の看護過程を展開し、模擬患者に対し高齢者看護に必要な看護援助を実践する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/高齢者の看護過程展開における特徴/高齢者看護に用いられる看護理論/高齢者の看護過程展開における柱となる枠組みについて
第2回	事例展開①事例紹介と情報の整理
第3回	事例展開②情報の整理とアセスメント
第4回	事例展開③病態・生活関連図、看護の焦点の明確化・優先順位の決定
第5回	事例展開④看護計画の立案と実施/修正について
第6回	援助技術演習計画立案
第7回	援助技術演習/看護過程のまとめ
第8回	援助技術演習/看護過程のまとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講に関わる情報〕

それぞれの内容ごとに課題を出すため提出期限は必ず厳守すること。援助技術演習はコマ続きで実施するため欠席が無いよう体調管理に万全を期すこと。

##### 〔受講のルール〕

わからないことはそのままにせず積極的に質問すること。将来の医療専門職として時間の厳守と好ましい態度、身だしなみ等を整えること。授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。演習の服装等については授業の中で指示する。手書きの課題は読みやすい字で丁寧に書くこと。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

援助技術演習では、基礎看護学で学習した基本的な援助技術を高齢者の加齢変化を加味し応用して実践するため、生活援助の知識等について復習が必要である。

#### ■オフィスアワー

火曜日

#### ■評価方法

看護過程の課題 70%、援助技術演習の参加度、積極性、手技、記録内容 30%。

#### ■教科書

- ・系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
- ・生活機能からみた老年看護過程(医学書院)

#### ■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	在宅看護援助論	担当教員 (単位認定者)	丸岡 紀子	単位数 (時間数)	2 (15)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「在宅看護学」			
キーワード	在宅看護、訪問看護、対象別在宅看護、ケアマネージメント				

#### ■授業の目的・到達目標

##### [ 授業の目的 ]

在宅療養者とその家族を理解し、在宅看護の援助方法とケアマネージメントについて学ぶ。

##### [ 到達目標 ]

- ①在宅看護の対象、活動の場が理解できる。
- ②在宅看護におけるコミュニケーションの取り方が理解できる。
- ③疾患別の在宅療養者の特徴とその看護を理解できる。
- ④在宅看護における看護過程の展開方法が理解できる。
- ⑤社会資源の活用とケアマネージメントが理解できる。

#### ■授業の概要

在宅看護の対象、活動の場、各領域疾患別の在宅看護の実際、アセスメントの方法、コミュニケーションの取り方、社会資源の活用とケアマネージメントの実際を学習する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、在宅看護の対象、方法、在宅看護におけるコミュニケーション
第2回	在宅療養者と家族、家族支援
第3回	社会資源の活用[1] 在宅看護に関係する諸制度、関連職種、ケアマネージメント
第4回	社会資源の活用[2] 介護保険制度と訪問看護
第5回	対象別在宅看護[1] 脳血管疾患患者
第6回	対象別在宅看護[2] 難病患者
第7回	対象別在宅看護[3] 認知症患者
第8回	地域包括支援センターの役割とオレンジプラン 担当地域包括支援センター職員
第9回	対象別在宅看護[4] 感染症
第10回	対象別在宅看護[5] 在宅ターミナルケア
第11回	対象別在宅看護[6] 精神障がい者
第12回	在宅療養者の日常生活援助 [移乗・移動]
第13回	在宅での看護過程の展開
第14回	在宅看護過程演習
第15回	在宅看護過程演習

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### [ 受講生に関わる情報 ]

- ①予習:教科書を読んでくる。
- ②復習:授業で配布したプリント・資料を読み返す。

##### [ 受講のルール ]

- ①私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は当該授業について欠席扱いにする。
- ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。
- ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ①本科目の基礎である在宅看護学概論を復習しつつ、授業に臨むよう心がけること。
- ②病院・施設看護に対して、看護が行われる場合は地域・家庭であり、その対象が患者本人のみならず、介護者・家族を含むことを常に意識した学習をしてほしい。
- ③現在の社会情勢のなかで、頻繁に在宅医療・看護・介護問題がマスコミで報じられているので、新聞・テレビ等からの情報に常に関心を持って学習に臨んでもらいたい。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

- ①筆記試験 60%、(教科書、講義内容全般から出題する)。
- ②演習課題 40% (提出期限を遵守する)。
- ③総合評価は、筆記試験とレポート課題を合わせて60%以上を超えていることが前提(詳細な評価基準は授業概要参照)。

#### ■教科書

杉本 正子, 眞船 拓子編集:在宅看護論 -実践をことばに-, ヌーベルヒロカワ, 2008  
 岡崎美智子, 正野逸子編:根拠がわかる在宅看護援助技術第2版. メヂカルフレンド社. 2010  
 櫻井直子他編:ナーシンググラフィカ、在宅看護論 地域療養を支えるケア、メディカ出版、2013

#### ■参考書

国民衛生の動向 2013/2014 厚生統計協会  
 津村智恵子 上野昌江編:公衆衛生看護学. 中央法規出版、2012  
 岡崎美智子, 正野逸子編:根拠がわかる在宅看護技術、メヂカルフレンド、2013



科目名	在宅看護援助技術	担当教員 (単位認定者)	丸岡紀子・島田昇	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「在宅看護学」			
キーワード	在宅 日常生活援助技術 医療処置に伴う援助技術 面接技術				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

在宅看護の基本的な看護援助を学び、実践出来るようになることを目的としている。

#### 〔到達目標〕

- ①在宅における基本的な医療処置に伴う看護援助の目的・方法がわかる。
- ②療養者・家族との信頼関係を構築する初回訪問を学内で模擬的に実践し、面接技法を習得する。
- ③在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、気管切開部の管理方法を理解し、家族指導ができる知識・技術を習得する。
- ④在宅での日常生活援助を事例を想定して計画し、模擬的に実施し評価する。

### ■授業の概要

学内演習により、在宅で療養する患者に対して行う基礎的な看護技術を学ぶ。また、在宅生活を可能にする医療機器などを用いた治療法における看護の役割を学習し、医療処置の目的・内容を理解する。さらに必要に応じ家族に対するこれらの技術の相談・指導を受けることができるよう修得した知識技術の整理をする。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 演習について
第2回	在宅における日常生活援助 計画と実施の準備(第11、12回の準備)
第3回	在宅における医療処置に伴う援助技術(吸引、気管切開部の管理、在宅中心静脈栄養法、在宅抹消点滴静脈注射法)
第4回	在宅における医療処置に伴う援助技術(在宅経腸栄養法、尿道留置カテーテル管理、ストーマ管理、褥瘡)
第5回	脳血管疾患療養者の初回訪問看護計画、シナリオの作成、移動の援助計画
第6回	人工呼吸器管理、気管切開部の管理が必要な療養者の訪問計画
第7回	演習A 訪問看護の初回訪問ロールプレイ ロールプレイと意見交換
第8回	演習A 日常生活援助 移動
第9回	演習B 医療依存度の高い療養者に対する看護技術(在宅酸素療法、人工呼吸療法)
第10回	演習B 医療依存度の高い療養者に対する看護技術(在宅酸素療法、人工呼吸療法、気管切開部の管理・吸引)
第11回	演習C 在宅療養者の日常生活援助(事例展開:清潔ケア、拘縮予防の実施と評価)
第12回	演習C 在宅療養者の日常生活援助(事例展開:清潔ケア、拘縮予防の実施と評価)
第13回	演習のまとめ(グループワーク、発表準備)
第14回	演習のまとめ発表とディスカッション①家族への指導に焦点を当てて
第15回	演習のまとめ発表とディスカッション②家族への指導に焦点を当てて

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生に関わる情報〕

- ・演習はジャージ、ナースシューズ着用。髪型等身だしなみは実習に準じる。
- ・指定された事前学習及び事後レポートの提出をすること。

#### 〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

実技演習のための事前学習を行い、理解して授業に臨むこと。各種技術は再学習し、修得すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)60%、実技(レポート含む)40%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)。  
総合評価は筆記試験、実技試験ともに60%を超えていることが前提となる。

### ■教科書

杉本 正子, 眞船 拓子編集:在宅看護論 -実践をこぼに-, ヌーベルヒロカワ, 2008  
岡崎美智子, 正野逸子編:根拠がわかる在宅看護援助技術第2版. メヂカルフレンド社. 2010  
櫻井直子他編:ナーシンググラフィカ、在宅看護論 地域療養を支えるケア、メディカ出版、2013

### ■参考書

押田眞喜子:写真でわかる訪問看護 改訂2版、インターメディカ.2010

科目名	地域看護学概論	担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「公衆衛生看護学」			
キーワード	地域看護 公衆衛生看護 在宅看護 生活の場 看護職の役割				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

地域看護学の各分野とその概念、活動の場、および地域における看護職の役割を学ぶ。

##### 〔到達目標〕

- ①地域看護・公衆衛生看護の概念と歴史的・社会的背景を理解し、地域看護活動の在り方を考えることができる。
- ②人々の健康問題を環境・健康レベル・ライフステージ・個と集団等の側面から学び、看護の役割を理解できる。
- ③地域看護活動の場と諸分野を学び、健康レベルに対応した看護機能、及び施設看護との相違を理解できる。

#### ■授業の概要

授業は講義を主とする。テーマによってはDVD等の視聴覚教材も使用する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	◇科目オリエンテーション ・地域看護の概念 1) 地域看護の目的 2) 地域看護の定義
第2回	・地域看護活動の場と分野 1) 公衆衛生看護 2) 在宅看護 3) 学校看護 4) 産業看護
第3回	・地域看護の歴史と社会的背景
第4回	・人々の生活と地域看護の役割〔1〕 1) 人々の健康に影響するもの 2) ライフステージと健康問題
第5回	・人々の生活と地域看護の役割〔2〕 3) 健康レベルと看護活動 4) 個人・家族・集団の健康問題と看護職の役割
第6回	・WHOの保健戦略 1) プライマリーヘルスケア 2) ヘルスプロモーション 3) 日本におけるヘルスプロモーションの展開
第7回	・地域保健福祉行政と地域健康施策 1) 保健医療福祉行政のしくみ 2) 保健医療福祉に関する計画
第8回	・保健医療福祉の連携とケアコーディネーション ・地域看護活動の課題

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ①既修の関連科目(社会学、社会保障制度、社会福祉制度等)の復習をして、臨んでください。
- ②自身や家族・身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講してください。
- ③教科書・プリント等は毎回持参してください。
- ④変更がある場合は前の週の授業が掲示で知らせるので、常に注意を払ってください。
- ⑤遅刻・早退・欠席等は可能な限り事前に連絡し、プリント・資料等は自己責任で入手し、学習してください。

##### 〔受講のルール〕

- ①私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は当該授業について欠席扱いにする。
- ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。
- ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

各自の居住市町村の健康日本21計画(健康〇〇21)を調べる。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験、課題レポート、受講態度により評価する。

#### ■教科書

地域看護学 津村智恵子編著 中央法規出版  
厚生統計協会：国民衛生の動向

#### ■参考書

随時提示する。



科目名	地域看護学活動論	担当教員 (単位認定者)	丸岡紀子 島田昇	単位数 (時間数)	2 (15)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「公衆衛生看護学」			
キーワード	地域看護活動 活動の展開 健康支援 個別的援助 集団的援助 健康課題				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

看護師の活動対象が病気・障害のある人々から健康な人々まで広がっている現状において、多様な健康支援の方法を理解する。地域において看護職が行う個人、家族、集団、コミュニティを対象とする健康支援の理念と知識・技法を学ぶ。

##### 〔到達目標〕

- 1) 健康とQOLの維持向上を目指す地域看護活動のあり方がわかる。
- 2) ライフステージ別対象(母子・成人、高齢者)、健康課題別対象(精神、難病、感染症、災害)に対する保健活動概要と支援方法がわかる。

#### ■授業の概要

地域に生活する様々なライフステージの対象者の健康の保持増進、疾病予防、回復の促進について地域で展開される看護活動について、看護職として必要な基本的な知識と技術を学ぶ。個人、家族、集団、地域へと広がる活動方法、ライフステージ別(母子、成人、高齢者)及び健康課題別(感染症、難病、精神・身体・知的障害者)保健活動の基本的知識を学ぶ。また、地域住民の健康意識の啓発活動、保健師活動の実際を見学する機会として藤岡市健康福祉祭に参加する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・健康度測定
第2回	地域看護活動の展開方法[1]個人、家族を対象とする活動
第3回	地域看護活動の展開方法[2]集団、コミュニティを対象とする活動
第4回	母子保健活動[1]母子保健活動の歴史の変遷 母子保健の指標
第5回	成人保健活動[1]成人期の特徴、健康課題
第6回	高齢者保健活動[1]高齢者に関する各種統計と政策 健康高齢者支援 一人暮らし高齢者支援
第7回	藤岡市健康福祉祭
第8回	母子保健活動[2]我が国の母子保健施策 母子保健に関する法律
第9回	成人保健活動[2]成人期の保健施策
第10回	高齢者保健活動[2]要介護高齢者支援 認知症高齢者支援 高齢者虐待
第11回	難病者保健活動・感染症保健活動
第12回	精神保健活動・障害者保健活動
第13回	演習 地域看護活動の実際[2]健診における保健指導
第14回	演習 地域看護活動の実際[3]健診における保健指導
第15回	演習 地域看護活動の実際[4]家庭訪問における保健指導

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ・健康福祉祭の参加方法の詳細は授業シラバス及び事前説明で示す。
- ・予習復習は必ず行うこと。

##### 〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

予習として教科書を読んで授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、実技レポート30%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)。  
総合評価は筆記試験、実技試験ともに60%を超えていることが前提となる。

#### ■教科書

津村智恵子他編著:公衆衛生看護学.中央法規.2013

#### ■参考書

厚生統計協会:国民衛生の動向、2014/2015

科目名	専門演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	丸岡 紀子 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	3年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	建学の精神、ボランティア活動、地域貢献、学士力、進路・資格、研究				

#### ■授業の目的・到達目標

本学の建学の精神を身につけ、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、さらに自立心と礼儀を重んじ自立した社会人・看護専門職者としてのスキルアップを図る。

#### ■授業の概要

建学の理念や教育方針に従って、地域連携、日常生活における自立的実践能力および看護専門職としての基礎的能力を高める学習をする。また国際的視野で看護活動を理解するために青年海外協力隊の活動を学ぶ機会をもつ。生活指導、学習指導、進路指導、資格取得に関わる指導・助言を行う。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、建学の精神と実践プログラム①: 自己の課題の明確化、目標設定と計画
第2回	進路・資格取得プログラム①: 国家試験に向けての心構え
第3回	進路・資格取得プログラム②: 看護専門職者としての資格取得と看護活動、進学・就職に向けての心構え
第4回	進路・資格取得プログラム③: 国家試験対策講座〔1〕: 看護師国家試験必修問題 模擬試験
第5回	学士力養成プログラム①: 看護の現場で活用できる計算
第6回	学士力養成プログラム②: 小論文の書き方
第7回	学士力養成プログラム③: プレゼンテーションの方法
第8回	研究指導プログラム①: 文献検索(研究論文の検索: 演習)
第9回	3年次前期の振り返りと自己の課題、夏期休暇の計画、前期総括
第10回	進路・資格プログラム④: 国家試験対策講座〔2〕: 看護師国家試験必修問題 模擬試験
第11回	進路・資格プログラム⑤: 国際看護活動の実際(JOCA 青年海外協力協会)
第12回	進路・資格プログラム⑥: 特別講義「看護職者に期待すること〜患者・家族の立場から〜」
第13回	進路・資格プログラム⑦: 特別講義「現場で活躍する看護専門職者の声〜求められる看護専門職像」
第14回	研究指導プログラム②: 看護研究テーマの設定
第15回	研究指導プログラム③: 看護研究発表会への参加

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講に関わる情報〕

- ①本科目は本学の人間教育の要である。そのことを深く留意して取り組むこと。
- ②予習や授業の中で生じた疑問点などは、自ら文献などを用いて調べ、さらに疑問点が残る場合には積極的に質問し、自律的に学習を進めること。

##### 〔受講のルール〕

- ①授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ②授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など)を活用すること。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ④学年全体のオリエンテーション等の学校行事には必ず出席すること。
- ⑤欠席・遅刻は厳禁。やむを得ない場合は事前に届け出ること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

授業への参加態度、課題への取り組み姿勢、レポート等を参考に評価する。

#### ■教科書

授業内で適宜紹介する。

#### ■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	教職概論	担当教員 (単位認定者)	塚本 忠男	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	3年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	教師としてのあるべき姿				

#### ■授業の目的・到達目標

教育状況の変化に伴い教育の改革が推進される中、教師には変化の対応が迫られている。さらに児童生徒同志、児童生徒と教師の人間関係の構築能力が求められる。  
授業づくり、生徒指導を中心とした教師の仕事、教えるということ、そして教師としてのあるべき姿、教職の意義、教師の制度的役割を理解しながら自らの教師像をつくっていく。

#### ■授業の概要

求められる教師像について研究し理解し、知力とともに実践力を養う。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・専門家としての教師(社会から期待されている仕事・他の職業との違い)
第2回	教師という仕事の性格・情動実践としての教職
第3回	子どもを育む(教師として子どもの心に寄り添う)・子どもの言葉を受け取る(子どもに接する心構え)
第4回	教師と子どもの関係が陥りやすい罠(教師がカウンセラーになる難しさは・担任教師として)
第5回	守りの器をつくる(多様化する子どもの問題を捉えながら教師自身の守りの器をつくり出す)
第6回	子どもの疲れと教師の疲れ・M先生を支えたもの・器になるには・生徒指導と教育相談
第7回	公務員としての教師(服務・職務規律の確保・研修)・待遇
第8回	同僚とともに学校を創る(学校における同僚性・教師文化を形成するもの)
第9回	教育実習から新任の教師へ(教育実習・新任教師)
第10回	教師には5つの資質が必要・学習指導(教壇に立つ心構え等)
第11回	教師としてのアイデンティティと模索(魂の載った生々しい言葉で語る)
第12回	教職へのコミットメントとアイデンティティの間
第13回	教職の専門性とは(多様な教師像・教師が果たす機能)
第14回	生徒指導(生徒指導の考え方・教育相談の方法・ほめ方しかり方・体罰の禁止)
第15回	学校における生徒指導のチェックポイント・不登校生徒に対する指導のポイント・いじめ問題に関する指導

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度であること。  
積極的に自己表現ができること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

教職に関する教育現場での社会的問題について検証し、自らの考えを論ずることで、教師としての在り方を考察する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

提出物、発表の内容・方法・態度と定期試験によって評価。いずれも60%を超えていること。

#### ■教科書

授業内で適宜紹介する。

#### ■参考書

授業において紹介する。

科目名	教育課程論	担当教員 (単位認定者)	塚本 忠男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	教育課程とは。あるべき教育課程				

#### ■授業の目的・到達目標

- ・ 教育課程の制度と内容を理解する。
- ・ 児童・生徒の発達課題に応える教育課程のあり方について考察する。
- ・ 「確かな学力」とは何かについて研究し、教育課程の編成について考えを深める。

#### ■授業の概要

教育課程編成の意義と教育の目的及び目標について学習し研究し実践に役立てる。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	・ オリエンテーション(授業方法と内容と評価) ・ 教育課程編成の意義(教育目的と目標)
第2回	・ 教育という営みの必然性 ・ 教育課程の設置される理由 ・ カリキュラムと教育課程
第3回	・ 教育課程の概念と意味(概念・意味。公的カリキュラムと潜在的カリキュラム・基本的概念)
第4回	・ カリキュラムの構造と類型 ・ 教科カリキュラムと経験カリキュラムの比較
第5回	・ 学習指導要領における教育課程の基準(教育課程の意義・教育課程に関する法則)
第6回	・ 学習指導要領の特徴と変遷(学習指導要領とは何か・学習指導要領の歴史的変遷)
第7回	・ 教育課程編成の教育目的および目標 ・ 改正教育基本法における教育の目的と目標
第8回	・ 教育課程における教育方法の諸課題(新学習指導要領と教育方法・教育六法の類型)

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ 意欲的な学習態度であること。
- ・ 教師としてのあるべき姿をイメージし、日常生活の中での実践をとおして意識を養うことに努める。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

教育に関わる社会状況や学校現場での取り組み情報を収集し、教育問題・課題の解決のための学校のあるべき姿を具体的にイメージし、考察する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

提出物、発表の内容・方法・態度と定期試験による評価。いずれも60%を超える内容であること。

#### ■教科書

授業内で適宜紹介する。

#### ■参考書

授業において紹介する。



科目名	健康障害児・生徒支援論	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	健康障害児・生徒支援論				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

特別支援教育の意義、在り方等の理解に基づき、健康障害を抱える幼児、児童および生徒の自立と社会参加の促進、健康の維持・増進、安全の保障を目指した支援に必要な基本的知識・技術を習得する。

#### 〔到達目標〕

- ①健康障害を抱える幼児、児童および生徒とその家族への支援における基本理念を理解する。
- ②健康障害を抱える幼児、児童および生徒とその家族の特徴を身体・心理・社会的、発達の、教育的、治療的側面から理解し、健康障害の特性、ライフステージ等に応じた個別的、かつ生涯を見通した支援を進める上で必要な基本的知識・技術を得る。
- ③健康障害を抱える幼児、児童および生徒とその家族への支援において、諸分野との連携をはじめとした一体的な取り組みの重要性を理解する。

### ■授業の概要

健康障害を抱える幼児、児童および生徒の心身の発達及び学習の過程を学び、特別な支援に必要な知識、理解、教育的対応等について教授する。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/健康障害を抱える児童生徒への支援の基本理念 [1]: 特別支援教育の現状・統計、子どもの権利、ノーマライゼーション、国際生活機能分類 (ICF)
第2回	健康障害を抱える児童生徒への支援の基本理念 [2]: 法制度、特別支援教育の理念・基本方針
第3回	健康障害を抱える児童生徒への支援の実際と支援者の役割①: 健康障害を抱える幼児、児童および生徒の心身の発達と学習過程、健康障害を抱える児童生徒と家族の全人的理解、障害の受容過程
第4回	健康障害を抱える幼児、児童および生徒への支援の実際と支援者の役割②: 特別なニーズのある子どもと家族への支援
第5回	健康障害を抱える幼児、児童および生徒への支援の実際と支援者の役割③: 特別なニーズのある子どもと家族への支援
第6回	健康障害を抱える幼児、児童および生徒への支援の実際と支援者の役割④: 医療的ケアを必要とする子どもと家族への支援
第7回	健康障害を抱える幼児、児童および生徒への支援の実際と支援者の役割⑤: 医療的ケアを必要とする子どもと家族への支援
第8回	特別支援教育における連携の実際と支援者の役割

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生に関わる情報〕

- ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。
- ・予習復習は必ず行うこと。

#### 〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートを取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など)を活用すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ・授業の感想を書く。(評価には使わない)信頼関係の下で、表現力を育てるために行うものである。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ・特別支援教育に関する情報(新聞記事、文献等)を収集する。一つ取り上げ、その内容を要約し、意見・感想をまとめ、3分間スピーチで語る。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、レポート30%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)。  
総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

### ■教科書

- ①国立特別支援教育総合研究所監修: 特別支援教育の基礎・基本, 2009
- ②文部科学省: 特別支援教育幼稚部教育要領・小学部学習指導要領・高等部学習指導要領, 2009

### ■参考書

- ・特別支援教育の理論と実践, 一般財団法人協会, 竹田契一、上野一彦他, 2012
- ・松石豊次郎, 北住映二、杉本健郎: 医療的ケア研修テキスト-重症児者の教育・福祉、社会生活の援助のために、クリエイツかもがわ, 2012
- ・飯野順子, 岡田加奈子編集: 養護教諭のための特別支援教育ハンドブック, 大修館書店, 2007

科目名	保健医療福祉政策論	担当教員 (単位認定者)	窪田 和巳	単位数 (時間数)	2 (15)
履修要件	3年前期選択科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「社会科学系(保健医療福祉)」			
キーワード	保健、医療、福祉、政策				

#### ■授業の目的・到達目標

我が国における保健医療福祉政策の概要を理解し、看護・医療現場と関連政策のつながりを論じることができる。

#### ■授業の概要

人々の生活と福祉を護る諸制度の仕組みを、歴史的な流れ及び国際的な動向で概説し、看護活動の実践に向けて、適用するための方法を教授する。また、保健医療福祉制度の課題と制度の変化の現状についても論究する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	イントロダクション/保健医療福祉とは
第2回	保健医療福祉政策総論①：人々の健康観の変遷と保健医療福祉政策
第3回	保健医療福祉政策総論②：社会保障の理念・役割・意義、国民負担率
第4回	保健医療福祉政策総論③：我が国の保健医療福祉行政の仕組みと法体系
第5回	保健医療福祉政策総論④：WHOの保険戦略と我が国の保健医療福祉政策
第6回	保健医療福祉政策各論①：人口の動向、生活習慣病
第7回	保健医療福祉政策各論②：母性・小児分野の政策動向
第8回	保健医療福祉制度各論③：老年分野の政策動向
第9回	保健医療福祉制度各論④：精神保健、感染症分野の政策動向
第10回	保健医療福祉制度各論⑤：成人分野の政策動向
第11回	保健医療福祉制度各論⑥：看護職に関わる保健医療福祉政策の動向(1)
第12回	保健医療福祉制度各論⑦：看護職に関わる保健医療福祉政策の動向(2)
第13回	保健医療福祉制度各論⑧：看護職に関わる保健医療福祉政策の動向(3)
第14回	保健医療福祉制度各論⑨：看護職に関わる保健医療福祉政策の動向(4)
第15回	保健医療福祉政策のこれからと看護実践への応用

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

人々の病気、健康問題は医療・保健・福祉分野にとどまらず国及び地方、世界の政治、経済、社会情勢などと密接に関連しているので、常に新聞、テレビ等のニュース、記事を収集し自らの問題の所在、方策を考える習慣を身につける。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

「受講生に関わる情報および受講のルール」を参照。

#### ■オフィスアワー

なし(ただし、E-mailでの質問等は随時対応する)

#### ■評価方法

出席状況、課題レポートにより評価する。

#### ■教科書

なし

#### ■参考書

「看護職者のための政策過程入門-制度を変えると看護が変わる」日本看護協会出版会



科目名	精神看護学実習	担当教員 (単位認定者)	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	3年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修	
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「精神看護学」		
キーワード	精神看護学実習			

### ■授業の目的・到達目標

#### I. 実習目的

精神の障がいにより日常生活に影響をおよぼしている人々と家族に対する理解を深め、患者と看護者との関係を築きながら看護の果たす役割と援助方法を学ぶ。また、社会復帰とそのための地域精神保健活動の重要性を理解し、他の医療チームとの連携と看護活動における看護者の役割を学ぶ。

#### II. 実習目標

- 精神に障がいをもち入院している人とその家族状況を理解する。
  - 精神に障がいをもつ人が入院に至った経過、生活背景が理解できる。
  - 精神機能の障がいや治療によって生じる身体機能および日常生活への影響が理解できる。
  - 精神に障がいをもつ人の家族状況が理解できる。
  - 精神に障がいをもつ人に関する制度・法律について理解できる。
  - サポートシステムを理解し精神に障害をもつ人や家族の援助を考えることができる。
- 精神に障がいをもつ人が入院している施設の概要を理解する。
  - 入院施設の概要が分かる。
  - 入院施設が目指す役割を説明できる。
- 精神に障がいをもつ人の全体像の生活行動を通して生活の視点から理解し必要な看護を計画し、実施、評価する。
  - 精神機能が生活におよぼす影響をアセスメントできる。
  - アセスメントから、その人の伸ばせる能力や改善する課題を述べることができる。
  - その人らしさを取り入れ、ともに目標、計画を立案し、実施できる。
  - 実施した看護について評価、修正できる。
- 精神に障がいをもつ人とのかかわりを通して自己洞察を深める。
  - 精神に障がいをもつ人の表情や言動に関心をもつことができる。
  - 精神に障がいをもつ人の表情や言動から感情の動きやその意味を考えることができる。
  - 精神に障がいをもつ人の反応から、自分自身の感じ方や考え方、行動の仕方に気づくことができる。
  - 患者 - 看護者関係において、自分自身の感情や行動がどのように影響しているか考えることができる。
- 精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を見いだす。
  - 精神科におけるチーム医療の意義を理解できる。
  - さまざまな職種が他の職種とどのような連携をもちながら役割を果たしているのか知る。

### ■実習履修資格者

- 看護基礎実習 I および II の単位の修得。
- 精神看護学概論・精神看護学援助論 I の単位の修得。
- 精神看護学援助論 I、II の単位認定の受験資格要件を満たしていること。

### ■実習時期及び実習日数・時間

- ・実習時期:平成 26 年 5 月 12 日～8 月 1 日
- ・実習日数:2 週間
- ・実習時間:9 時から 17 時

### ■実習上の注意

学内で学んできたことを活かし、精神に障がいをもつ患者とのかかわりをとおして積極的に学習に取り組んでください。また、ひとつひとつの事柄に対して、自分の知識や感情・思考・行動の傾向を確認し、自己のあり方を考える機会にしていきましょう。

### ■評価方法

出席状況、実習状況、記録物等を対象に、実習目標の到達度を、評価基準を用いて評価する。

科目名	母性看護学実習	担当教員 (単位認定者)	堀越 摂子	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	3年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
	カリキュラム上の位置づけ	看護学領域における「母性看護学」			
キーワード	母性看護、妊婦、産婦、褥婦、新生児				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔目的〕

妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児及びその家族の特徴を理解し、ウェルネスの観点から妊娠および出産に関わる健康の維持増進や健康上の課題を解決するための基礎的实践力と看護職としての態度・姿勢を養う。

##### 〔目標〕

- 1) 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的な経過と母子関係を理解する。
- 2) 妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族への看護の実際を理解する。
- 3) 母性看護の対象をとおして、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、及び倫理的責任課題について理解する。
- 4) 母性看護学実習を通して、自己の親性観(母性・父性観)を深められる。
- 5) 実習体験に基づいて、母性看護の役割や看護の本質を考察し、自己の課題を見出せる。

#### ■実習履修資格者

履修要件:人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ、疾病・治療論各論Ⅰ～Ⅴ、看護基礎実習Ⅰ～Ⅱ、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ～Ⅱの単位を修得しているもの。

実習までに履修していることが望ましい科目:2年時までの必修科目

#### ■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習要綱 オリエンテーション用紙参照 (別途配布する)
2. 1グループ4名で2週間の病棟実習と外来実習をする。
3. 期間:平成26年5月12日(月)～11月21日(金)10日間 時間:8時30分から16時
4. 施設:公立藤岡総合病院、光病院、フクイ産婦人科クリニック

#### ■実習上の注意

1. 別紙実習要綱を参照し、実習に臨む。
2. 欠席しないよう体調管理をして実習に臨む。
3. 既習学習内容を復習して、実習に臨む。

#### ■評価方法

1. 別紙実習要綱参照。
2. 出席は4/5以上であること。
3. 実習目標の到達度として保健指導課題の実施、受け持ちの看護展開記録、事前学習及び提出を求められたレポートの期日内提出などにより評価を行う。60%以上を合格とする。

科目名	小児看護学実習	担当教員 (単位認定者)	西山 智春	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	3年前期・後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
	カリキュラム上の位置づけ	看護学領域における「小児看護学」			
キーワード	小児看護、健康な子ども、健康障害を抱える子ども、重症心身障害児、看護過程				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔実習の目的〕

様々な健康状態、発達段階にある子どもとその家族を統合的に理解し、健康の回復および維持・増進を目指した個性を考慮した看護を実践するための基礎的能力を養うとともに、小児看護の役割・機能を学ぶ。

##### 〔到達目標〕

- 1) 小児期にある対象を身体的・心理的・社会的側面から統合的に理解する。
- 2) 小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康問題とその支援の必要性を身体的・心理的・社会的側面からアセスメントする。
- 3) 小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康問題の解決および回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価する。
- 4) 小児看護に必要な基本的な看護技術を習得する。
- 5) 小児期にある対象の保健医療福祉における看護の役割・機能を理解する。
- 6) 小児期にある対象の理解および看護実践をとおして、看護の役割・機能とその意義を理解する。
- 7) 看護学の初学者として、看護の役割・機能を達成するための責任、および望ましい姿勢・態度を確認する。

#### ■実習履修資格者

以下の科目の単位を修得している者が、小児看護学実習に臨むことができる。

1. 人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ
2. 疾病・治療論各論Ⅰ～Ⅴ
3. 看護基礎実習Ⅰ～Ⅱ
4. 小児看護学概論
5. 小児看護援助論Ⅰ～Ⅲ

#### ■実習時期及び実習日数・時間

実習期間:3年前期～後期において実施する。

実習時間:90時間を基本とする。

#### ■実習上の注意

実習要項(共通要綱および小児看護学実習臨地実習要項)を参照し、遵守すること。

#### ■評価方法

小児看護学実習の一般目標および行動目標を評価基準として、各施設実習(病棟実習、幼稚園実習、障がい児看護実習)、学内演習、カンファレンスにおける学生の言動、記録物およびレポートの記載内容により、単位認定教員が評価、判定する。

科目名	臨床看護学実習Ⅰ（成人老年・慢性期）	担当教員 （単位認定者）	平賀・赤石・伊藤・長嶺 他	単位数 （時間数）	2 （90）
履修要件	3年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	成人期 慢性期 セルフケア				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 1. 実習目的

回復期・慢性期にある対象の、自己効力を意識したセルフマネジメントに働きかけ、機能回復及びセルフケア再獲得のための援助を展開できる。

##### 2. 実習目標

- 1) 回復期・慢性期にある患者および家族の特徴が述べられる。
- 2) 対象の特徴を踏まえ、看護診断を用いて必要な看護の方向性が見出せる。
- 3) セルフケアを必要とする患者及び家族に対し、必要な援助・指導が出来る。
- 4) 長期療養を必要とする患者の抱えている問題を理解し、闘病意欲を失わせないような援助ができる。
- 5) 他職種による対象への指導場面の関わりを理解できる。

#### ■実習履修資格者

人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ、疾病治療論各論Ⅰ～Ⅴ、成人看護学概論・成人看護援助論Ⅰ～Ⅴ及び看護基礎実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得している者

#### ■実習時期及び実習日数・時間

1. 時 期:平成 26 年 5 月 12 日（月）～11 月 21 日（金）
2. 日 数:2 週間
3. 時 間:90 時間（2 単位）

#### ■実習上の注意

1. 実習要綱 オリエンテーション用紙参照（別途配布）。
2. 指定された病院（別途指示）で1グループ5～6名で2週間（90時間）の病棟実習をする。
3. 個人衛生に留意し、実習に支障をきたさない事。
4. 既習学習内容を復習し、実技を修得して実習に臨む。

#### ■評価方法

1. 4/5以上の出席をもって評価対象とする。提出期限以降の提出を認めない。
2. 実習評価表に基づいて評価する（実習要項参照）。

科目名	臨床看護学実習Ⅱ（成人老年・急性期）	担当教員 （単位認定者）	平賀・赤石・伊藤・長嶺 他	単位数 （時間数）	4 （180）
履修要件	3年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
	カリキュラム上の位置づけ	看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	成人期 急性期 クリティカルケア				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 1. 実習目的

健康の危機状況にある対象の特徴を理解し、全身状態の改善と合併症予防に努め、苦痛の緩和・早期回復に向けての看護ができる。

##### 2. 実習目標

- 1) 急性期・回復期にある患者および家族の特徴が述べられる。
- 2) 身体侵襲を伴う治療を必要とする患者への看護の方向性を見いだせる。
- 3) 周手術期にある患者の看護が出来る。
  - ①手術を受ける患者の身体的精神的準備と周手術期における経過がわかる。
  - ②手術中の安全管理と看護の役割がわかる。
- 4) 回復期におけるセルフケア再獲得に向けた援助ができる。
  - ①手術後の回復過程を過ごす患者に必要な看護ができる。
  - ②セルフケアを必要とする患者に指導ができる。
  - ③失われた機能を受容し生活の再構築に取り組む患者および家族への看護がわかる。
- 5) 生命の危機状態にある対象（救急外来・救急病棟・集中治療室などの）において、必要な医療や看護の場の特徴が理解できる。

#### ■実習履修資格者

人体構造機能学Ⅰ-Ⅴ、疾病治療論各論Ⅰ-Ⅴ、成人看護学概論・成人看護援助論Ⅰ-Ⅴ及び看護基礎実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得している者。

#### ■実習時期及び実習日数・時間

1. 時 期：平成 26 年 5 月 12 日（月）～ 11 月 21 日（金）
2. 日 数：4 週間
3. 時 間：180 時間（4 単位）

#### ■実習上の注意

1. 実習要綱 オリエンテーション用紙参照（別途配布）。
2. 指定された病院（別途指示）で 1 グループ 5 ～ 6 名で 4 週間（180 時間）の病棟実習をする。
3. 個人衛生に留意し、実習に支障をきたさない事。
4. 既習学習内容を復習し、実技を修得して実習に臨む。

#### ■評価方法

1. 4/5 以上の出席をもって評価対象とする。提出期限以降の提出を認めない。
2. 実習評価表に基づいて評価する（実習要項参照）。



科目名	高齢者看護学実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	丸井明美・橋本知子	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	3年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「高齢者看護学」			
キーワード	高齢者看護過程、高齢者看護援助技術、高齢者施設における看護、介護保険				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

高齢者の特性と個性を考慮した支援の方法と保健・医療・福祉システムの理解を深め、施設での看護の役割・機能及び看護の基礎的実践力と看護職としての態度・姿勢を養う。

##### 〔到達目標〕

- ①高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。
- ②認知症など的高齢者の特性を踏まえたコミュニケーションの方法を理解する。
- ③高齢者の特性を踏まえた生活の課題や支援の方法を理解する。
- ④多職種との連携を通して、施設における看護の役割・機能について理解する。
- ⑤高齢者と家族を取り巻く保健・医療・福祉システムを理解する。
- ⑥高齢者の人権を尊重する態度を養い、高齢者観を深めることができる。

#### ■実習履修資格者

- ①～⑥の単位を取得している者。
- ①人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ
- ②疾病・治療論各論Ⅰ～Ⅴ
- ③看護基礎実習Ⅰ
- ④看護基礎実習Ⅱ
- ⑤高齢者看護学概論
- ⑥高齢者看護援助論Ⅰ～Ⅲ

#### ■実習時期及び実習日数・時間

- ・実習時期:3年前期
- ・実習日数:2週間
- ・実習時間:8:30～16:00

#### ■実習上の注意

実習要項(共通及び高齢者看護学実習)を参照し、遵守すること。

#### ■評価方法

高齢者看護学実習Ⅰの目標を評価基準として、実習内容、実習中の態度、課題/提出記録、出席状況等踏まえて単位認定者が総合的に評価、判定する。詳細は別紙評価表参照。

科目名	高齢者看護学実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	丸井明美・橋本知子	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	3年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「高齢者看護学」			
キーワード	高齢者看護過程、生活行動モデル、高齢者看護援助技術、療養型病床/回復期病棟				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

多様で個別的な健康障害がある高齢者とその家族を総合的に理解し、健康の回復・維持・増進を図る看護を実践するための基礎的能力を養う。

##### 〔到達目標〕

- 1) 高齢者の健康障害と特性、個別性、治療を踏まえ、対象および家族のニーズに即した看護過程の展開ができる。
  - ① 高齢者の健康障害と特性、個別性、治療を考慮し、生活行動モデルに即した枠組みで必要な情報を収集することができる。
  - ② 生活行動モデルの枠組みで、高齢者を総合的にアセスメントできる。
  - ③ 高齢者の健康障害のレベル、個別性、もてる力を考慮した看護計画を立案できる。
  - ④ 看護計画に基づき安全・安楽を考慮した看護が実践できる。
  - ⑤ 実践した看護を客観的に評価することができる。
  - ⑥ 評価に基づき、具体策を追加・修正できる。
- 2) 医療チームメンバーとの連携を通して、期待される看護の役割を理解できる。
- 3) 高齢者および家族が必要としている社会資源と継続看護の必要性が理解できる。
- 4) 地域にむけて継続看護の必要性が理解できる。
- 5) 高齢者の人権を尊重する態度と高齢者観を深め、今後の自己の課題を明確にできる。

#### ■実習履修資格者

①～⑥の単位を取得している者。

- ①人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ
- ②疾病・治療論各論Ⅰ～Ⅴ
- ③看護基礎実習Ⅰ
- ④看護基礎実習Ⅱ
- ⑤高齢者看護学概論
- ⑥高齢者看護援助論Ⅰ～Ⅲ

#### ■実習時期及び実習日数・時間

- ・実習時期:3年前期
- ・実習日数:2週間
- ・実習時間:8:30～16:00

#### ■実習上の注意

実習要項(共通及び高齢者看護学実習)を参照し、遵守すること。

#### ■評価方法

高齢者看護学実習Ⅱの目標を評価基準として、実習内容、実習中の態度、課題/提出記録、出席状況等踏まえて単位認定者が総合的に評価、判定する。詳細は別紙評価表参照。

科目名	在宅看護学実習	担当教員 (単位認定者)	丸岡 紀子	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	3年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「在宅看護学」			
キーワード	在宅看護、訪問看護、多職種連携、ケアマネジメント				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔目的〕

- ①地域で生活している人々のうち、特にケアニーズの高い人々の生活の実状とそこで展開されている看護の実際を知り、地域での個別援助について学ぶ。
- ②地域ケアサービスシステムの一環としての訪問看護に関わる看護職の機能と役割について考える。

##### 〔到達目標〕

- ①在宅療養者と家族の医療・看護・介護上のニーズを把握し、看護計画を立てることができる。
- ②個別の在宅療養者の生活実態に即して、基礎的看護技術を応用し、必要な看護を実践し、評価することができる。
- ③施設看護（病院等）と対比し、在宅看護（介護）が備えるべき条件を考えることができる。
- ④在宅療養者を支援するケアサービス、関係する機関、職種について理解し、連携やケアマネジメントのあり方を考えることができる。
- ⑤個別事例の連携・ケアマネジメントをととして、地域ケアサービスのシステム化（地域ケアコーディネーション）の有効性について理解できる。

#### ■実習履修資格者

以下の要件をすべて満たしている者が、在宅看護学実習に臨むことができる。

- 1) 人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ、疾病治療論各論Ⅰ～Ⅴ。
- 2) 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ及びすべての領域別看護学実習の単位修得。
- 3) 在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護援助技術の単位修得。

#### ■実習時期及び実習日数・時間

実習時期：平成 26 年 6 月 9 日（月）～ 11 月 21 日（金）

実習日数・実習時間：10 日間（90 時間）

実習施設：群馬県内の訪問看護ステーション

※実習方法の詳細は「臨地実習要項 在宅看護論実習」に提示する。

#### ■実習上の注意

「臨地実習要項 在宅看護実習」に沿って実習を行う。

- 1) 在宅看護論実習では生活の場や保健福祉行政機関等、様々な住民がいる場につくため、施設の内外を問わず言動には十分注意し、不用意に対象者の話をしない等、社会人として責任ある態度で臨むこと。
- 2) 訪問看護では対象者・家族がホスト、看護師がゲストという立場である。常に対象者・家族の了解と協力を得るよう務め、言葉づかいや身だしなみに注意を払うこと。
- 3) 訪問看護ステーションから提供された情報や実習記録等、個人のプライバシーに関わる記録物については取り扱いに十分注意し、放置・紛失しないこと。
- 4) 服装・身だしなみは他家を訪問するマナーに見合ったもの、看護行為の提供に支障のないものに心掛けること。

#### ■評価方法

1) 評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。

- ① 出席状況。
- ② 実習内容：実習目的・目標に対する達成状況。
- ③ 実習態度。
- ④ 実習記録・レポート。

※実習時間の 4/5 以上の出席を要する。

2) 評価手順と方法：

- ① 自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。
- ② 提出物：実習終了時に既定の評価表、記録、レポートを提出する。
- ③ 上記により、A,B,C,D の 4 段階で総合的に評価する。

科目名	公衆衛生看護学原論	担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期選択科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「公衆衛生看護学」			
キーワード	公衆衛生 公衆衛生看護 社会環境 保健関連行動 健康課題 保健師の役割				

#### ■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

公衆衛生看護学の存立基盤を具体的に理解し、公衆衛生看護職の役割を明確に学ぶ。

[到達目標]

- ①公衆衛生看護学の基本概念を公衆衛生との関連で捉えることができる。
- ②公衆衛生看護の現在的課題を社会環境の歴史的・社会的背景との関連で理解することができる。
- ③人々の健康関連行動を具体的に理解し、健康レベル・ライフステージ・個と集団等の側面から、保健師の役割を述べる  
ことができる。

#### ■授業の概要

2年次の地域看護学学習の基礎の上に、公衆衛生看護学の存立基盤を学び、公衆衛生看護職の役割を理解する明確に学ぶ。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	◇科目オリエンテーション 公衆衛生看護学の理念と目的	
第2回	公衆衛生看護活動の実際と保健師の役割	
第3回	公衆衛生看護学領域で活用される概念	
第4回	人々の保健関連行動	
第5回	社会環境の変化と健康課題(1) 社会情勢の変遷	担当 松田正己
第6回	社会環境の変化と健康課題(2) 国際交流・国際協力	〃 松田正己
第7回	社会環境の変化と健康課題(3) 健康に関連する生活環境と社会要因	〃 松田正己
第8回	公衆衛生看護の歴史から学ぶ	

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

自身や家族・身近な人々の健康や保健行動に関心を持ち、主体的に学習してください。

2年次の地域看護学概論・地域看護学活動論学習を復習しつつ、さらに深めるよう心掛けてください。

変更がある場合は前の週の授業か掲示で知らせるので、常に注意を払ってください。

遅刻・早退・欠席等は可能な限り事前に連絡し、プリント・資料等は自己責任で入手し、学習してください。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

各自の住所地の公衆衛生看護活動についての学習や、国内各地や外国の公衆衛生看護の独自活動の歴史等を個人・グループで学ぶなど、主体的な学習課題を行う。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験、課題レポート、受講態度により評価する。

#### ■教科書

- ①最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論 金川克子編著 メヂカルフレンド社
- ②公衆衛生看護学 津村智恵子他編 中央法規
- ③厚生統計協会：国民衛生の動向、2013/2014

#### ■参考書

随時提示する。

科目名	学校保健活動論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期必修科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「公衆衛生看護学」			
キーワード	学校保健計画 保健管理 保健教育 組織活動				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

学校保健の歴史に基づき、制度や組織について理解する。

##### 〔到達目標〕

学校保健について概観し、具体的な学校保健活動について学びを進める中で、学校保健の意義を明確に示すことができる。

#### ■授業の概要

学校保健の歴史・制度・組織について概観し、学校保健活動における中核としての保健管理と保健指導について論じる。また、学校安全と食育を加えながら、具体的な学校保健活動を通して、関連機関や人的資源との連携について教授する。また、学校保健における今日的な課題を演習し、課題の解決に向けた取り組みについても理解を深める。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・学校保健とはなにか、学校保健の歴史と制度
第2回	学校保健計画の概要、学校における保健管理
第3回	学校における保健教育、保健指導と保健学習
第4回	学校保健に関する組織活動
第5回	学校保健の評価
第6回	学校安全について
第7回	食育及び学校給食に関する事項
第8回	保健室の主な機能と養護教諭の役割

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
- ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。

##### 〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。
- ・授業の流れや雰囲気や迷惑を及ぼしたり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ・学校保健活動に関する情報（新聞記事、文献等）を収集する。一つ取り上げ、その内容を要約し、意見・感想をまとめ、3分間スピーチで語る。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験（客観・論述）70%、レポート30%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）。

総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

#### ■教科書

学校保健・安全実務研究会編：新訂版 学校保健実務必携《第2次改定版》、第一法規、2011

#### ■参考書

松本千明 著：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、医歯薬出版、2011

学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育：文部科学省、2012

徳山美智子 他 編：改訂 学校保健 ヘルスポモーションの視点と教職員の役割の明確化 東山書房、2012

喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導参考資料 中学校編：日本学校保健会、2012

保健室経営計画作成の手引き：日本学校保健会、2009

保健主事のための実務ハンドブック：文部科学省、2011



科目名	学校保健活動論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「公衆衛生看護学」			
キーワード	学校保健安全計画 感染予防 学校環境衛生				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

学校保健安全計画に沿って、養護教諭が行う具体的な活動の場面を理解する。

##### 〔到達目標〕

健康観察・健康診断・感染予防や危機管理・学校環境衛生などの実技を身に付けることができる。

#### ■授業の概要

学校保健活動論Ⅰで学んだ概論に基づいて、学校保健安全計画に沿って、養護教諭が行う具体的な活動の場面が理解できるように、項目ごとに具体例をあげながら教授する。また、具体的な項目ごとの、健康観察・健康診断・感染予防や危機管理・学校環境衛生などの実技が身に付くように演習を行う。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・学校教育と学校保健の概要（講義）
第2回	学校保健安全計画の立案（講義・演習）
第3回	子どもの発育発達とヘルスプロモーション（講義）
第4回	健康観察の趣旨と実際（講義・演習）
第5回	健康診断の目的と実際（講義・演習）
第6回	感染予防・学校の危機管理（講義・演習）
第7回	学校環境衛生1（講義・演習）
第8回	学校環境衛生2（演習）

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。

・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。

##### 〔受講のルール〕

・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

・学校における感染予防や危機管理に関する情報に関する情報（新聞記事、文献等）を収集する。一つ取り上げ、その内容を要約し、意見・感想をまとめ、3分間スピーチで語る。

・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

筆記試験（客観・論述）70%、レポート30%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）。

総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

#### ■教科書

学校保健・安全実務研究会編：新訂版 学校保健実務必携《第2次改定版》、第一法規、2011

#### ■参考書

松本千明 著：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、医歯薬出版、2011

徳山美智子・中桐佐智子・岡田加奈子：改訂 学校保健安全法に対応した学校保健、東山書房、2012

保健室経営計画作成の手引き、日本学校保健会、2011

科目名	看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップ	担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「統合分野」			
キーワード	看護活動、メンバーシップ、リーダーシップ				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

看護活動の場において展開される看護マネジメントの基本と原則を習得し、将来看護活動の場で活用できるための基礎を学ぶ。

#### 〔到達目標〕

- ①看護マネジメントの基本と原則について理解できる。
- ②看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップについて理解できる。
- ③実習体験を通して気づいた自己のメンバーシップ・リーダーシップの傾向を理解する。

### ■授業の概要

看護の機能するあらゆる場における看護マネジメントの基本ならびにメンバーシップ・リーダーシップ役割について、講義・グループワーク等の方法を用いて理解を深める。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	1. マネジメントとは・看護におけるマネジメント 2. サービスとは・医療サービス 3. 看護マネジメントの考え方の変遷
第2回	1. 組織目標達成のマネジメント 2. チーム医療・他職種との協働 3. 協働のためのマネジメント
第3回	1. 病院・看護部組織 2. 看護部門の職務と看護単位 3. 看護ケア提供システムと看護基準・手順
第4回	1. リーダーシップ 2. メンバーシップ 3. タイムマネジメント
第5回	グループワーク 「チーム医療における看護の役割」
第6回	グループワーク 発表
第7回	グループワーク 「臨床実習においてどのようなメンバーシップ・リーダーシップを目指すか」
第8回	グループワーク 発表

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・グループワークや発表等いずれにもメンバーシップ・リーダーシップの学びを活用しながら進めていく。
- ・積極的に参加されることを期待する。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ・看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップに関する情報（実習体験・新聞記事等）を収集する。
- ・疑問な点は自分で調べ、授業で問題解決するように努力すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

授業態度、出席状況、定期試験、課題レポートにより、総合的に評価する。

### ■教科書

上泉和子他：系統看護学講座：看護の統合と実践 [1] 看護管理 2013年改訂 医学書院

### ■参考書

- ① P.F. ドラッカー；上田惇生編訳：マネジメントー基本と原則、ダイヤモンド社、2013.
- ② 原玲子：看護マネジメント入門、日本看護協会出版会、2013.
- ③ 三隅二不二：リーダーシップとはなにか、リーダーシップ理論の原理と応用、看護展望、1980.
- ④ Hearsey, P. & Branchard, K. H.; 山本成二他訳：行動科学の展開、人的資源の活用、日本生産性本部出版、2001.
- ⑤ Clifford, J. C.; 大卒看護婦スタッフを中心とした病院看護サービス、ベス・イスラエル病院の看護革命、INR (日本語版)、1985.
- ⑥ アンディクソン；山本光子訳：アサーティブネスのすすめ、柘植書房、1991.

科目名	看護研究概論	担当教員 (単位認定者)	西山 智春	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験試験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「統合分野」			
キーワード	看護研究、EBN、研究倫理、質的研究、量的研究、文献検討、クリティーク				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

看護研究の意義、目的、看護実践としての看護研究の特徴やあり方について理解し、看護研究を実施するために必要な基礎的能力を習得する。

##### 〔到達目標〕

- ①看護研究の特徴（定義、種類、方法、一連の過程）を理解する。
- ②看護研究における倫理的配慮の重要性を理解し、研究対象者の人権を擁護するために必要不可欠な研究者としての態度や行動を考察する。
- ③上記①・②の学習を通じ、実践科学としての看護研究の意義、あり方について考察する。
- ④看護研究に研究的・主体的態度で臨むことの重要性を理解するとともに、看護研究を実施するための自らの課題を明確にする。

#### ■授業の概要

看護実践の質の向上、看護学の発展、看護専門職の専門性を発展させる上で、看護研究は必要不可欠である。本科目では、看護研究の意義や目的、看護研究における倫理、実践科学としての看護研究のあり方について論及し、看護研究を行う上で必要な知識を教授するとともに、看護学の初学者として看護研究とどのように関わっていく必要があるのかについて考える機会とする。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/看護研究の定義、意義、看護実践と看護研究の関係
第2回	看護研究の過程と概観：研究の6段階とその特徴、問題の発見と焦点化（リアルリーズンとグッドリーズン）
第3回	看護研究における倫理 [1]: ケアの受け手である研究対象者の特徴、看護研究における倫理上の原則
第4回	看護研究における倫理 [2]: 研究対象者への研究説明書・同意書の作成
第5回	看護研究のタイプ [1]: 看護研究における量的研究
第6回	看護研究のタイプ [2]: 看護研究における質的研究
第7回	看護研究における文献検討: 文献検討の意義、文献の読み方（クリティーク）、文献整理の方法、文献の活用方法
第8回	看護研究およびEBN（Evidence Based Nursing）の発展のための課題、総括

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

・上記「授業計画」を参考に、教科書の該当箇所を精読し、予習を行う。

##### 〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ～Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方、文献検索等）を活用すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・授業中に提示された課題の提出期限は必ず厳守すること。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むこと。
- ・授業中に提示された課題には真剣に取り組むこと。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

課題レポート 90%、授業態度・出席状況 10%により総合的に評価する。

#### ■教科書

- ①南裕子：看護における研究，日本看護協会出版会，2008。
- ②日本看護協会編：日本看護協会看護業務基準集 2007年改訂版，日本看護協会出版会，2007。

#### ■参考書

- ・小笠原知枝，松木光子編：これからの看護研究-基礎と応用-第3版，ヌーヴェルヒロカワ，2012。
- ・D.F. ポーリット，C.T. ベック著：看護研究-原理と方法-第2版，医学書院，2010。

科目名	生徒指導論	担当教員 (単位認定者)	片山 哲也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	3年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	生徒指導の機能、積極的な生徒指導、教育の現代的課題、個別の問題行動				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

将来養護教諭として学校で生徒を指導する側に立つ事を想定して、生徒指導の基本理念を身につけて児童生徒理解が出来るようにし、かつ生徒指導が実践できる資質能力をつける。

##### 〔到達目標〕

- ①生徒指導の意義と原理について理解できる。
- ②生徒指導と教科、道徳、特別活動、総合等との関係、地域や関係機関との連携等について理解する。
- ③いじめ、不登校、非行問題等児童・生徒の問題と今日的な保護者のあり方などについての課題と対応策について理解したり、養護教諭としての関わり方について理解する。
- ④C&Sアンケートや発達障害スクリーニングテスト、構造的グループエンカウンターやロールレタリング等の実技を伴う生徒指導技術の知識を得る。

#### ■授業の概要

- (1) 授業形態は講義とグループ学習で行う。講義は基本理念を、グループ学習は学生が学ぶ意味を持つことが出来るようにするため演習的な課題解決学習とする。
- (2) 生徒指導の教育課程との関係や地域連携など具体的事例を多く取り入れ実践的資質の向上を図る学習とする。
- (3) 現在学校で行われているアンケートやテストなど具体的技術を実践し、活用方法を身に付ける学習とする。
- (4) 生徒指導は人間教育であることを理解し、学生自身の自己指導能力を高める学習とする。
- (5) 第8回は全員参加方式のシンポジウム形式による意見交換、情報交換、質疑により教育実習前の準備学習とする。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	生徒指導論オリエンテーション、(指導計画とレポートについて)、生徒指導の意義と原理、アイスブレイキング、グループ作り
第2回	実習「学級の雰囲気と自己肯定感(C&S) アンケート実践1質問、C&Sの意義と活用、第3回授業課題提示(生徒指導提要第2章から)
第3回	生徒指導の歴史(郷中教育・子ども・若者白書から学ぶ)、教育課程と生徒指導について課題発表と講義
第4回	C&Sアンケートの実践2(集計)、第5回授業課題提示(生徒指導提要第3章から)
第5回	生徒指導のための児童生徒理解について課題発表と講義
第6回	ロールレタリングの手法、ロールレタリング1、第7回授業の課題提示(生徒指導提要第4章から)
第7回	生徒指導のための学校の指導体制について課題発表と講義
第8回	ロールレタリング2、第9回授業の課題提示(生徒指導提要第5章から)
第9回	生徒指導のための教育相談について課題発表と講義(実践事例2件)
第10回	構造的グループエンカウンター、ロールレタリング3、第11回授業の課題提示(生徒指導提要第6章Iから)
第11回	生徒指導の進め方I、課題発表と講義、自己指導能力(基本的生活習慣、特に食生活)レポートについて
第12回	発達障害スクリーニングテスト実践と各種検査について、第13回授業の課題提示(生徒指導提要第6章II)
第13回	生徒指導の進め方II、課題発表と講義、特にいじめ、不登校、ICT関連問題は新聞記事を使って意見集約
第14回	生徒指導に関する法制度概要、生徒指導の為の地域・関係機関との連携、講義 シンポジウム課題提示とグループ分け、C&S実践3質問2回目
第15回	シンポジウム(全員が3課題のうち的一件についてシンポジストとして発言)課題1、児童生徒の命、いじめの根絶 課題2、教育実習への不安と期待 課題3、若者の未来づくり C&S第2回の集計結果

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生にかかわる情報〕

・授業の中でグループでの課題発表を行います。第3回より13回の間で必ず1回は実施します。

##### 〔受講のルール〕

- ・発表、手紙、実習などを多く取り入れた授業です。積極的に授業参加して下さい。
- ・生徒指導をする教師には人間的資質の高さが必要です。講義を通じて人間力向上を目指して下さい。
- ・相互に(講師と受講者)尊敬しあえる人間関係を築き、学べる事に感謝して、社会に出る心構えを作りましょう。
- ・テキスト「生徒指導提要」は一括購入し第1回授業で手交。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

4月5月の間の いじめ、自死事件、不登校、ニート、SNS等情報関連、特別支援教育などの新聞記事を積極的にスクラップしておくこと。

#### ■オフィスアワー

質問等はメールにて受付ける予定。

#### ■評価方法

- ①試験(論述)50%
- ②レポート20%
- ③グループ発表30%

#### ■教科書

「生徒指導提要」 著作・出版 文部科学省 300円(送料10円含む)

#### ■参考書

子ども・若者白書(内閣府)



科目名	教職実践演習	担当教員 (単位認定者)	樺沢 俊	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	3年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	学校教育 教育実践 養護教諭				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

学校教育について教職の意義および教員の役割と職務内容について理解し、養護教諭の視点から構想する学校づくりを考え、保健室経営案を作成する。さらに健康教育の観点から学習指導案を立案することを通して、健康・安全で活力ある生活を送る基礎形成の重要性を理解する。

##### 〔到達目標〕

教職に関する科目と、養護に関する科目の学校保健活動論Ⅰ・学校保健活動論Ⅱ・養護概説で学んだ内容の統合を図り、使命感や責任感に裏付けられた確実な実践的指導力および対応力を有する養護教諭としての資質能力を身に付けることができる。

#### ■授業の概要

学校教育における諸活動を通じて、養護教諭の実践的指導力および対応力が身に付くように、講義や演習、ロールプレイやプレゼンテーションなどを組み合わせて、実際の学校教育の場を想定した教育課題を取り扱う。また、専門的な事項や現場における諸活動についての理解を深めることができるように構成する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	教職の意義および教員の役割と職務内容
第3回	教育の本質と教育に関する考え方
第4回	発達段階に応じた学習や指導の過程
第5回	子どもの権利条約と養護教諭
第6回	学校教育の制度と教育課程の編成
第7回	教育方法と技術
第8回	特別活動・総合的な学習の時間などにおける養護教諭の関わり
第9回	習熟度別少人数指導・特別支援教育
第10回	論文1「論文作成と答案例および解説」
第11回	論文2「小論文の基礎・基本」
第12回	論文3「小論文・面接試験の攻略法、論文作成」
第13回	生徒指導・キャリア教育・教育相談と養護教諭
第14回	PTA・学校評議員会・学校保健会委員会・地域活動諸団体などとの連携（グループ討議と発表）
第15回	養護教諭の視点から構想する学校づくり～保健室経営案を中心に～（演習）

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

1・2年次および3年次前期で学んだ科目内容を基に授業を行うので、予習段階での疑問点などは関連する科目の教科書や文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。  
○授業中、他の学生の学習権を侵害する行為（私語・複数回の遅刻・不適切な授業態度など）には注意を促し、改善が見られない場合は、当該学生と面談して相応な対処を行う。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

新聞記事やインターネット、文献などから学校教育に関する情報収集を行い、グループで一つ選び、討議後に発表する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

評価方法 筆記試験 50% 課題レポート 40% 出欠状況 10%

#### ■教科書

学校保健・安全実務研究会：新訂版 学校保健実務必携《第3次改定版》、第一法規、2014  
 文部科学省：小学校学習指導要領解説 総則編、体育編、特別活動編、総合的な学習の時間編、2008  
 文部科学省：中学校学習指導要領解説 総則編、保健体育編、特別活動編、総合的な学習の時間編、2008  
 文部科学省：高等学校学習指導要領解説 総則編、保健体育編、総合的な学習の時間編、2009

#### ■参考書

文部科学省：今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）（中学校編）、2010  
 文部科学省：今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（高等学校編）、2013  
 思考力の育成を重視したこれからの高等学校保健学習：日本学校保健会、2009  
 小学校保健学習の指導と評価：日本学校保健会、2004  
 実践力を育てる中学校保健学習のプラン：日本学校保健会、2005



科目名	教育社会学	担当教員 (単位認定者)	片山 哲也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	3年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	教育の現代的課題、教育の未来構想図、教育の社会的意義				

### ■授業の目的・到達目標

#### 〔授業の目的〕

将来養護教諭として学校で児童生徒を指導するに当たって、必要な資質を身につけることを目的とする。その必要な資質として教育社会学の側面から学校、家庭、地域社会、関係機関などの教育機能や課題を理解し、社会、文化、経済など社会の諸機能との相互の関係をつかむ。そして未来社会を作る教育のあり方を創造する養護教諭の資質能力をつける。

#### 〔到達目標〕

- ①教育社会学を学ぶ意義がわかる。
- ②学校・家庭・地域社会・職場などの教育機能を理解する。
- ③社会が持つ様々な教育機能を明らかにし、その教育的効果を理解する。
- ④青少年を取り巻く教育問題をとらえ、その対応策について自己の考え方を探求する。
- ⑤教育がいかにあるかを理解した上で、教育がいかにあるべきかについて探求する。

### ■授業の概要

\* 授業形態は講義で現状分析し、グループ討議で今後のあり方を考える、という形式を取りながら、各自が積極的な授業参加を図る。11回以降はテキストをグループや個人で分析し授業者の立場で課題発表する。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーリング(授業方法、授業計画、)教育社会学を学ぶ意義、各自の成育に関わった社会環境を洗い出し本授業の意義を確かめる。(説明、講義、課題探求)
第2回	教育がいかにあるか(学校の機能、指導要領、家庭の教育機能、地域社会の教育機能、文部科学省の示す教育の課題、)講義 教育がいかにあるべきか(今日の授業から教育のどんな側面が見えるか)グループ討議、グループ発表
第3回	教育がいかにあるか(学校の機能、特色ある教育活動、スクールオブザイヤー最優秀・優秀校の実践を知る。)講義、教育がいかにあるべきか(教育活動に必要なものは何か)グループ討議・発表
第4回	教育がいかにあるか(社会教育が担う活動を知る、少年の船、おいつき冒険隊のVTR、プログラム。社会教育団体の活動)講義 教育がいかにあるべきか(教育活動に必要なもの)グループ討議・発表
第5回	教育がいかにあるか(生涯学習時代の意味するもの、地域社会の教育機能、草刈り十字軍、山村留学、通学合宿、農業学校、自然塾等)講義 教育がいかにあるべきか(体験活動は何をもたらすか、)グループ討議、発表
第6回	教育がいかにあるか(社会が学校に求める教育機能、食育、防災、消費者、キャリア、伝統文化、情報、シティズンシップ、金融、租税、人権、性、)講義。 教育がいかにあるべきか(学校は社会の要請にどう応えるか)グループ討議・発表
第7回	教育がいかにあるか(人類が求める教育機能、ユニセフ、ユネスコ、ESD、ネルソン・マンデラ、マララ・ユフザイ)講義 教育がいかにあるべきか(学校は社会の要請にどう応えるか)グループ討議・発表
第8回	教育がいかにあるか(行政の子育て支援や青少年育成、図書館、博物館、美術館、青少年施設等の教育的機能)講義 教育がいかにあるべきか(これらに必要な子どもや青少年のための施設等)グループ討議・発表
第9回	教育がいかにあるか(特別支援教育を知る、学校、施策、民間の活動)1つの教育技術「エコグラム」に挑戦、教育がいかにあるべきか(特別支援教育にどう関わられるか)グループ討議、発表
第10回	教育がいかにあるか(教職員の現職教育、総合教育センター、ぐんま教育賞、教育研究所、校内研修)1つの教育技術「エコグラム」に挑戦II 教育がいかにあるべきか(教職員は何を学ぶなければならないか)グループ討議・発表
第11回	教育がいかにあるか(子ども・若者白書1部、第1章、第2章、第3章の統計資料から青少年の現状をつかむ)グループ発表、教育がいかにあるべきか(白書の現状から問題をつかみ今後の姿を想定する)グループ発表
第12回	教育がいかにあるか(子ども・若者白書1部、第4章、第5章、特集の資料から青少年の現状をつかむ)グループ発表、教育がいかにあるべきか(白書の現状から問題をつかみ今後の姿を想定する)グループ発表
第13回	教育がいかにあるか(子ども・若者白書2部、第1章、第2章、の資料から青少年育成施策の現状をつかむ)グループ発表、教育がいかにあるべきか(白書の施策から課題をつかみ今後のあり方を探求する)グループ発表
第14回	教育がいかにあるか(子ども・若者白書2部、第3章、第4章、の資料から青少年育成施策の現状をつかむ)グループ発表、教育がいかにあるべきか(白書の施策から課題をつかみ今後のあり方を探求する)グループ発表
第15回	全員参加のパネルディスカッション(テーマ、私の考える子ども・若者育成のあり方-連携一、一体験一、一社会の責任一、一心の育成一等をキーワードに2又は3グループでディスカッション。授業のまとめと評価

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### 〔受講生にかかわる情報〕

\* 毎時間前半の講義の後はグループで意見交換しまとめを発表します。プレゼンの力は教師の最も大切な資質です。授業の中に自ら多くの機会を作ること。

#### 〔受講のルール〕

\* 講義はノート記述が主な方法になり、授業時間内にグループ討議が必ず毎時間あります。授業の静と動共に高い参画意識を必要とします授業参加を通じて自らを高められる時間とすること。

\* 前半の講義資料は講師の配布資料、11回からは内閣府発行の「子ども・若者白書」をテキストとします。入手方法は講義内に説明します。文部科学省発行の「小学校指導要領総則」は講師が一括購入します。(110円程度受講者負担)

### ■授業時間外学習にかかわる情報

\* 各自授業中に行うアイスブレーキングを1つ考えておき、急な指名に答えられるようにしておくこと。

\* 教育に関する様々なニュースを日々確認しておくこと。

### ■オフィスアワー

授業後即時質問するか、授業後のメモに記入して提出すること。次回に答えます。

### ■評価方法

試験 50%、授業発表 30%、レポート 20% (全出席者、欠席は減点します。)

### ■教科書

「子ども・若者白書」内閣府 1900円、「小学校指導要領総則」文部科学省 110円。入手方法は講義で説明

### ■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	疫学・保健統計の実際	担当教員 (単位認定者)	吉村 健佑	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	3年後期選択科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	予防医学の手法、臨床疫学、保健活動の立案、費用対効果				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

疫学研究の情報を収集し、結果を吟味し、実際の保健活動に応用することができるようになることを目的とする。

##### 〔到達目標〕

- ①看護師国家試験・保健師国家試験の過去問を確実に解答できるようになる。
- ②既存の研究データを収集し、批判的吟味を加えることができる。
- ③科学的根拠に基づいた保健活動を具体的に計画できる。

#### ■授業の概要

保健活動を行う上で、科学的根拠に基づいて計画をたてることが必須である。この授業では、基礎編の復習から開始し、将来科学的根拠に基づいて行動できる保健師・看護師となることができるように、その考え方と手法を具体的に学ぶ。実際の研究論文（和文・英文）を読み込みながら、授業をすすめる。最終日にはグループ別に保健活動計画の発表を行う。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目のガイダンス、成績評価の方法、基礎編の復習①教科書2章、3章
第2回	基礎編の復習②教科書5章、7章
第3回	総論：「なぜ科学的根拠に基づく保健活動が必要か？」レポート課題①提示
第4回	総論：「研究結果を吟味するとはどういうことか？」
第5回	臨床課題を見つける方法：「データから見つけるか、現場から見つけるか」
第6回	臨床課題を定式化する方法：「自分は何がしたいのか？」レポート課題②提示
第7回	先行研究を検索する方法：「英語で論文検索できるようになる！」
第8回	先行研究を吟味する方法：「いい論文、悪い論文を見分ける！」
第9回	疫学研究の進め方①研究の目的と方法を考える レポート課題③提示
第10回	疫学研究の進め方②データの解析方法
第11回	保健活動計画を立案するヒント①目的、期間、ターゲット、アウトカムの設定
第12回	保健活動計画を立案するヒント②費用、倫理的配慮、結果の解析と公表 レポート課題④提示
第13回	保健活動計画発表会①
第14回	保健活動計画発表会②
第15回	解説と講評、表彰式、講義の総まとめ レポート課題⑤提示

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ・疫学・保健統計の基礎の内容を十分に復習して出席して欲しい。
- ・1日3コマの集中講義で行うため、1日欠席すると内容についてこれなくなる可能性がある。
- ・英文を読む課題も含まれるので、電子辞書の持参が望ましい。

##### 〔受講のルール〕

- ・授業の中でグループワークも行う。積極的に参加すること。
- ・授業中も質問する、すすんで意見を言うなどの積極的な態度を望む。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

提示するテキスト、論文等は読んでおくこと。毎回課題を提示するので、次の授業開始時に提出すること。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

毎回出される課題に対するレポートの合計（70%）、保健活動計画の発表（30%）

#### ■教科書

- ①楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計改訂2版。南山堂,2013.

#### ■参考書

- ①木原雅子訳：医学的研究のデザイン第3版。メディカル・サイエンス・インターナショナル,2009.
- ②福原俊一：臨床研究の道標。健康医療評価研究機構,2013.

科目名	看護関連法規	担当教員 (単位認定者)	青木 康子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「社会科学系(保健医療福祉)」			
キーワード	看護師とは、専門職性、看護師の独占業務、看護師の責務				

#### ■授業の目的・到達目標

〔目的〕

看護師の身分・業務に関する法令を理解するとともに関連領域の法令との関係を知る。

〔目標〕

- ①看護師の法的身分について理解する。
- ②看護師の業務に関する法令を理解する。
- ③看護師の業務と関連する領域の法令を学習しその必要性を理解する。

#### ■授業の概要

看護師として活動するにあたって必要な法規について、関連領域との関連を含めて説明する。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	法の概念について
第2回	保健師助産師看護師法について
第3回	保健師助産師看護師法および関連する法令について
第4回	医事法について
第5回	保健衛生関連の法令について
第6回	福祉関連の法令について
第7回	労働衛生関連の法令について
第8回	今後の展望・まとめ

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

〔情報〕

予習・復習は必ず行うこと。

〔ルール〕

- ①シラバスを確認し積極的に授業に臨むこと。
- ②授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

#### ■教科書

系統看護学講座専門基礎分野「健康支援と社会保障制度」(4)看護関連法令 医学書院 2014年版

#### ■参考書

「看護法令要覧」日本看護協会出版会 平成26年版

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	丸岡 紀子	単位数 (時間数)	2 (15)
履修要件	3年後期選択科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「公衆衛生看護学」			
キーワード	健康診査 健康相談、家庭訪問、健康教育				

### ■授業の目的・到達目標

#### [ 授業の目的 ]

地域を構成する人々の心身の健康、疾病・障害の予防、発生、回復、改善の過程のアセスメント及び健康課題の明確化について理解するとともに、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術の選択及び支援方法について理解する。

#### [ 到達目標 ]

1. 保健指導に有効な理論の概要がわかる。
2. 「個」「家族」への援助技術である家庭訪問の目的、対象、展開方法の概要を述べられる。
3. 家庭訪問のプロセスを理解し、対象把握、優先度、接近技法・技術を使って学内において模擬的に展開することができる。
4. 健康相談の対象、方法が述べられる。
5. 健康相談、個人に対する健康教育に関する理論を使って学内において模擬的な健康相談を実施することができる。
6. ライフステージ毎の対象者の発達課題、健康課題を理解し、保健指導に必要な基礎知識を述べられる。
7. 「個」から「地域」へ広げる意義、必要性を述べられる。

### ■授業の概要

本科目及び公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護活動論Ⅲを通して、「個」から「地域」へ広げる保健師活動の展開に必要な知識・技術を学ぶ。本科目では、個人・家族に対する健康支援方法（健康診査、健康相談、家庭訪問、健康教育）の獲得に必要な知識、理論、技術を学ぶ。また、本科目では人の一生を通してすべての人々を対象とし、各ライフステージの発達課題、健康課題を理解することで人々が主体的に問題を解決することを支援する方法を学ぶ。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 公衆衛生看護における技術
第2回	保健行動と保健指導の理論
第3回	健康相談 目的、対象、方法とその特徴、展開方法、種類、援助者の基本姿勢
第4回	健康診査 目的、対象、方法、周知方法と受信の動機付け、健診での保健指導
第5回	家庭訪問 目的、特徴、機能、プロセス、手順、プライバシーの配慮
第6回	乳幼児の成長・発達と保健指導
第7回	成人の生活と健康課題
第8回	高齢者の生活と健康、介護予防
第9回	特定健診、特定保健指導
第10回	特定保健指導 面接演習
第11回	特定保健指導 面接演習
第12回	家庭訪問 技術演習
第13回	家庭訪問 技術演習
第14回	演習のまとめ
第15回	「個」から「地域」に広げる保健師活動 担当 土屋和子

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### [ 受講生に関わる情報 ]

- ・予習をして臨むこと。
- ・演習時の服装は、普段着とエプロンとする。

#### [ 受講のルール ]

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

### ■授業時間外学習にかかわる情報

既習科目の知識を応用する内容である。授業に関わる内容に必要な既習の知識は復習をした上で授業に臨むこと。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験（客観・論述）60%、実技試験40%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）。

総合評価は筆記試験、実技試験ともに60%を超えていることが前提となる。

### ■教科書

中村裕美子他著：標準保健師講座2 地域看護技術. 医学書院. 2009  
 中谷芳美：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動. 医学出版. 2014  
 宮本ふみ：無名の語り. 医学書院. 2006  
 国民衛生の動向 2014/15. 厚生統計協会

### ■参考書

舟島なをみ：看護のための人間発達学第4版. 医学書院. 2009  
 中野綾美：ナーシンググラフィカ小児看護学(1)小児の発達と看護. メディカ出版. 2013  
 足達淑子：行動変容をサポートする保健指導バイタルポイント情報提供・動機付け支援・積極的支援. 医歯薬出版. 2007



科目名	公衆衛生看護活動論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	丸岡 紀子	単位数 (時間数)	2 (15)
履修要件	3年後期選択科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「公衆衛生看護学」			
キーワード	健康教育、グループ支援・組織化、住民参加、コミュニティーエンパワメント、地域ケアシステム				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔授業の目的〕

地域住民が抱える健康課題をアセスメントし、地域住民が自ら健康課題に取り組むグループを育成し、活動を支援方法について理解する。また個人・家族には住み慣れた地域で安心して暮らせるための地域ケアシステムの構築について理解する。

##### 〔到達目標〕

- ①地域に顕在化・潜在化しているヘルスニーズを捉え、保健対策・支援方法について理解する。
- ②地域のヘルスニーズに対して住民と共有化し、グループの育成・活動支援について理解する。
- ③健康教育の対象者（個人・集団）、種類と特徴について理解する。
- ④個人・集団が自らの健康課題に対して主体的に取り組める支援方法について理解する。
- ⑤地域ケアシステム概念を理解し、個人と組織の役割について理解する。
- ⑥地域住民、関係機関との連携・協働について理解し、効果的・効率的な地域ケアシステムについて考察することができる。

#### ■授業の概要

- ①地域組織活について理解し、グループに対する保健師の支援の在り方について学ぶ。
- ②保健師が行う個人・集団への健康教育の在り方、支援・展開方法について学ぶ。
- ③地域ケアシステム構築に対しての保健師の役割について学ぶ。

#### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	精神保健領域における健康相談	担当 丸岡紀子
第2回	難病・結核・感染症。HIV(AIDS)における健康相談	
第3回	グループ支援の意義、グループの理論(役割と機能)	
第4回	地域組織活動の理論、方法論	
第5回	セルフヘルプグループ、住民活動の支援と評価	担当 丸岡紀子・群馬ダルク
第6回	地域ケアシステム概念、役割と機能	
第7回	地域住民と関係機関との連携・協働	
第8回	保健・医療・福祉の連携とケアマネジメント	
第9回	地域特性の把握、地域診断の過程(情報収集とアセスメント)	
第10回	地域診断の過程(分析と診断、計画と実践、評価)、地区視診オリエンテーション、事前準備	担当 佐藤京子
第11回	演習 地域における連携と協働①	
第12回	演習 地域における連携と協働②	
第13回	演習 地域における連携と協働③	
第14回	演習 地域における連携と協働④	
第15回	地区視診の発表、まとめ	

#### ■受講生に関わる情報および受講のルール

##### 〔受講生に関わる情報〕

- ①自身や家族・身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講してください。
- ②教科書・プリント等は毎回持参してください。
- ③変更がある場合は前の週の授業が掲示で知らせるので、常に注意を払ってください。
- ④遅刻・早退・欠席等は可能な限り事前に連絡し、プリント・資料等は自己責任で入手し、学習してください。

##### 〔受講のルール〕

- ①受講態度の望ましくない場合は、退出させ、当該授業を欠席扱いとする。
- ②私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は当該授業について欠席扱いにする。
- ③レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。
- ④授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。

#### ■授業時間外学習にかかわる情報

各授業テーマについて、事前に教科書を読み、予習しておくこと。

#### ■オフィスアワー

なし

#### ■評価方法

- ①筆記試験 60% (教科書、講義内容全般から出題する)。
- ②演習課題 40% (提出期限を遵守する)。
- ③総合評価は、筆記試験とレポート課題を合わせて60%以上を超えていることが前提(詳細な評価基準は授業概要参照)。

#### ■教科書

中村裕美子他編:標準保健師講座2、地域看護技術、医学書院、2013  
中谷芳美他編:標準保健師講座2、対象別公衆衛生看護活動論、医学書院、2014

#### ■参考書

国民衛生の動向、2014/2015 厚生統計協会  
津村智恵子 上野昌江編:公衆衛生看護学、中央法規出版、2012  
平野かよ子編:ナースングラフィカ、健康支援と社会保障① 健康と社会・生活、メディカ出版、2013



科目名	産業保健論	担当教員 (単位認定者)		単位数 (時間数)	( )
履修要件	3年後期必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「公衆衛生看護学」			
キーワード					

■授業の目的・到達目標

--

■授業の概要

--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

■受講生に関わる情報および受講のルール

--

■授業時間外学習にかかわる情報

--

■オフィスアワー

--

■評価方法

--

■教科書

--

■参考書

--

科目名	養護概説	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	3年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「公衆衛生看護学」			
キーワード	養護教諭 保健教育 保健管理 組織活動				

### ■授業の目的・到達目標

#### [ 授業の目的 ]

養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯および、学校教育における養護教諭の役割について理解する。

#### [ 到達目標 ]

学校における保健管理・保健教育の内容と養護教諭の役割を理解し、子どもの現代的課題について情報の収集ができ、養護教諭の専門性について示すことができる。

### ■授業の概要

学校教育の場で、養護教諭の職務が円滑に進められるように、具体的で実践的な内容を基に次のような講義を行う。養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯および、学校教育における養護教諭の役割。学校における保健管理・保健教育の内容と養護教諭の役割。保健室の役割と保健室経営計画。養護教諭の関連職種・関連機関との連携方法。子どもの現代的課題について情報の収集。以上の学習を踏まえて、養護教諭の専門性について先行研究を確認しながら検討を行う。

### ■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・養護教諭の概念と職務の変遷
第2回	学校教育における養護教諭の役割1
第3回	学校教育における養護教諭の役割2
第4回	保健管理1 救急処置と健康観察
第5回	保健管理2 健康診断と疾病管理
第6回	保健管理3 学校環境衛生
第7回	保健教育1 教科における保健教育
第8回	保健教育2 特別活動などにおける保健指導
第9回	保健室の機能と役割
第10回	保健室経営における具体的な計画と実践
第11回	学校保健に関わる組織活動
第12回	学校における教育相談の基本的な考え方
第13回	子どもの現代的な課題と対策
第14回	学校における安全管理と危機管理
第15回	養護教諭の専門性と研修の姿勢

### ■受講生に関わる情報および受講のルール

#### [ 受講生に関わる情報 ]

- ・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
- ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。

#### [ 受講のルール ]

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など)を活用すること。
- ・授業の流れや雰囲気や混乱をきたしたり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。(評価には使わない)

### ■授業時間外学習にかかわる情報

- ・学校保健に関する情報(新聞記事、文献等)を収集する。一つ取り上げ、その内容を要約し、意見・感想をまとめ、3分間スピーチで語る。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

### ■オフィスアワー

なし

### ■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、レポート30%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)。  
総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

### ■教科書

采女智津江 編:新養護概説(第7版)、少年写真新聞社、2012  
日本学校保健会 編:児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)、2010

### ■参考書

大谷尚子、中桐佐智子 編:養護実習ハンドブック、東山書房、2012  
学校保健・安全実務研究会:新訂版 学校保健実務必携《第2次改定版》、第一法規、2011

科目名	施設・病棟統合実習	担当教員 (単位認定者)	倉島幸子・伊藤てる子 他	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	3年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「統合分野」			
キーワード	複数患者、優先順位、チーム医療、看護計画、看護管理				

#### ■授業の目的・到達目標

##### 〔目的〕

各看護学及び在宅看護論の実習の学びを基に、複数患者の看護援助の優先順位を判断しチームの一員として看護を実践し、看護専門職者としての自覚と責任を養う。また、看護管理の見学を通し、調整・マネジメントのあり方を学ぶ。

##### 〔目標〕

- 1) 数名の患者の看護援助の優先順位を判断し、看護を実践できる。また、時間管理の必要性を理解する。
- 2) 患者の治療・処置・診療の援助技術を対象の安全性や業務の効率性を考慮しながら、見学あるいは実施できる。
- 3) 患者がよりよく療養生活を送ることができるよう、看護チームの仕事の分業・協働・連携をどのようにしていけばよいかを理解できる。
- 4) 看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップについて理解できる。
- 5) 病棟における看護管理及び他部門との連絡調整の実際を学ぶ。
- 6) 統合実習を通して、看護の専門性について考え看護観を深める。

#### ■実習履修資格者

看護基礎実習・臨床看護学実習・老年看護学実習・精神看護学実習・在宅看護論実習・小児看護学実習・母性看護学実習科目を全て単位を修得していること。

#### ■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習時期 平成 26 年 12 月 1 日～ 12 日
2. 実習日数 10 日間
3. 時間 90 時間

#### ■実習上の注意

1. 具体的内容については、看護学実習の共通要綱及び施設・統合実習要項に準じ順守すること。
2. 事前学習を自己学習ノートにまとめておくこと。

#### ■評価方法

1. 出欠席と単位については看護学実習要綱共通編を参照すること。
2. 施設・病棟統合実習の実習評価表に基づき、目標の達成度、実習態度、提出された実習記録等によって評価する。